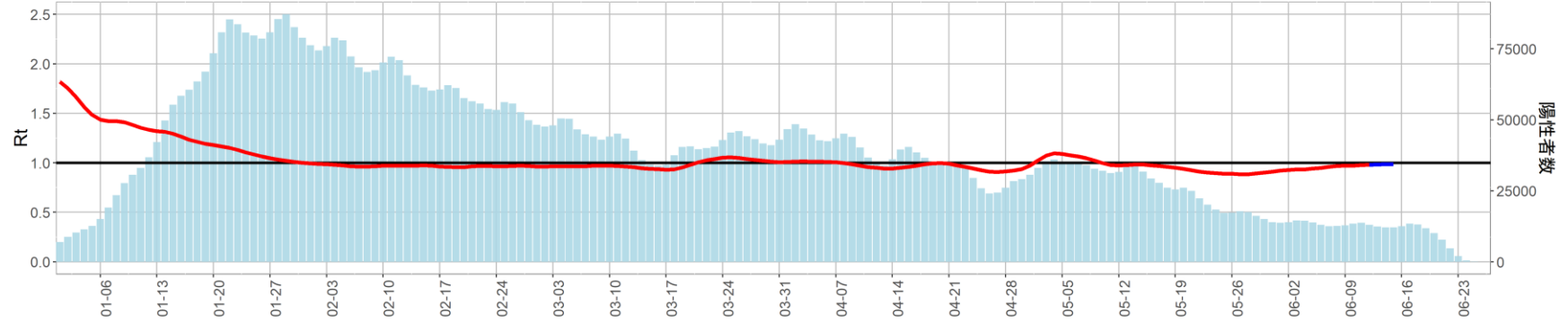


## 資料の要点：2022年6月30日時点

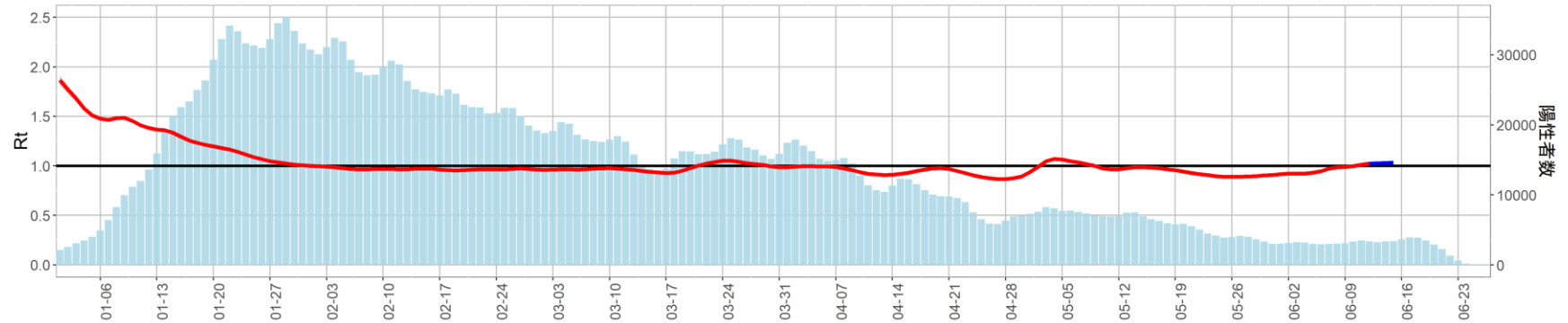
- 全国の実効再生産数は、ゴールデンウィーク明け以降、1を下回ったまま推移していたが、5月末以降は緩やかに上昇傾向となり、概ね値が確定した6月12日時点で**0.98**であった。地域によっては検査の遅れや入力が遅れが発生していることから、値の解釈には注意を要する（P2-6）。
- 年代別の新規症例数の推移（P7-15）、地域別の流行状況を図示した（P16-44）。
- 東京都、大阪府、北海道、沖縄県の流行状況をまとめた（P45-56）。
- 東京都、大阪府、北海道、沖縄県の新規症例数のリアルタイム予測を行った（P57-60）。
- 小児における流行状況をまとめた（P61-63）。
- 学校保健会が運用する学校等欠席者・感染症情報システムのデータを更新した（P64-72）。
- 民間検査機関の検体を用いたゲノムサーベイランスのデータを用いて、BA.2、BA.5検出割合の推定を更新した。また、検出割合を基に各株・系統の患者数を推定した（P73-80）。今後のBA.5の置き換えについて注視が必要である。

# 全国の実効再生産数（推定感染日毎）：6月27日作成

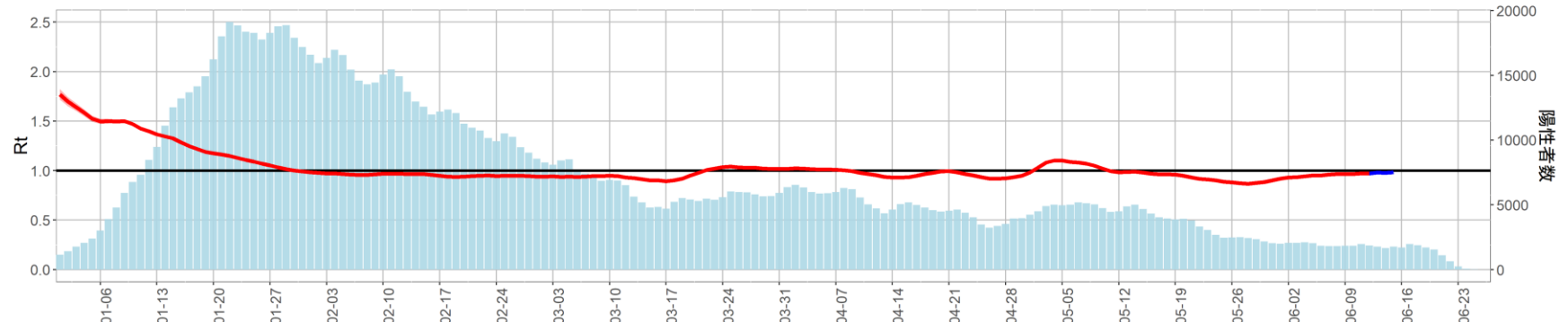
**全国**  
6月12日時点Rt=0.98 (0.97-0.99)



**首都圏：東京、神奈川、千葉、埼玉**  
6月12日時点Rt=1.02 (1.01-1.04)



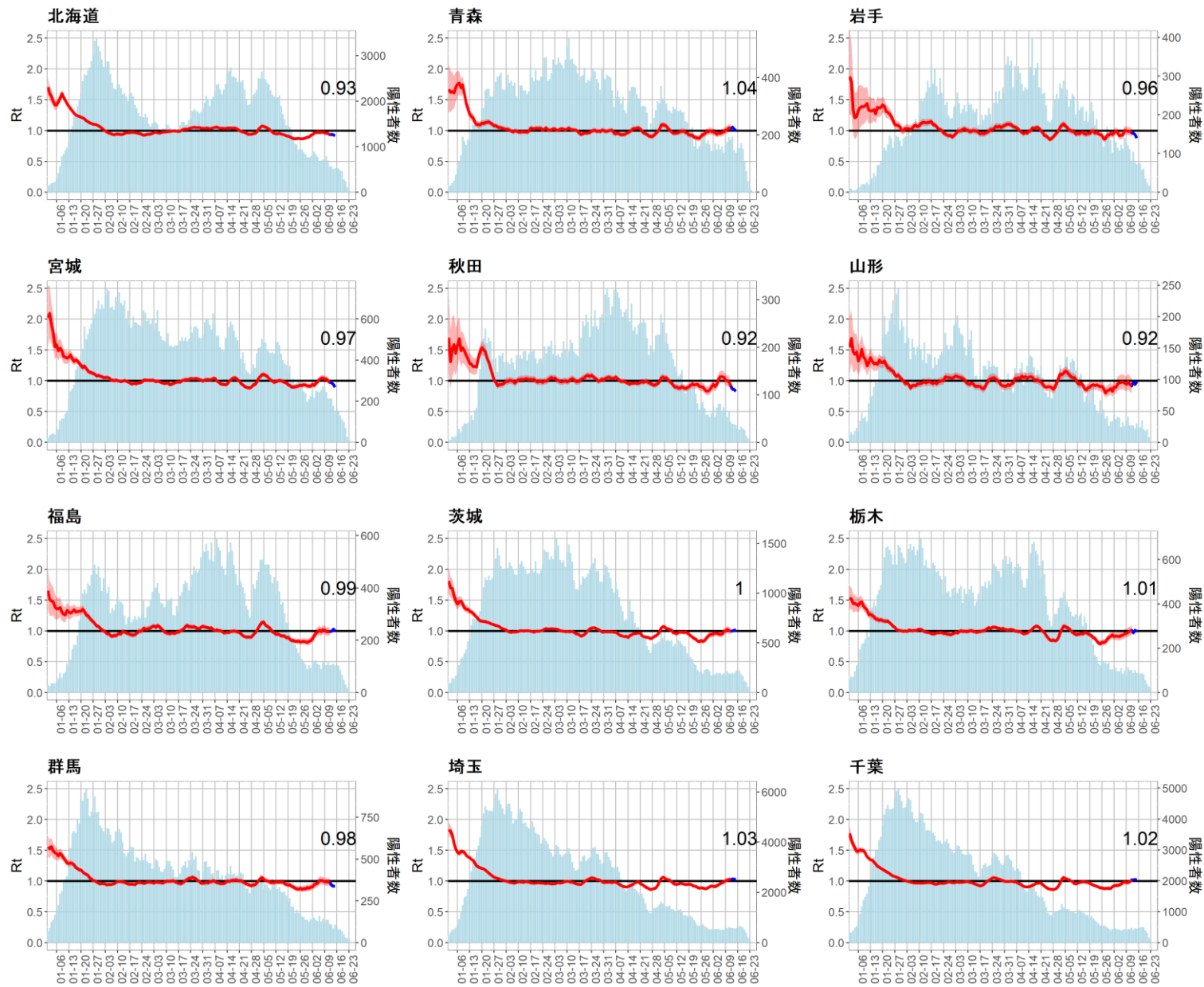
**関西圏：大阪、京都、兵庫**  
6月12日時点Rt=0.97 (0.95-0.99)



世代時間は英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>1</sup>を使用（平均2.118日）。16日前までの推定値を赤線、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を青線で表し、それよりも直近の値は表示していない。

なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

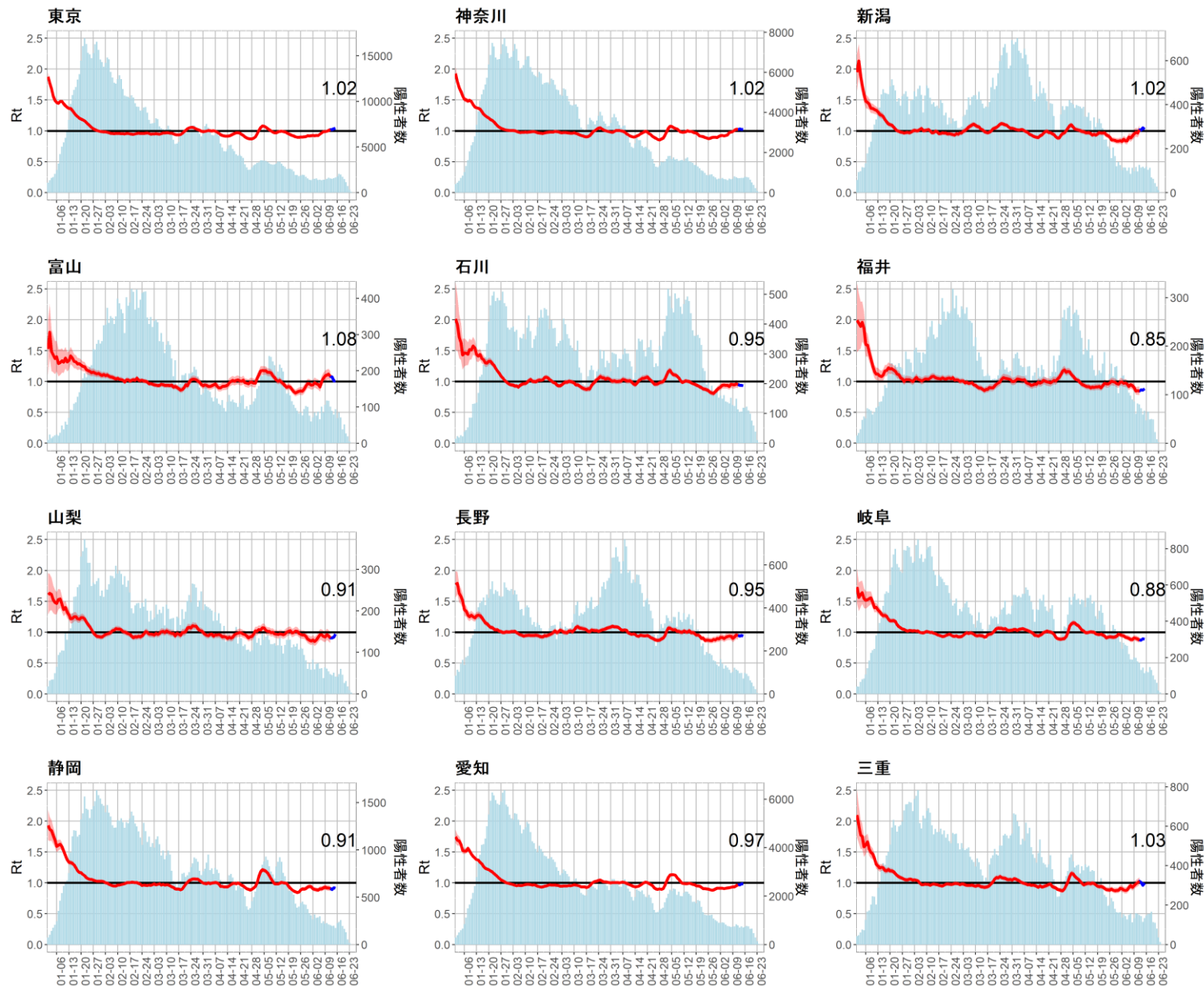
<sup>1</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)



世代時間は英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>1</sup>を使用（平均2.118日）。16日前までの推定値を赤線、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を青線で表し、それよりも直近の値は表示していない。

なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

<sup>1</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)

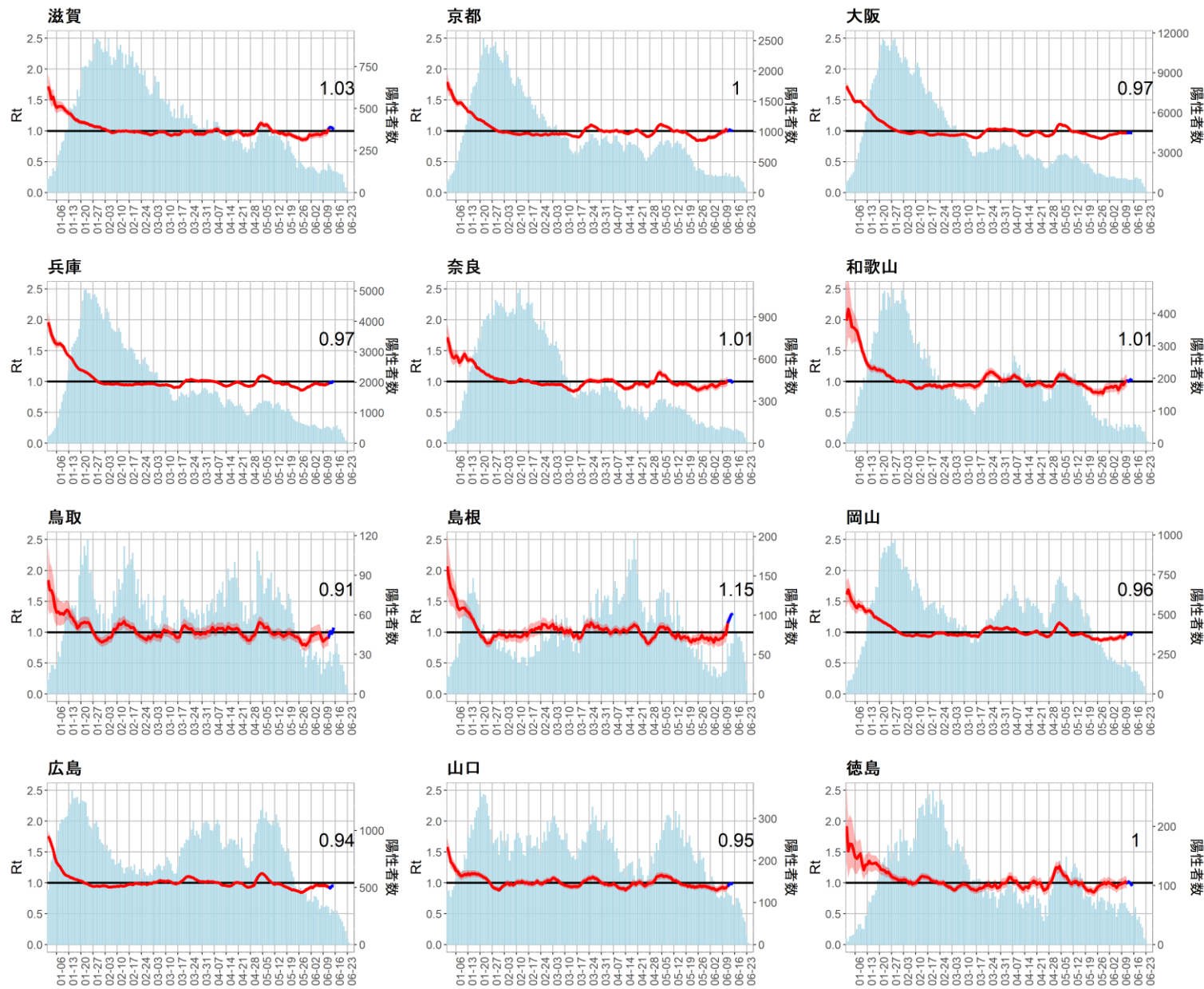


世代時間は英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>1</sup>を使用（平均2.118日）。16日前までの推定値を赤線、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を青線で表し、それよりも直近の値は表示していない。

なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

<sup>1</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)

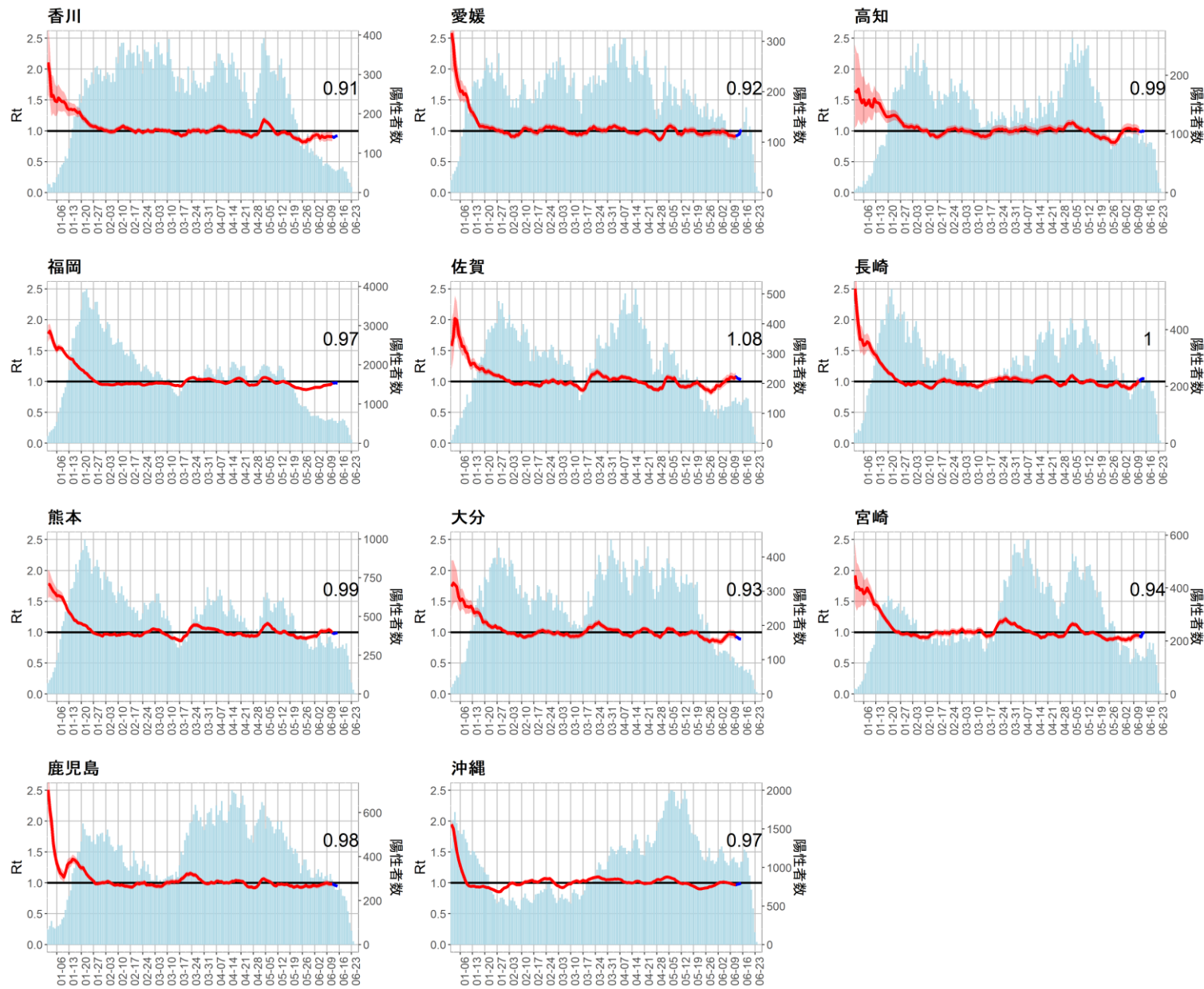




世代時間は英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>1</sup>を使用（平均2.118日）。16日前までの推定値を赤線、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を青線で表し、それよりも直近の値は表示していない。

なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

<sup>1</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)



世代時間は英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>1</sup>を使用（平均2.118日）。16日前までの推定値を赤線、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を青線で表し、それよりも直近の値は表示していない。

なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

<sup>1</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)

# 人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数の推移：年齢群別（6月27日時点）

## まとめ

北海道：0-19歳代で減少傾向、その他の年代で横ばい～微減傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

宮城県：0-19歳代で減少傾向、その他の年代で横ばい～微減傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

首都圏：東京都では全年代で増加傾向である。埼玉県と千葉県では0-19歳代で増加傾向、その他の年代で微増傾向である。神奈川県では0-19歳代で減少傾向、その他の年代で横ばい傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

東海圏：愛知県では0-19歳代で増加傾向、その他の年代で横ばい傾向である。岐阜県では0-19歳代で減少傾向、その他の年代で横ばい～微減傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

関西圏：京都府では39歳以下で減少傾向、その他の年代で横ばい傾向である。奈良県、大阪府、兵庫県ともに全ての年代で微減～横ばい傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

中国圏：岡山県では39歳以下で減少傾向、その他の年代で横ばい傾向である。広島県では全年代で横ばい～微減傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

福岡県：全年代で横ばい傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

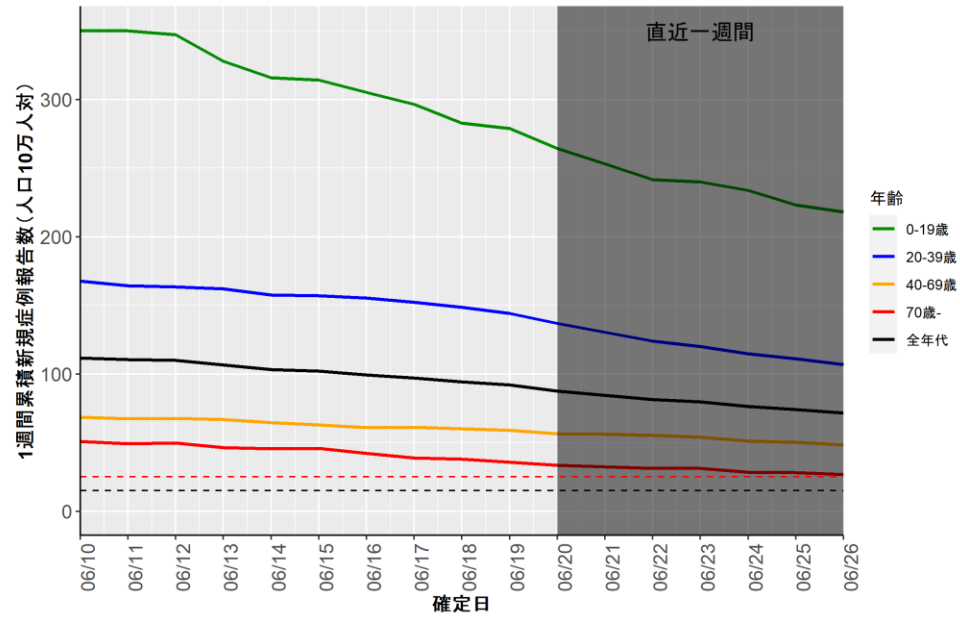
沖縄県：0-19歳代で増加傾向、その他の年代で微増傾向である。全年代で高いレベルとなっており、人口当たりの新規症例報告数が最も多いのは0-19歳代である。

（\*はHER-SYSまたは自治体公開情報のどちらかのみでのレベルを示す。）

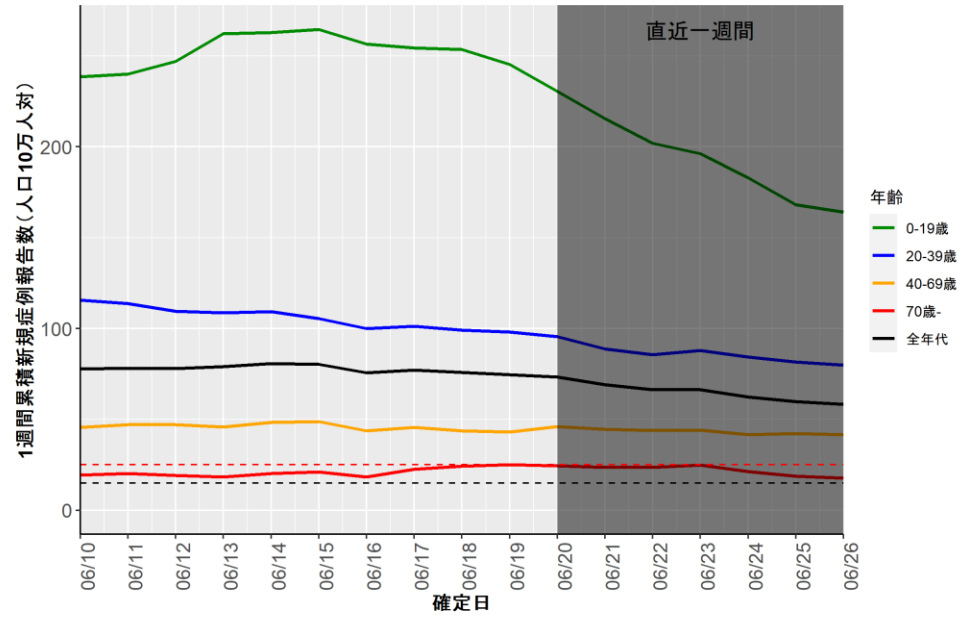
## 解釈時の注意点

- HER-SYSに基づく値は、特に直近1週間については報告遅れのために過小評価となっている可能性があり、その程度は自治体によって差がある（図の灰色部分）
- 自治体公開情報データに基づく年代別の値は、年代を非公表としている症例が多い自治体については過小評価となる
- どちらのデータも完全ではないため、両者を用いた評価が必要である

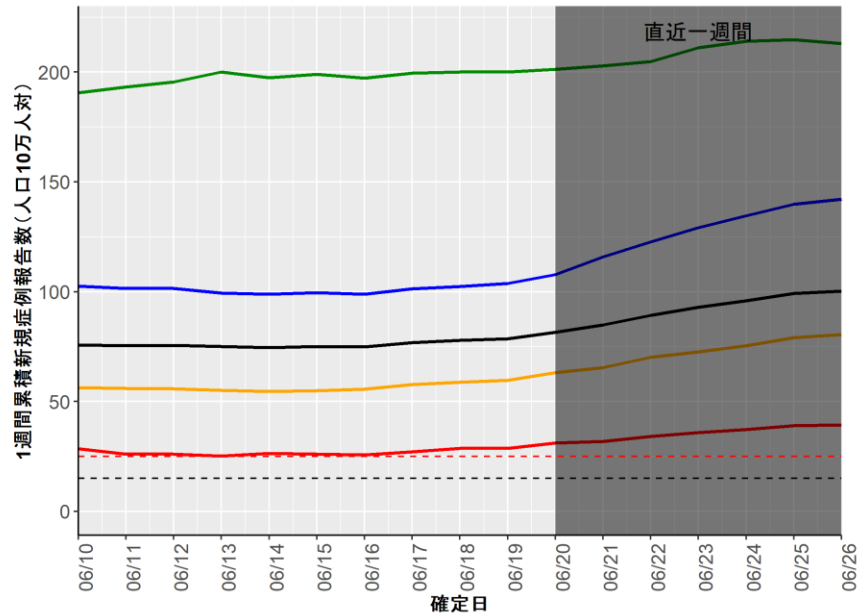
### 北海道 (HER-SYS)



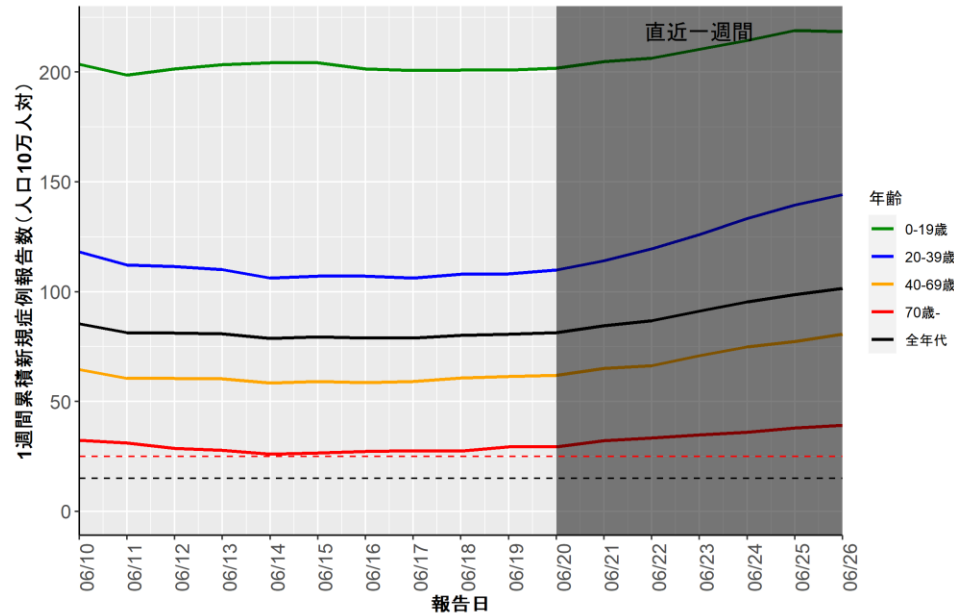
### 宮城 (HER-SYS)



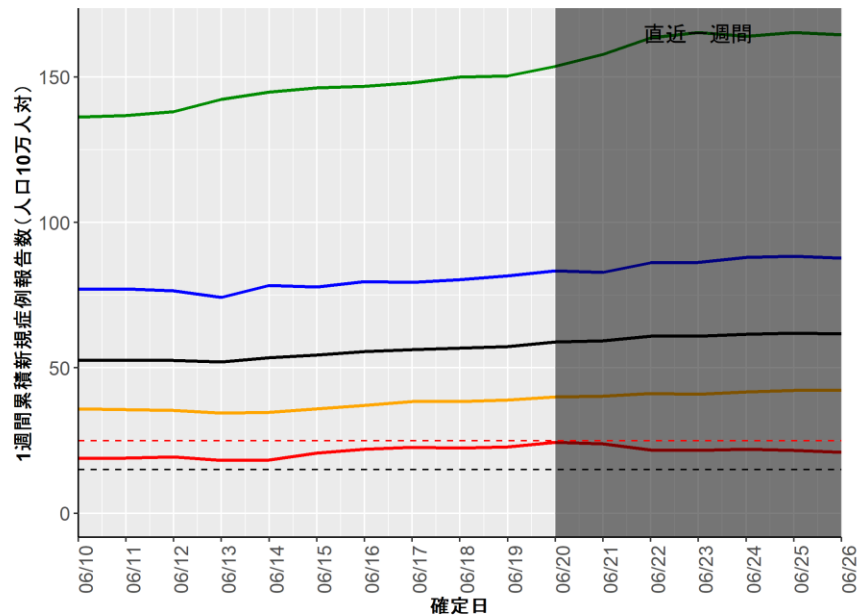
### 東京 (HER-SYS)



### 東京 (自治体公開情報)

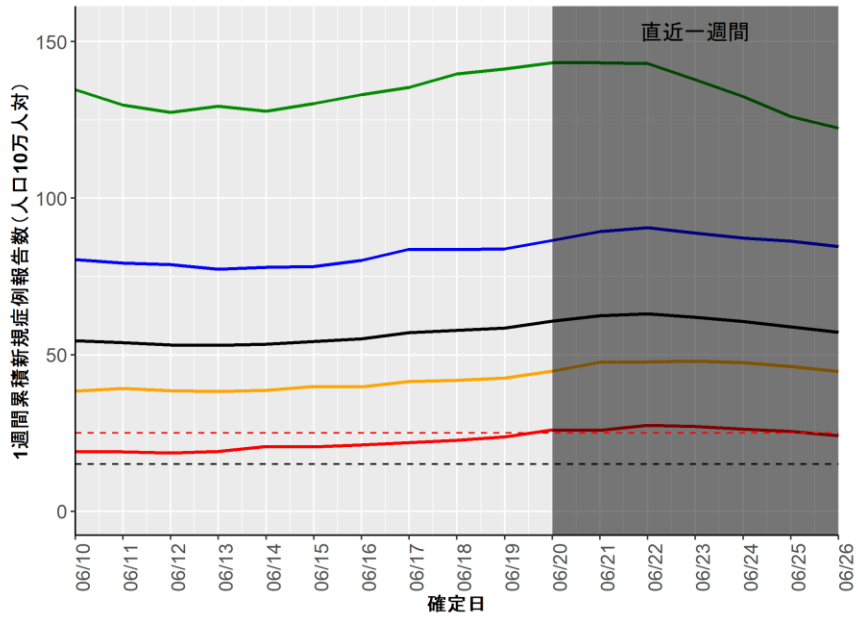


### 埼玉 (HER-SYS)

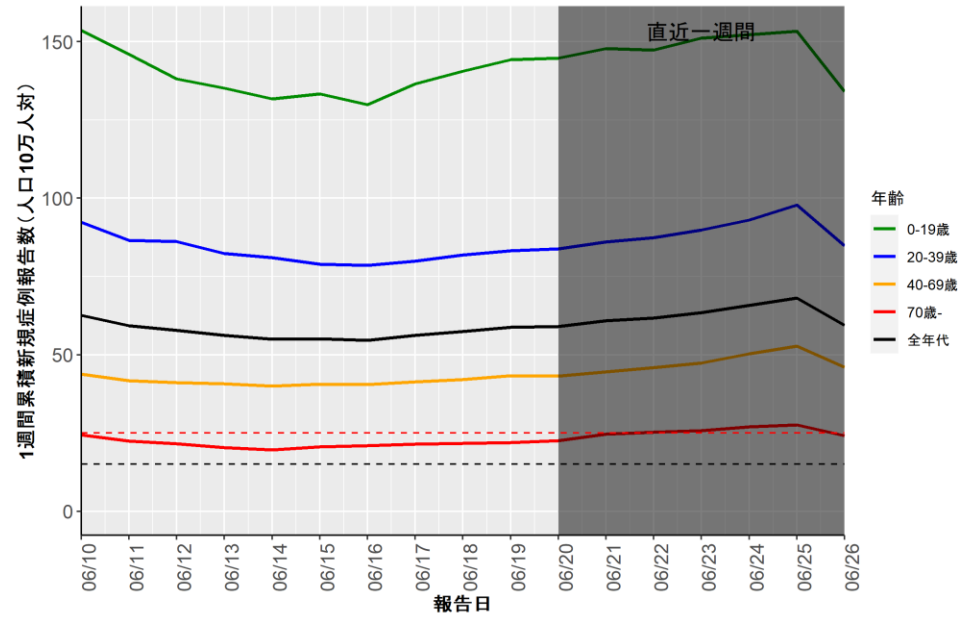




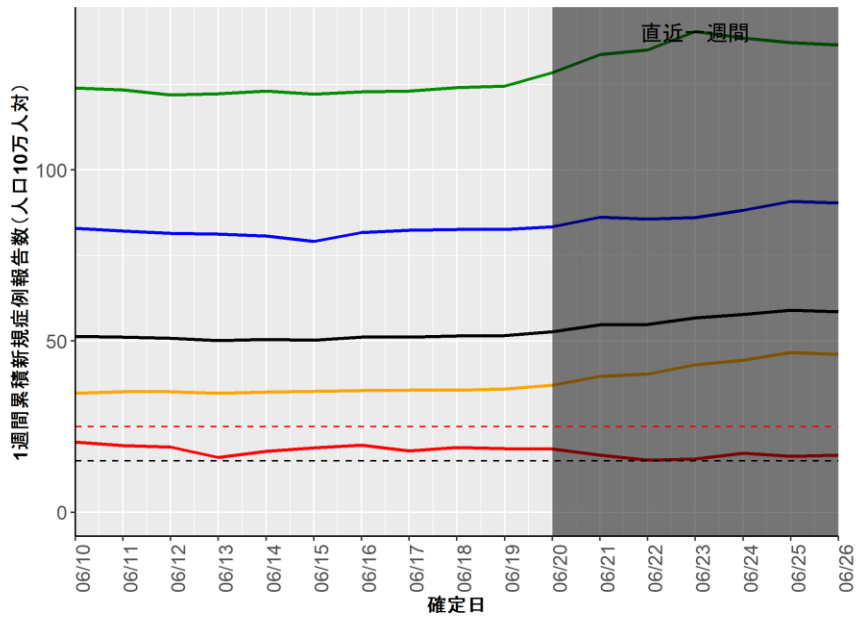
### 神奈川 (HER-SYS)



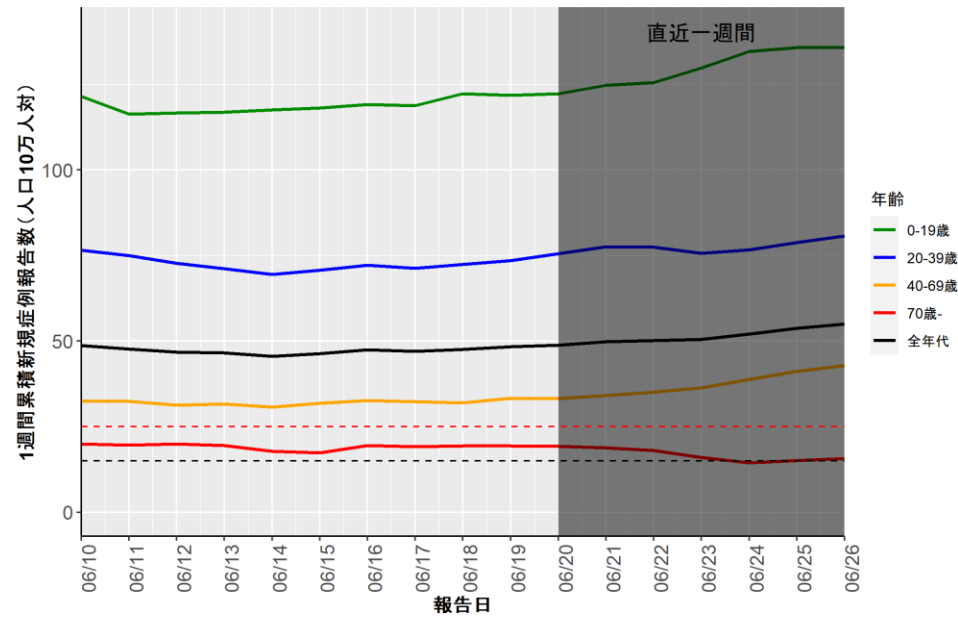
### 神奈川 (自治体公開情報)



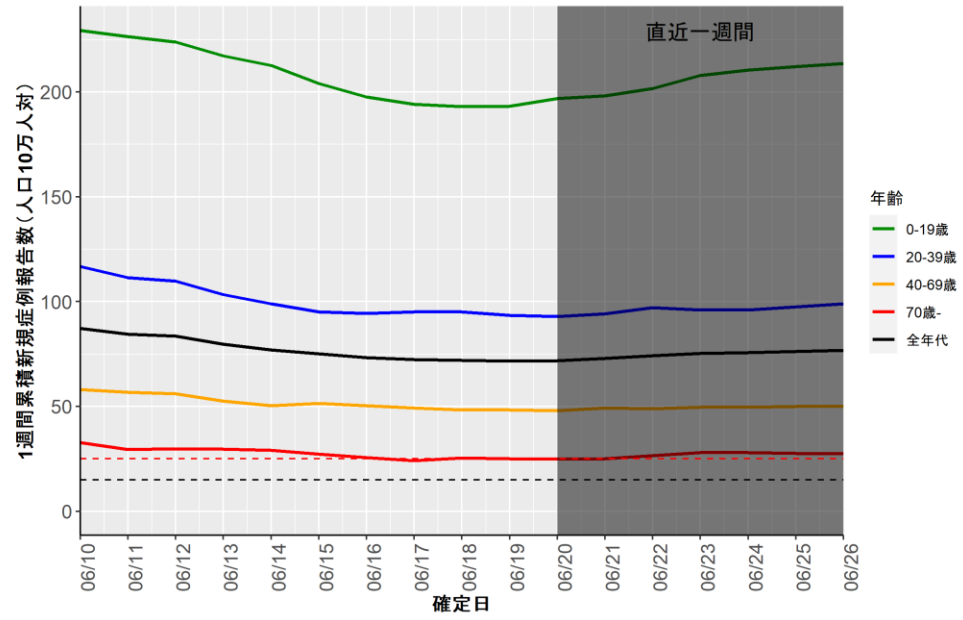
### 千葉 (HER-SYS)



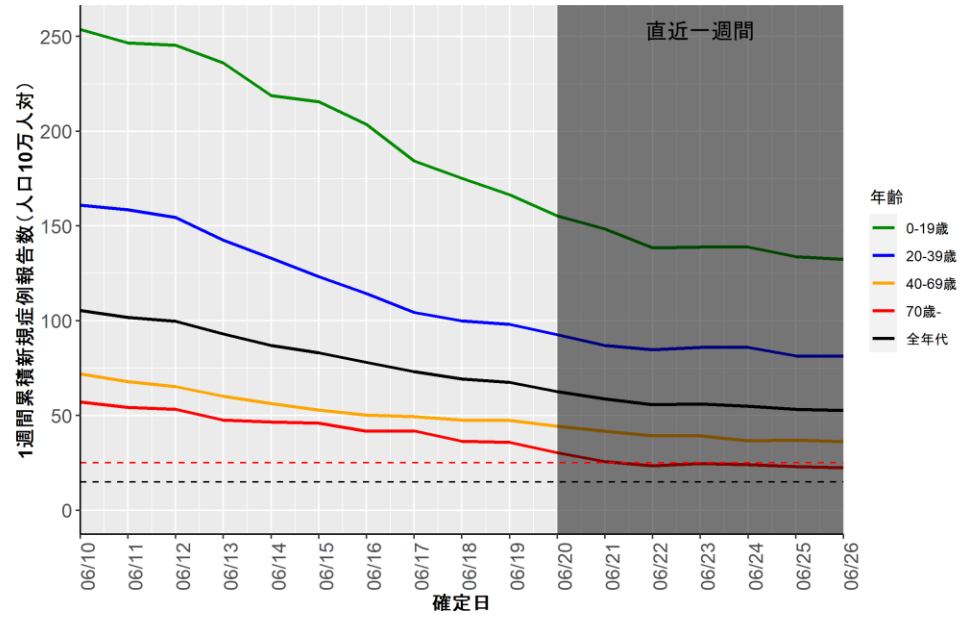
### 千葉 (自治体公開情報)



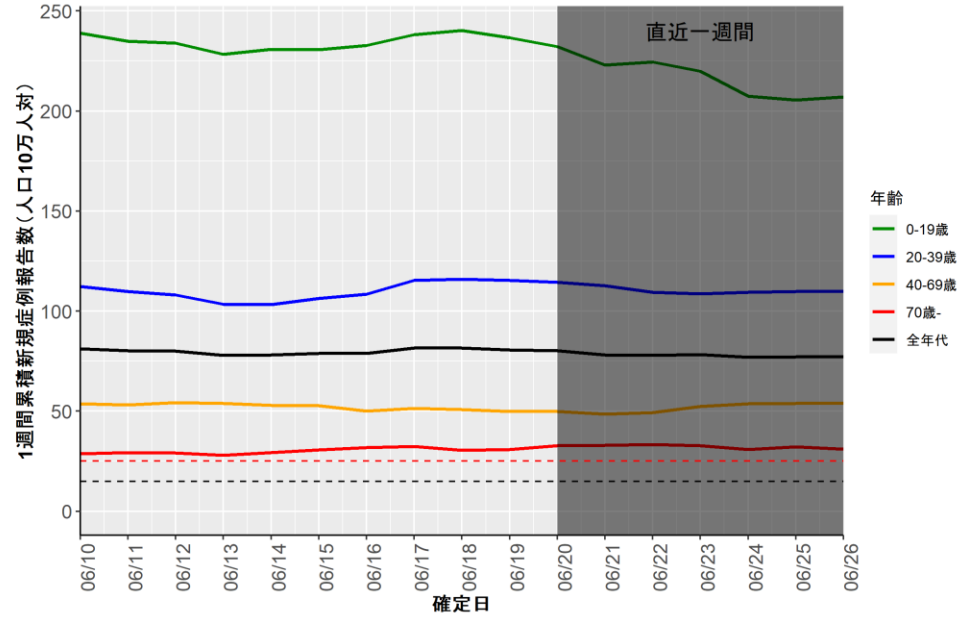
### 愛知 (HER-SYS)



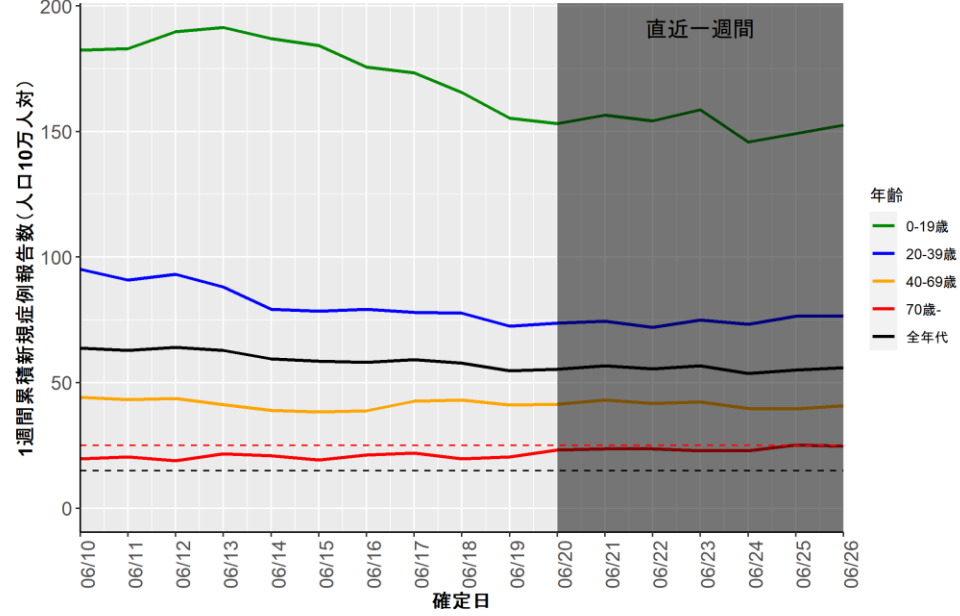
### 岐阜 (HER-SYS)



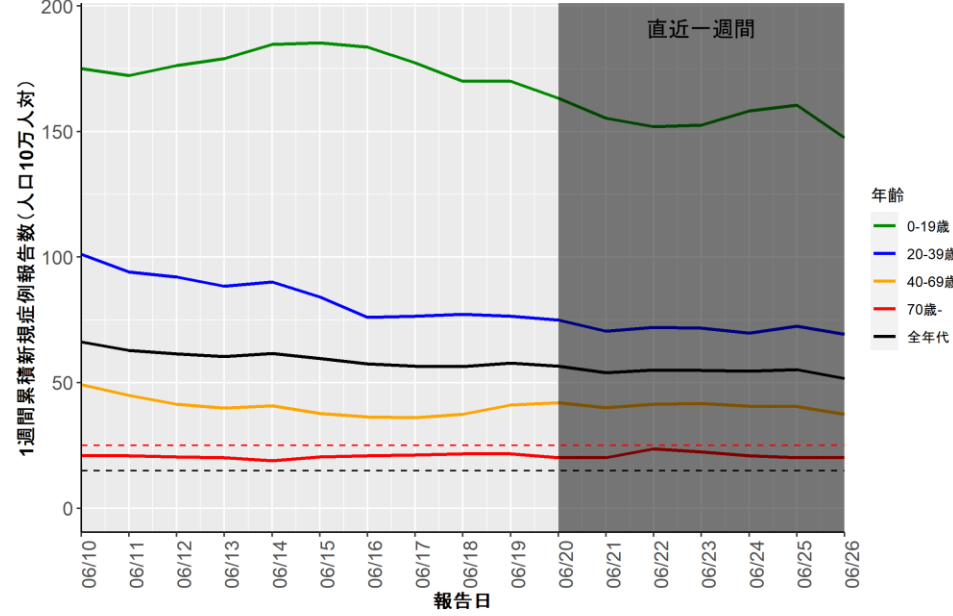
### 京都 (HER-SYS)



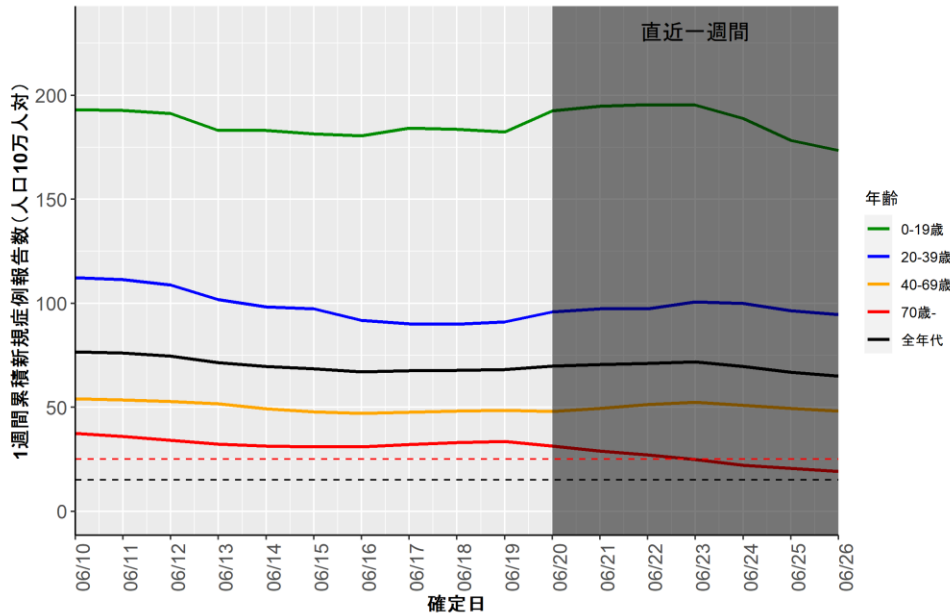
### 奈良 (HER-SYS)



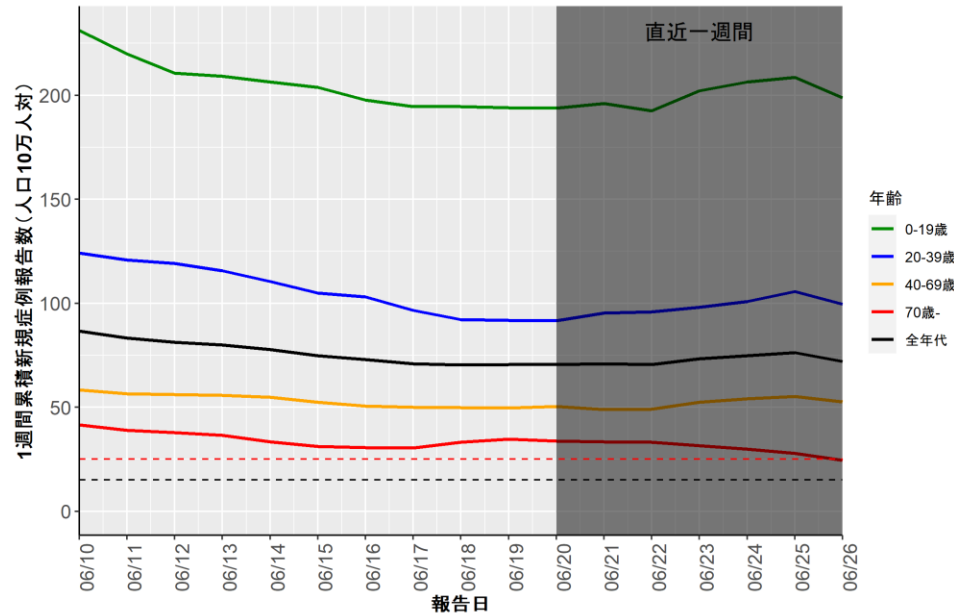
### 奈良 (自治体公開情報)



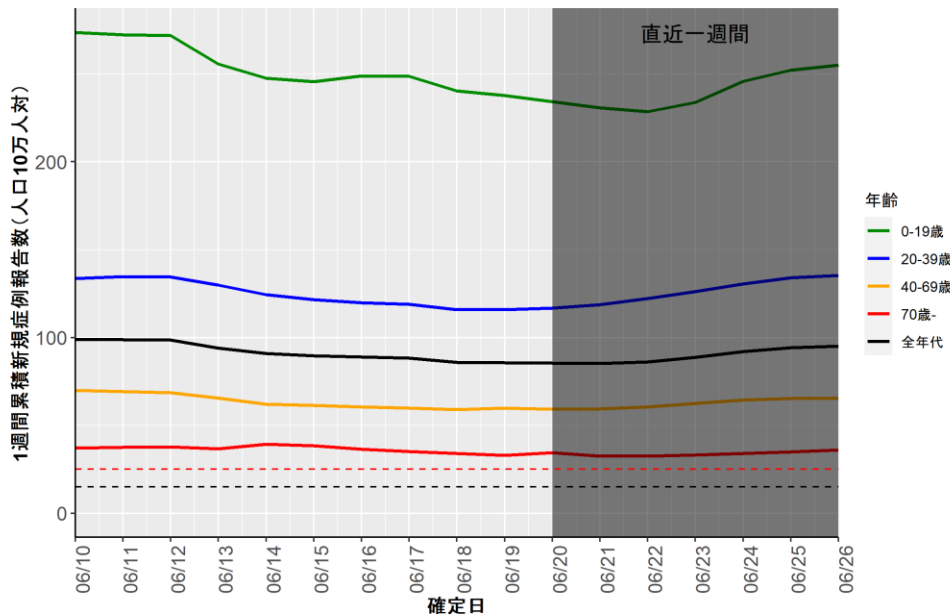
### 兵庫 (HER-SYS)



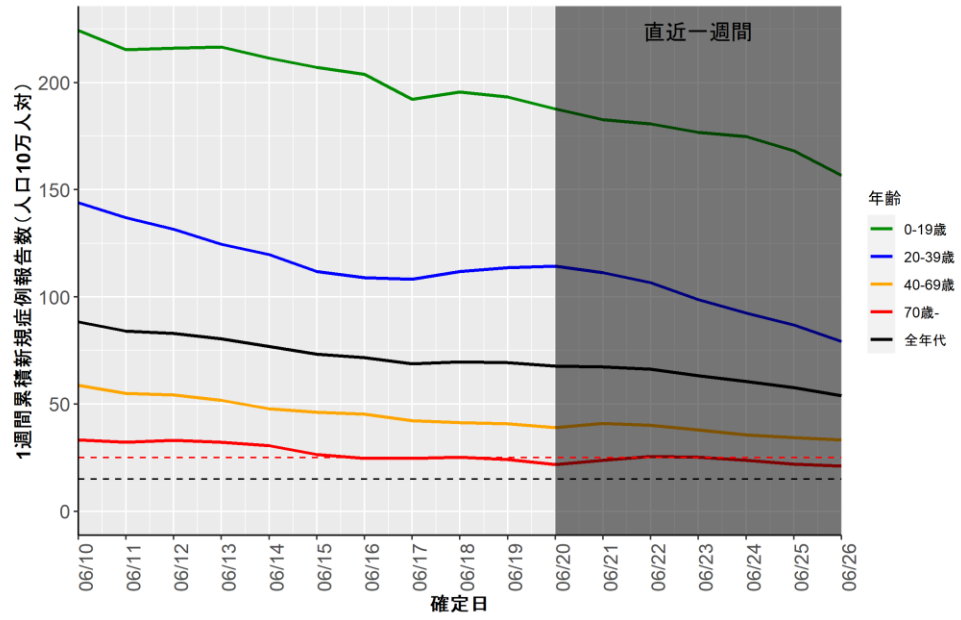
### 兵庫 (自治体公開情報)



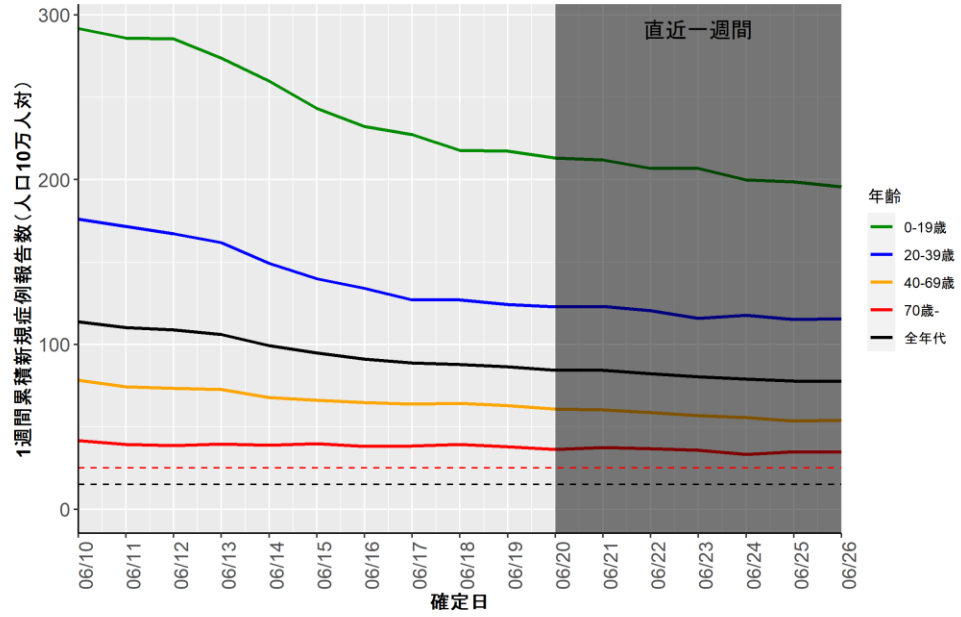
### 大阪 (HER-SYS)



### 岡山 (HER-SYS)

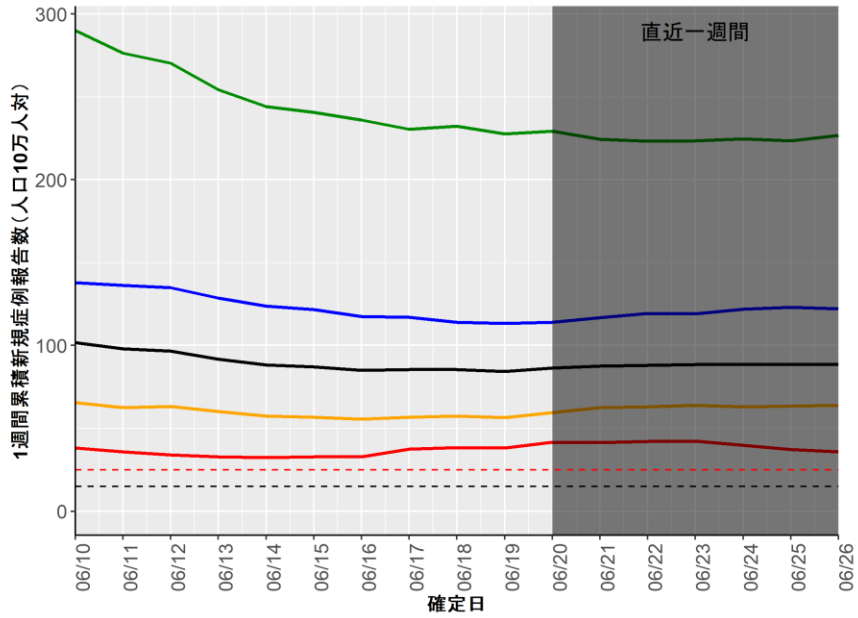


### 広島 (HER-SYS)

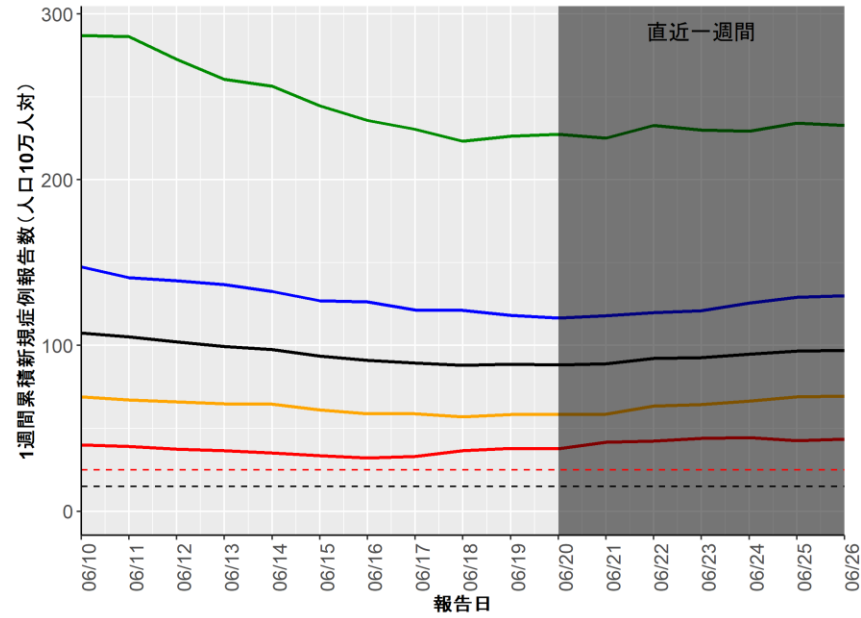




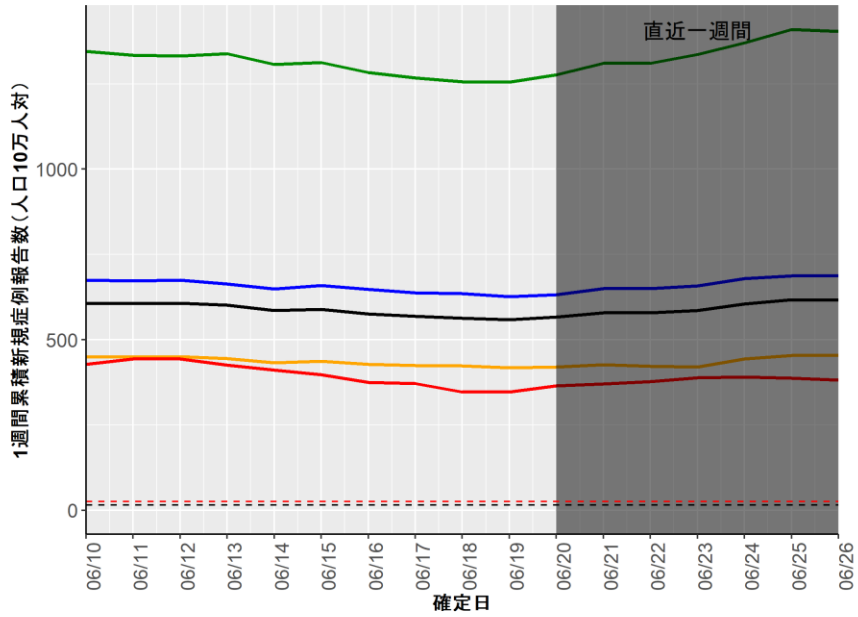
### 福岡 (HER-SYS)



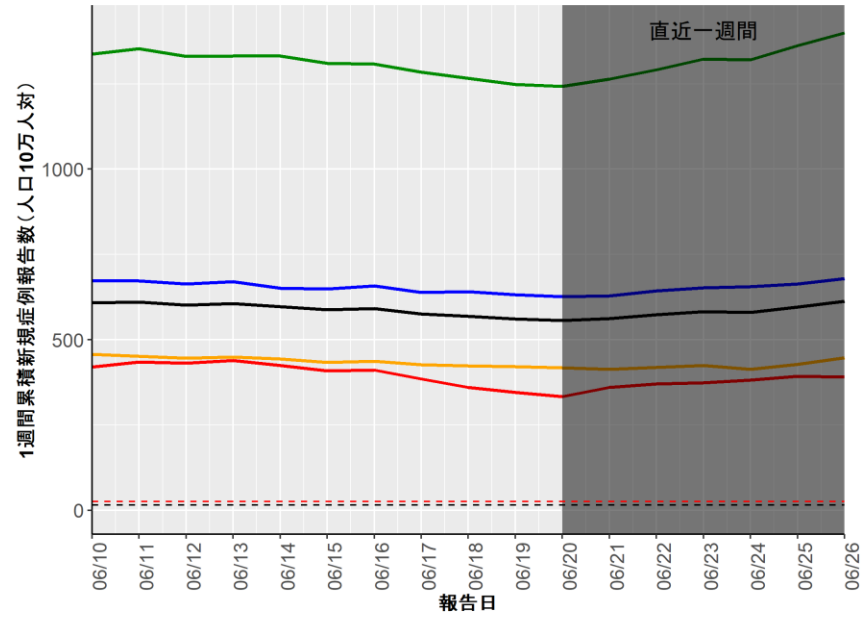
### 福岡 (自治体公開情報)



### 沖縄 (HER-SYS)



### 沖縄 (自治体公開情報)



# 人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ

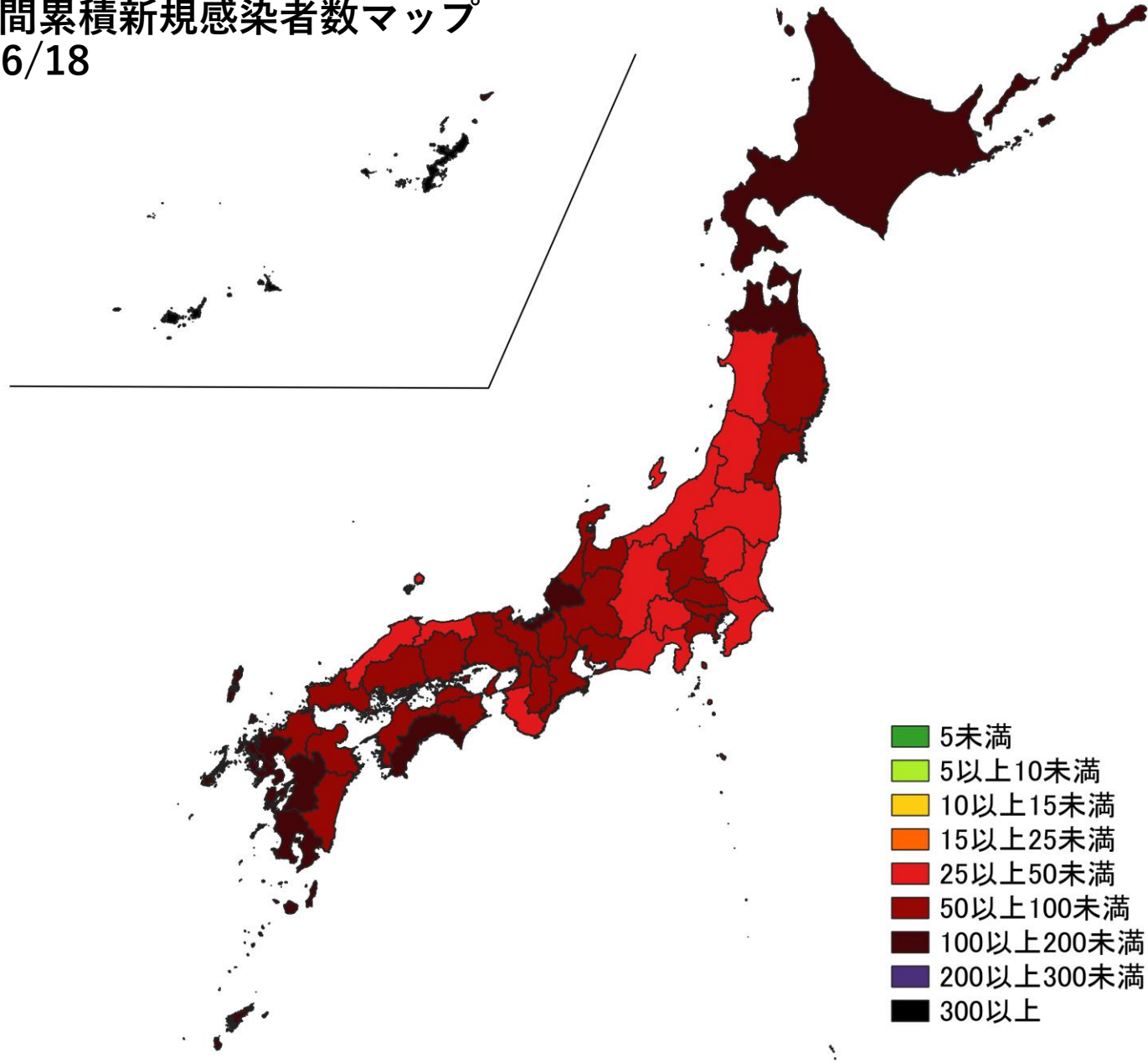
## 使用データ

- 2022年6月27日時点（6月26日公表分まで）の自治体公開情報を用いて、直近1週間（6/19～6/25）、1週間前（6/12～6/18）の人口10万人あたり7日間累積新規症例報告数（報告日）を都道府県別に図示した。
- 同様に、2022年6月20日時点のHER-SYSデータを用いて保健所管区別の分析（診断日）を行った。
- 集計は日曜日から土曜日であり、疫学週（月曜日から日曜日）とは異なる。
- **データ入力や公表の遅れを考慮し、直近1週間は参考資料とする。**

## まとめ

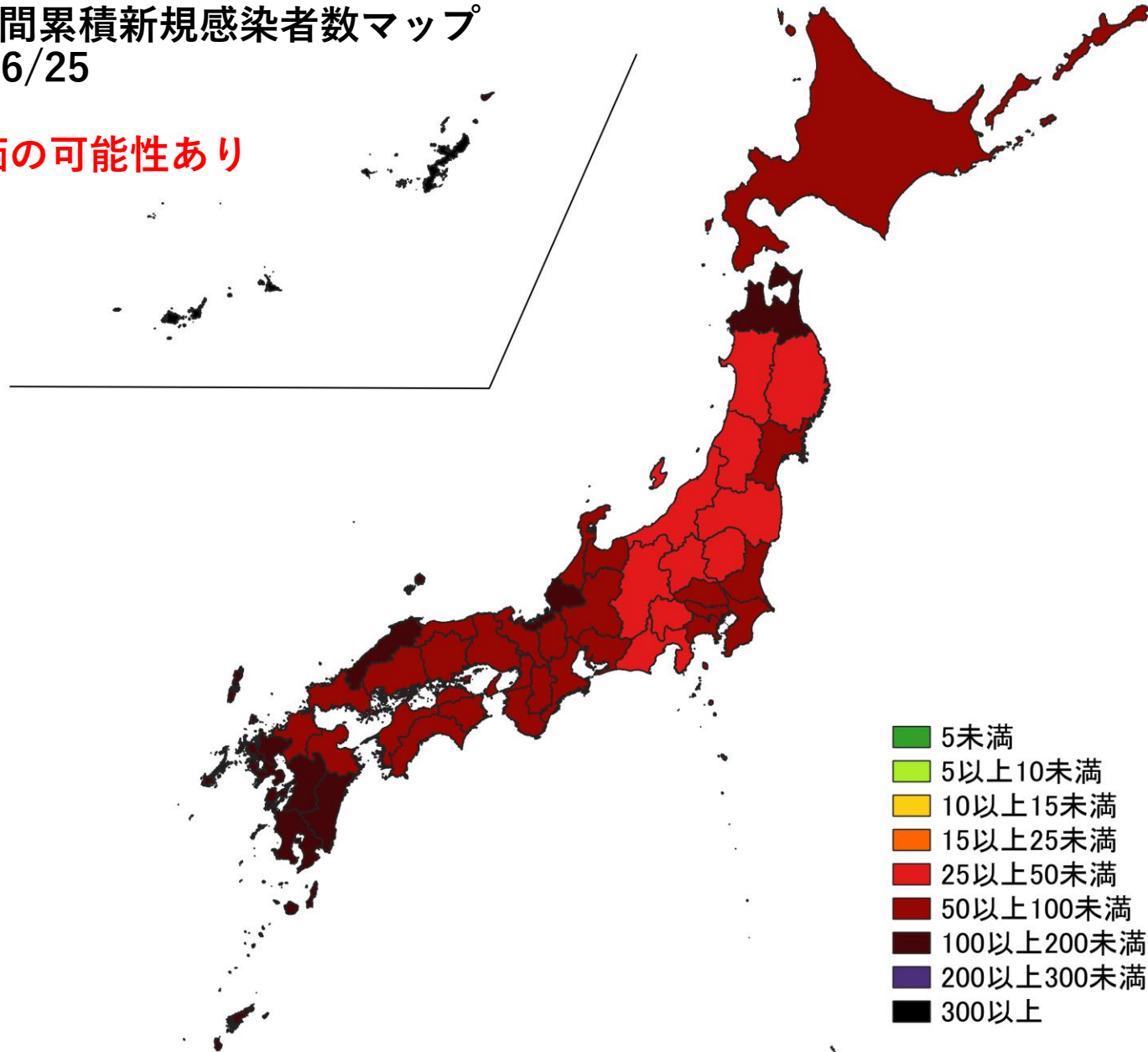
- 感染者が増加している地域と減少している地域が入り交じって全国的なレベルはほぼ横ばい状態にある（入力遅れの可能性あり）。
- 直近では、沖縄県では人口10万人あたり500以上、青森県、福井県、島根県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県では人口10万人あたり100以上、その他の全ての都府県は人口10万人あたり100未満。
- 保健所管轄単位では、全国的に人口10万人あたり15を下回る管区が増加しているが（入力遅れの可能性あり）、首都圏、関西・中京圏の都市部と九州地域では高いレベルが継続している。人口10万人あたり500以上の地域は沖縄県に集中している。

人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ  
都道府県単位 6/12～6/18  
(自治体公開情報)



人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ  
都道府県単位 6/19～6/25  
(自治体公開情報)

公表遅れによる過小評価の可能性あり



# 人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ

## 保健所単位 6/12～6/18

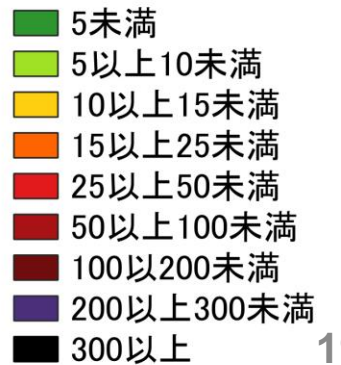
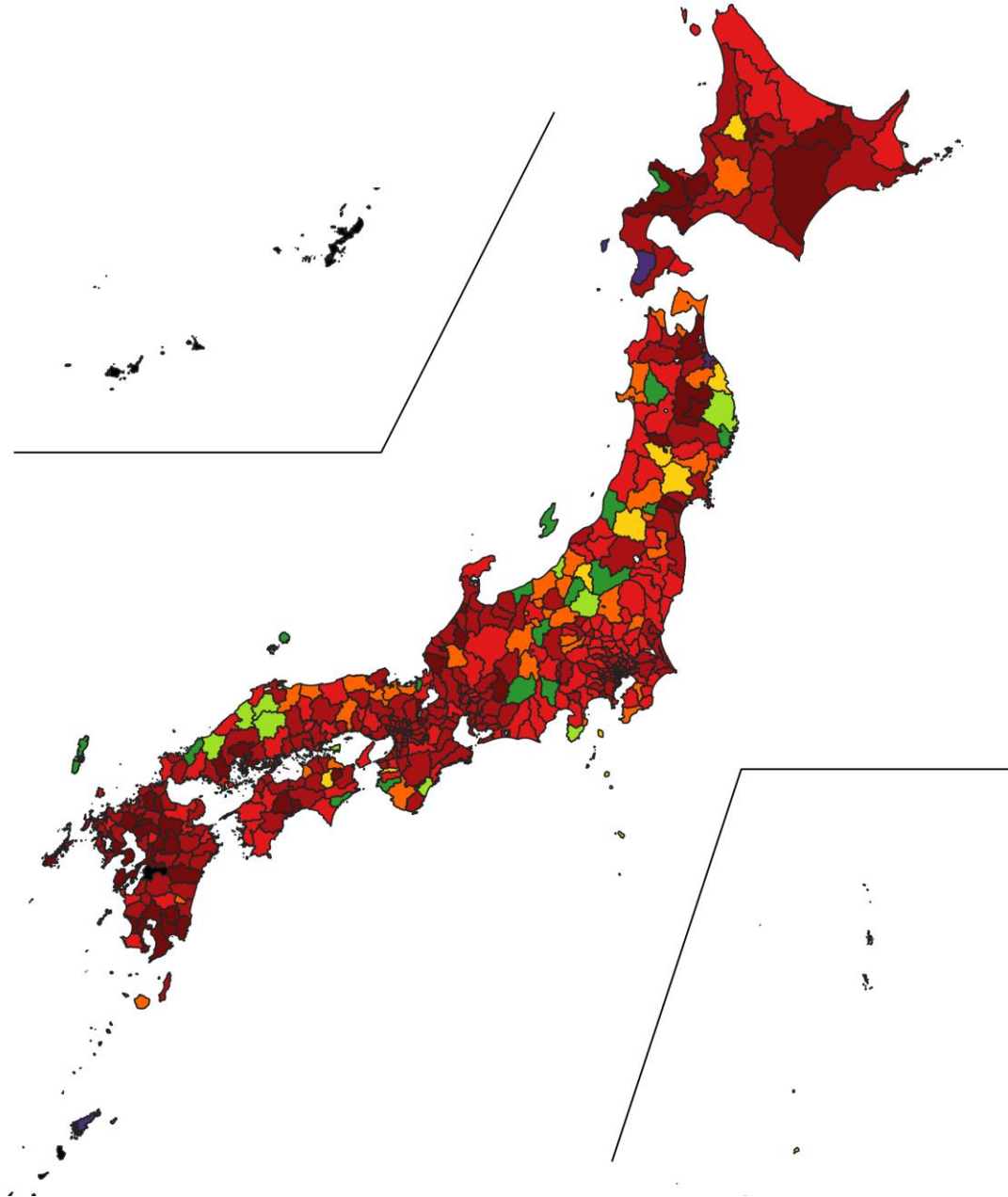
(HER-SYS情報)

### 人口10万人あたり500以上の保健所管区

- ・ 鹿児島県徳之島保健所
- ・ 沖縄県中部保健所
- ・ 沖縄県南部保健所
- ・ 沖縄県北部保健所

### 人口10万人あたり400以上の保健所管区

- ・ 沖縄県那覇市保健所





# 人口10万人あたりの7日間累積新規感染者数マップ

## 保健所単位 6/19～6/25

### (HER-SYS情報)

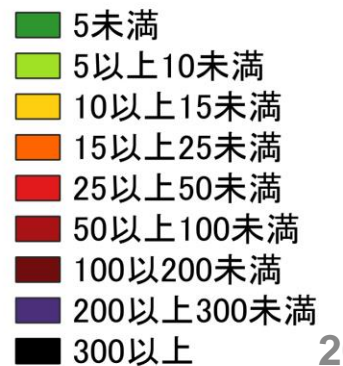
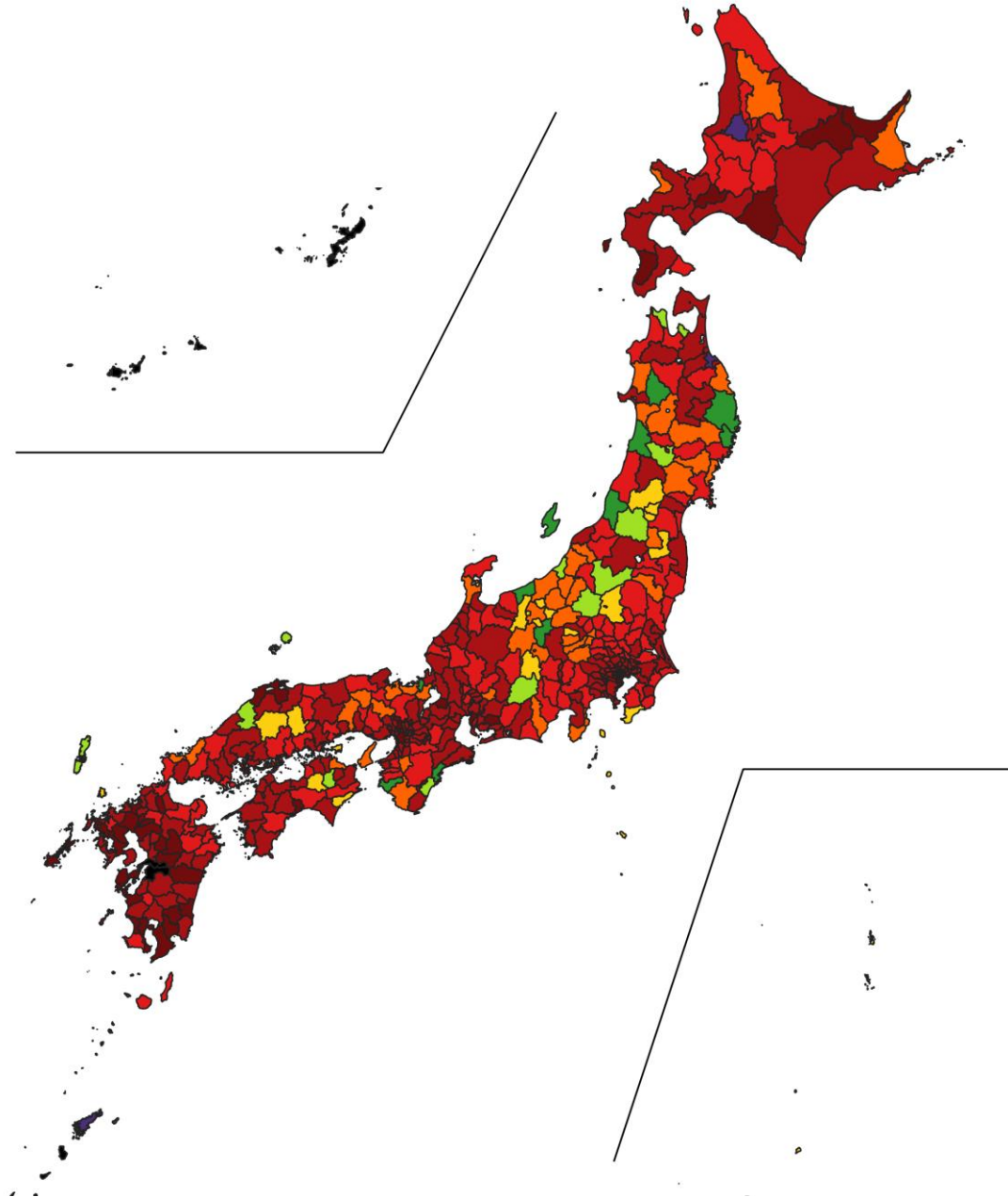
公表遅れによる過小評価の可能性あり

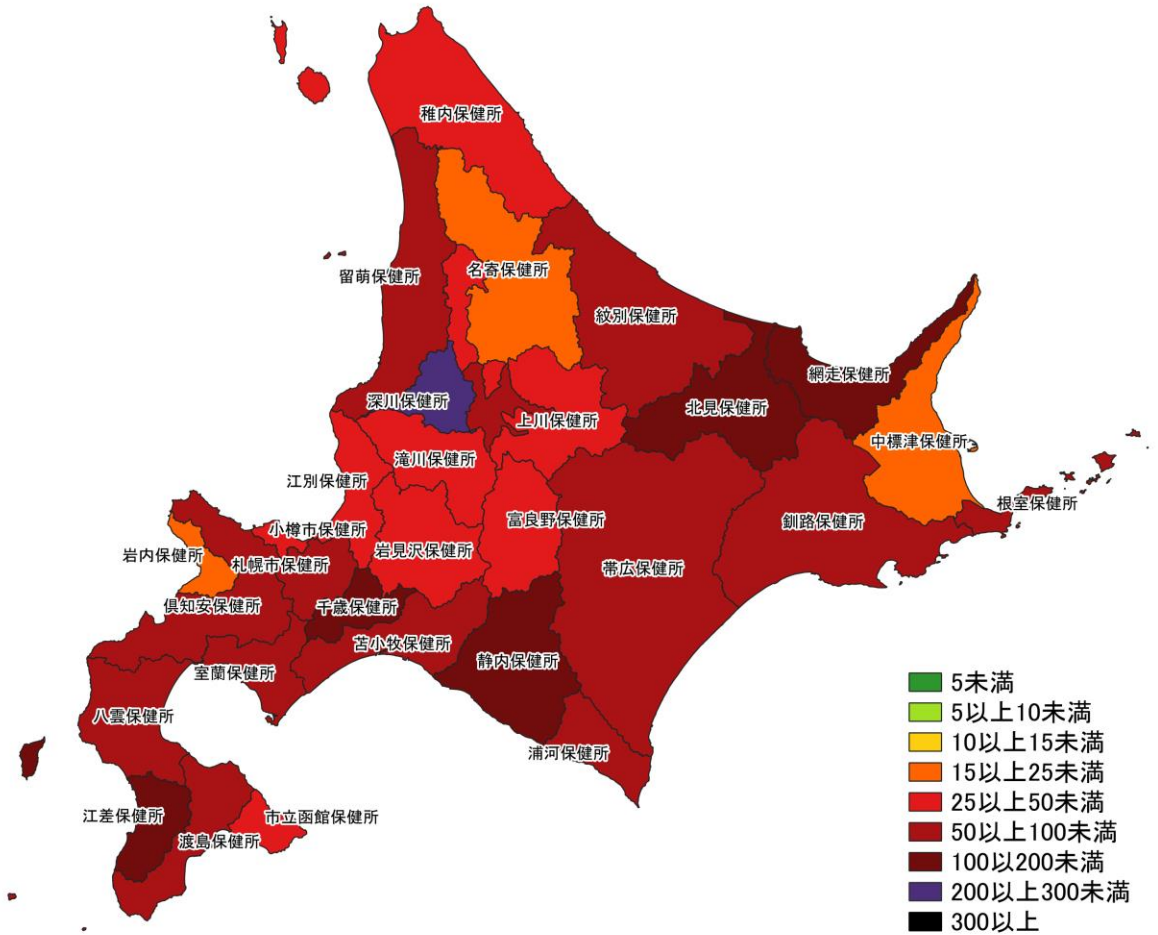
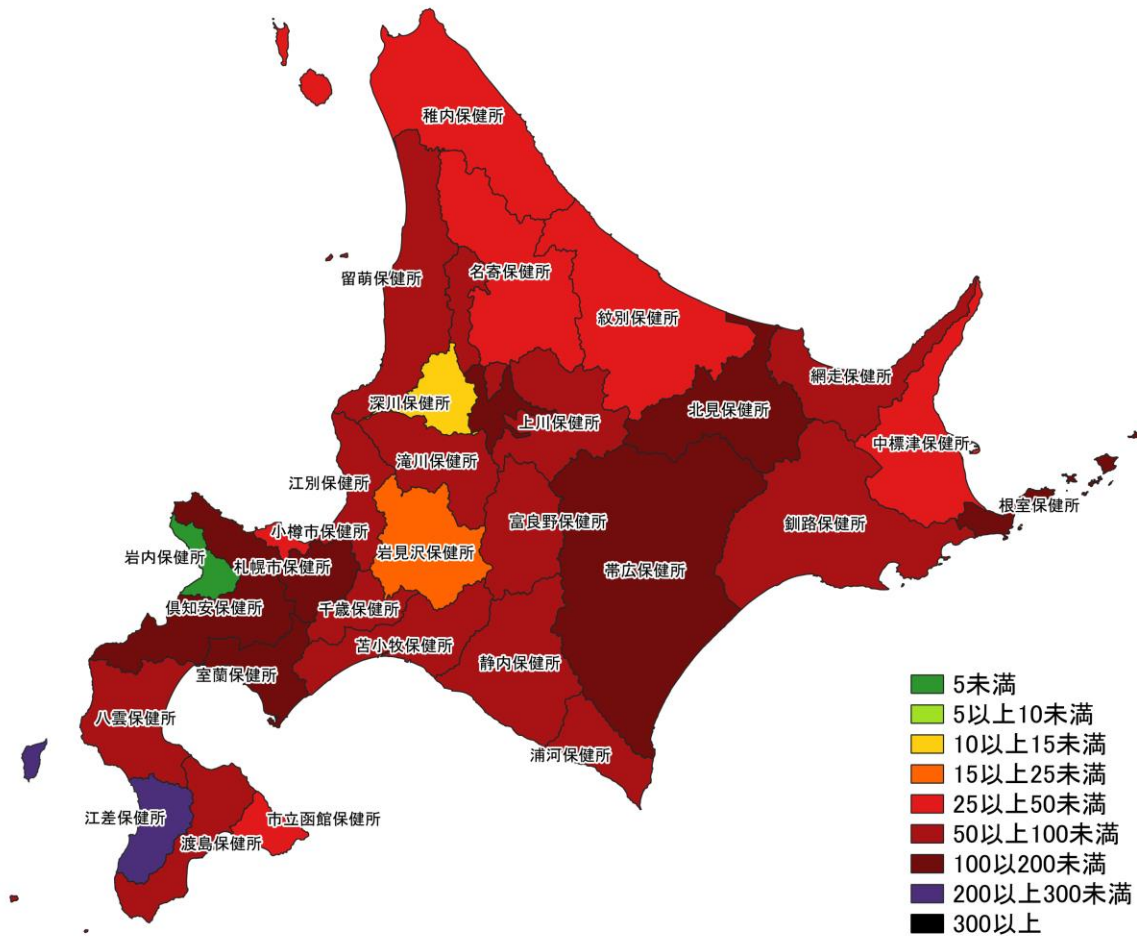
#### 人口10万人あたり500以上の保健所管区

- ・ 鹿児島県徳之島保健所
- ・ 沖縄県那覇市保健所
- ・ 沖縄県中部保健所
- ・ 沖縄県八重山保健所
- ・ 沖縄県南部保健所
- ・ 沖縄県北部保健所

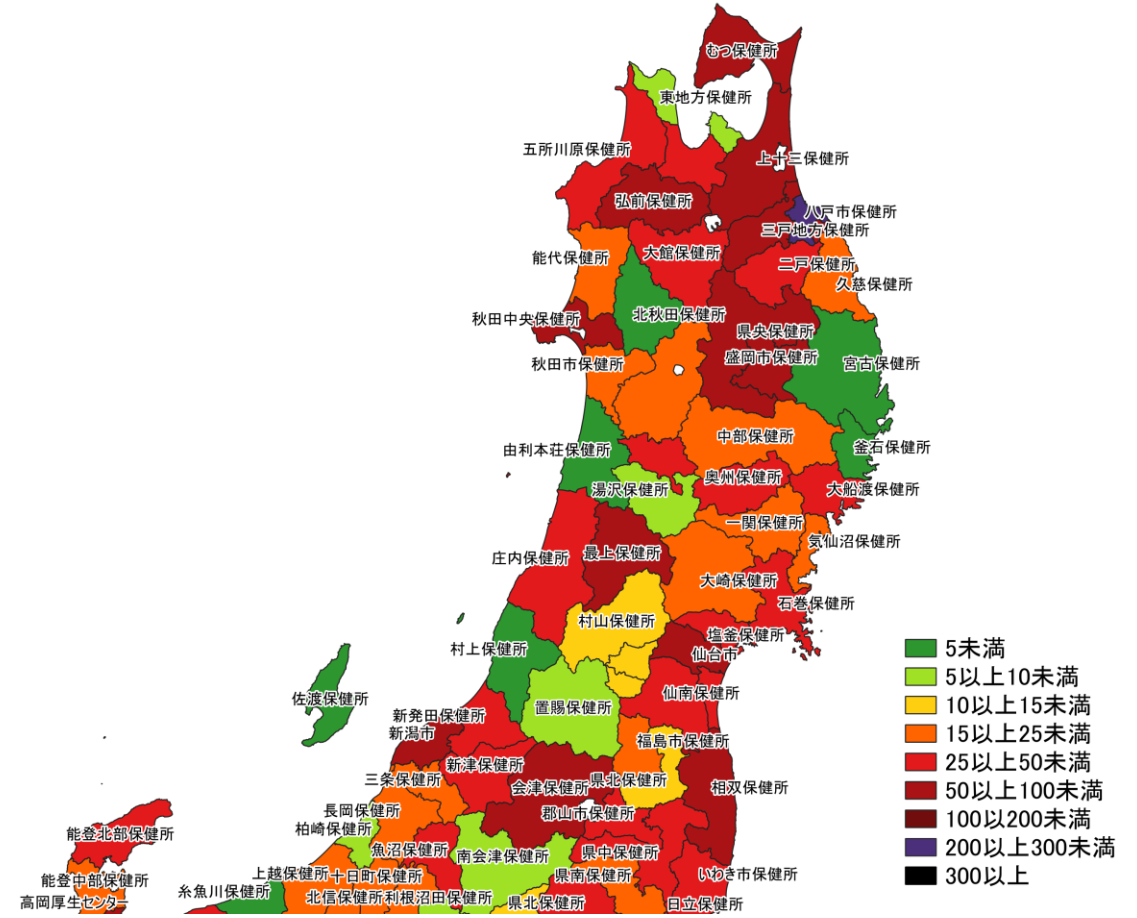
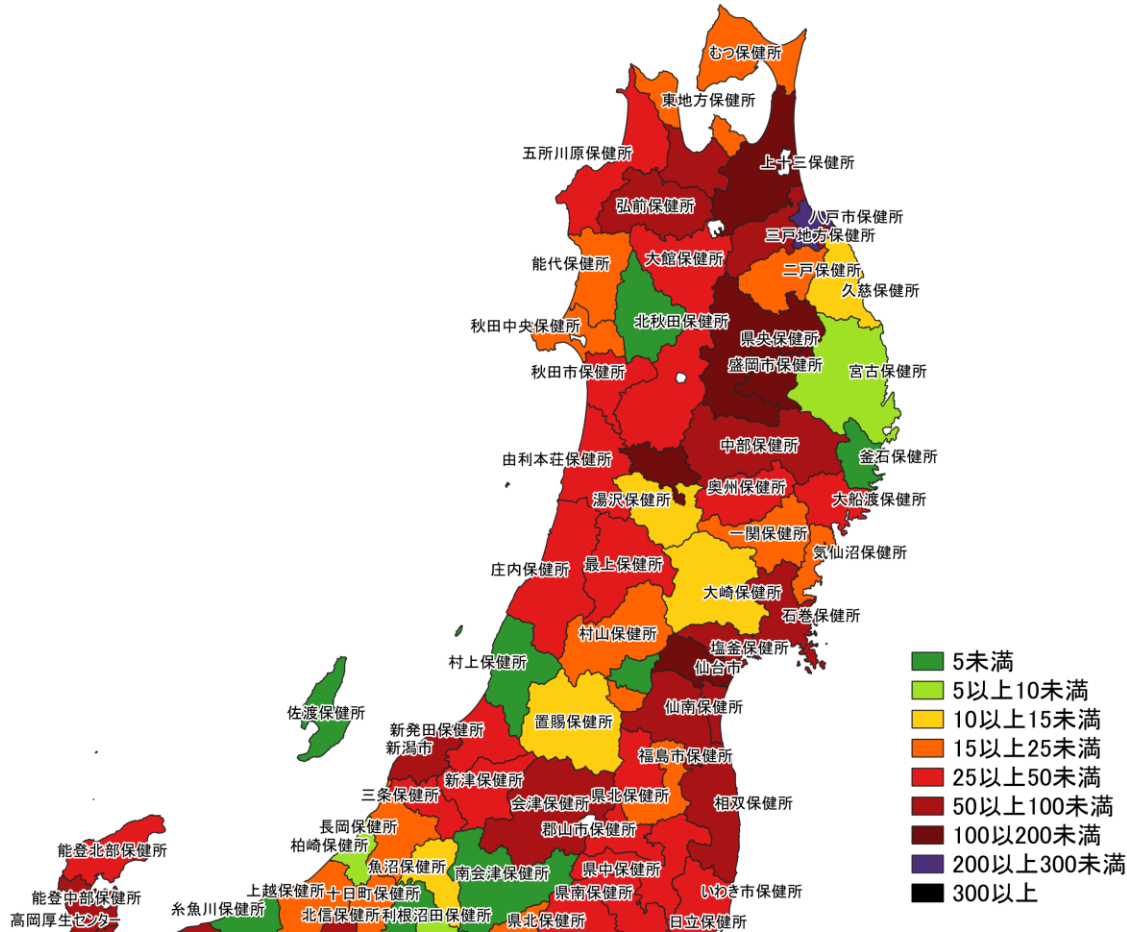
#### 人口10万人あたり400以上の保健所管区

- ・ 熊本県八代保健所



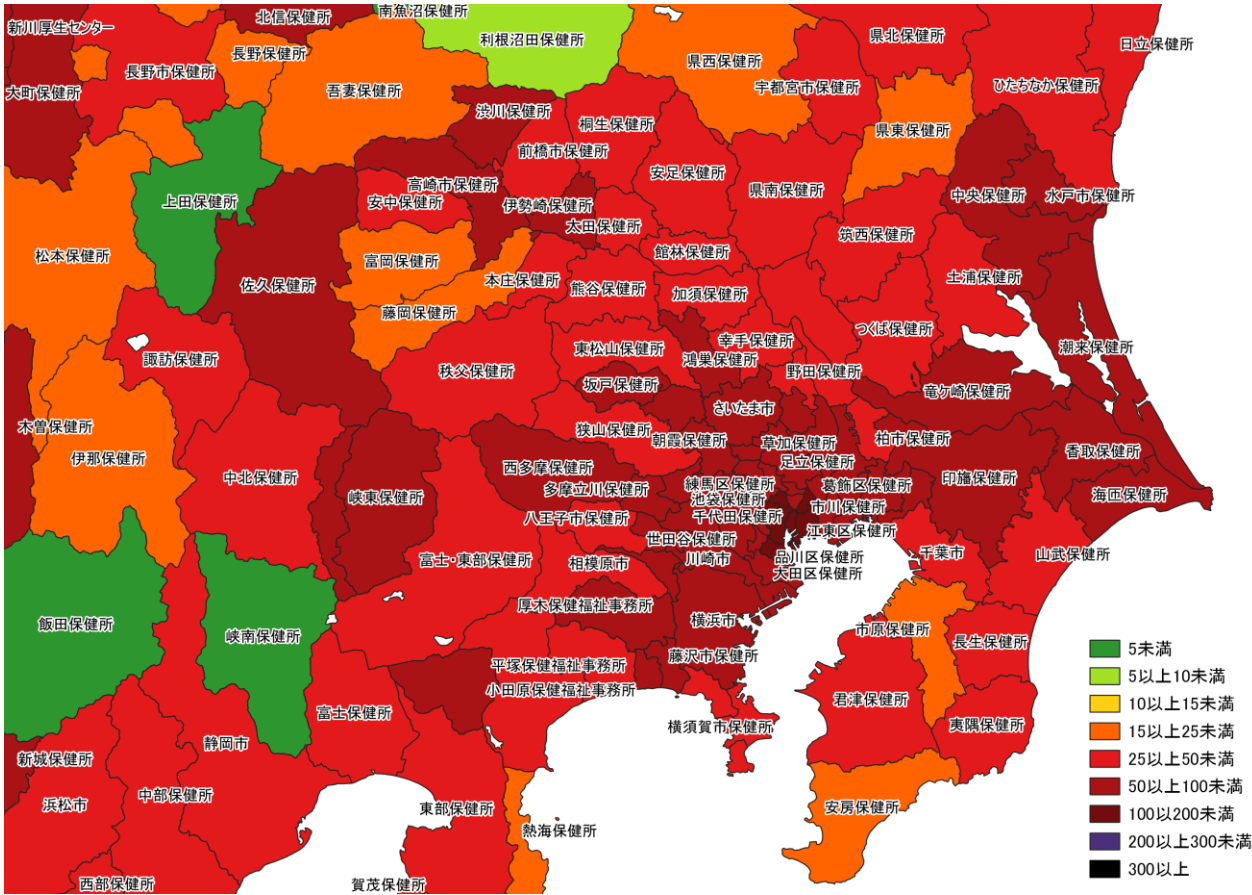


人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
北海道（HER-SYS情報）



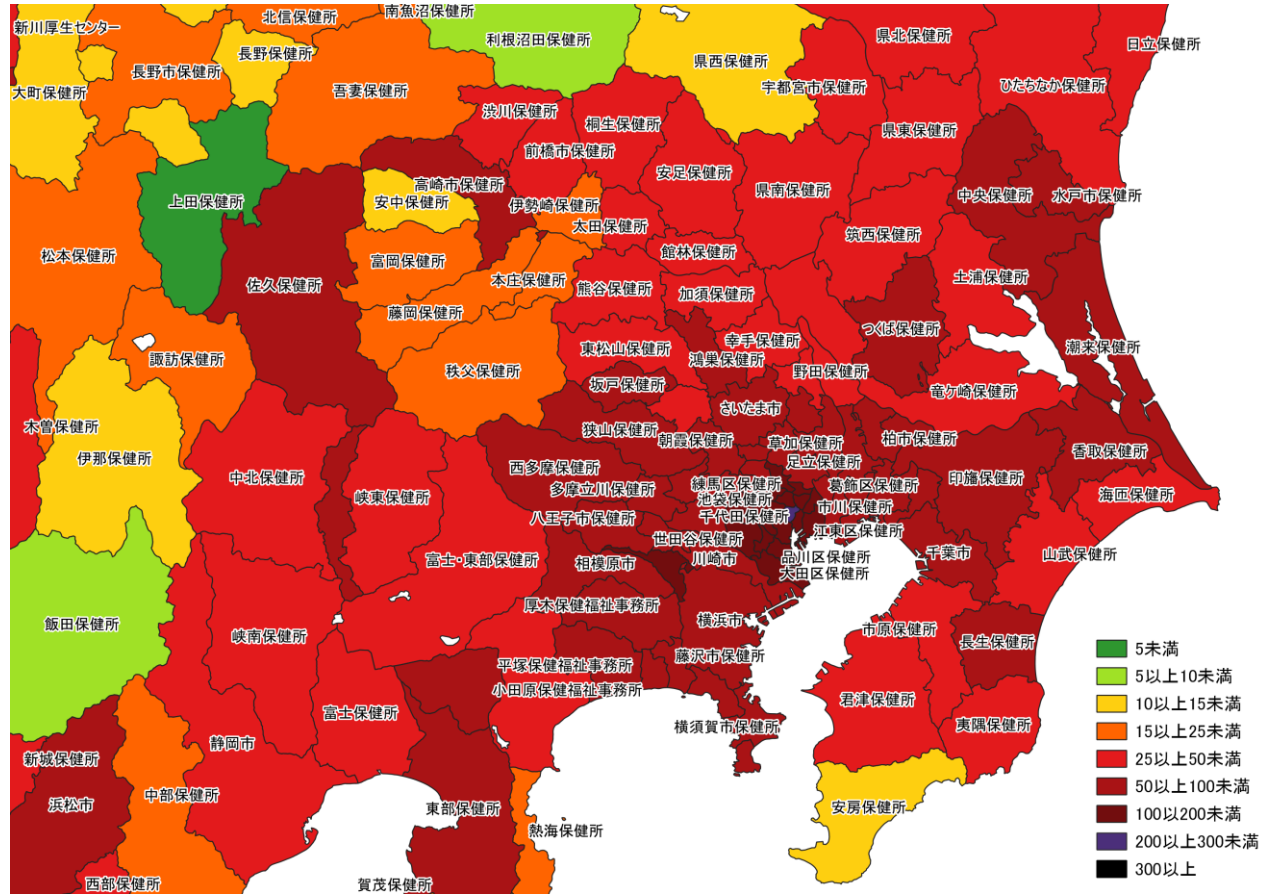
人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
東北地域（HER-SYS情報）





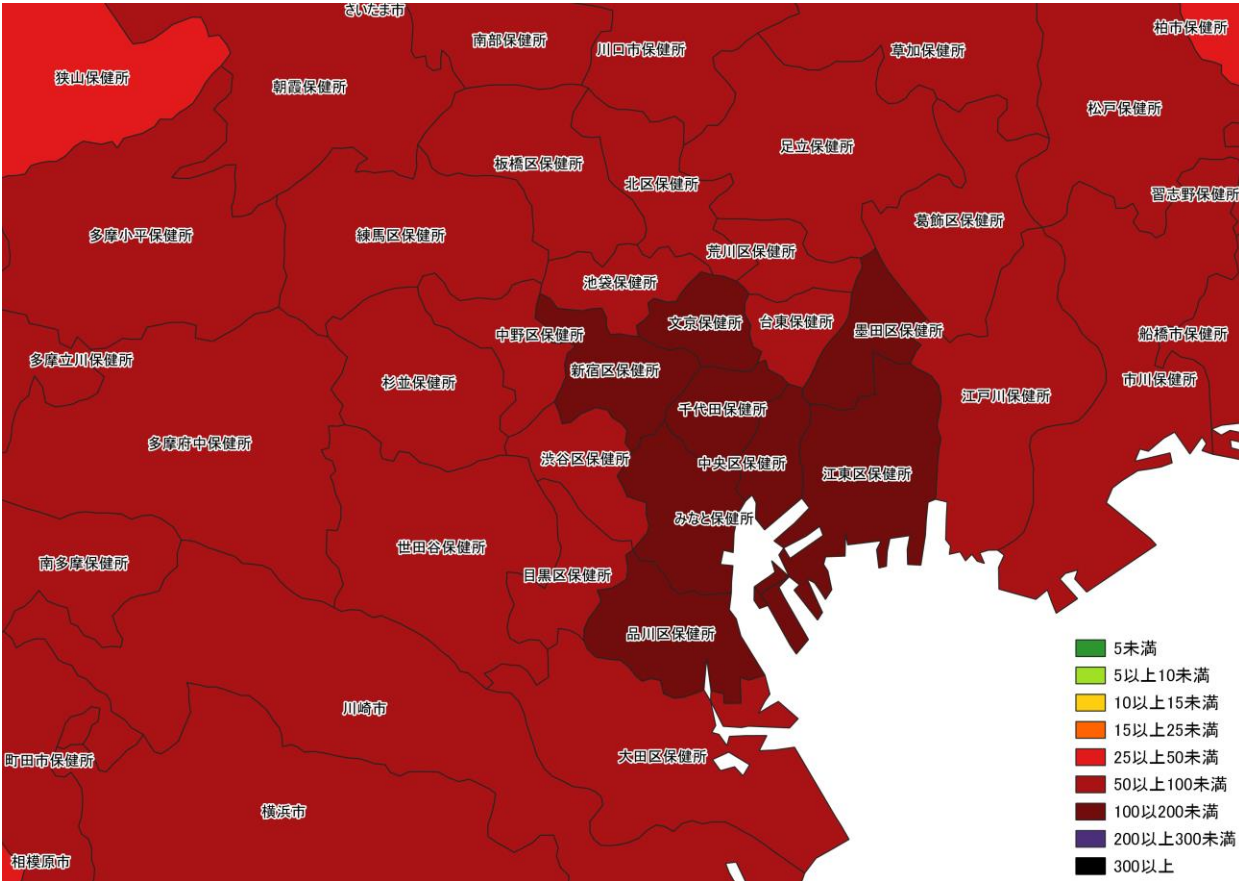
6/12～ 6/18

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
首都圏（HER-SYS情報）



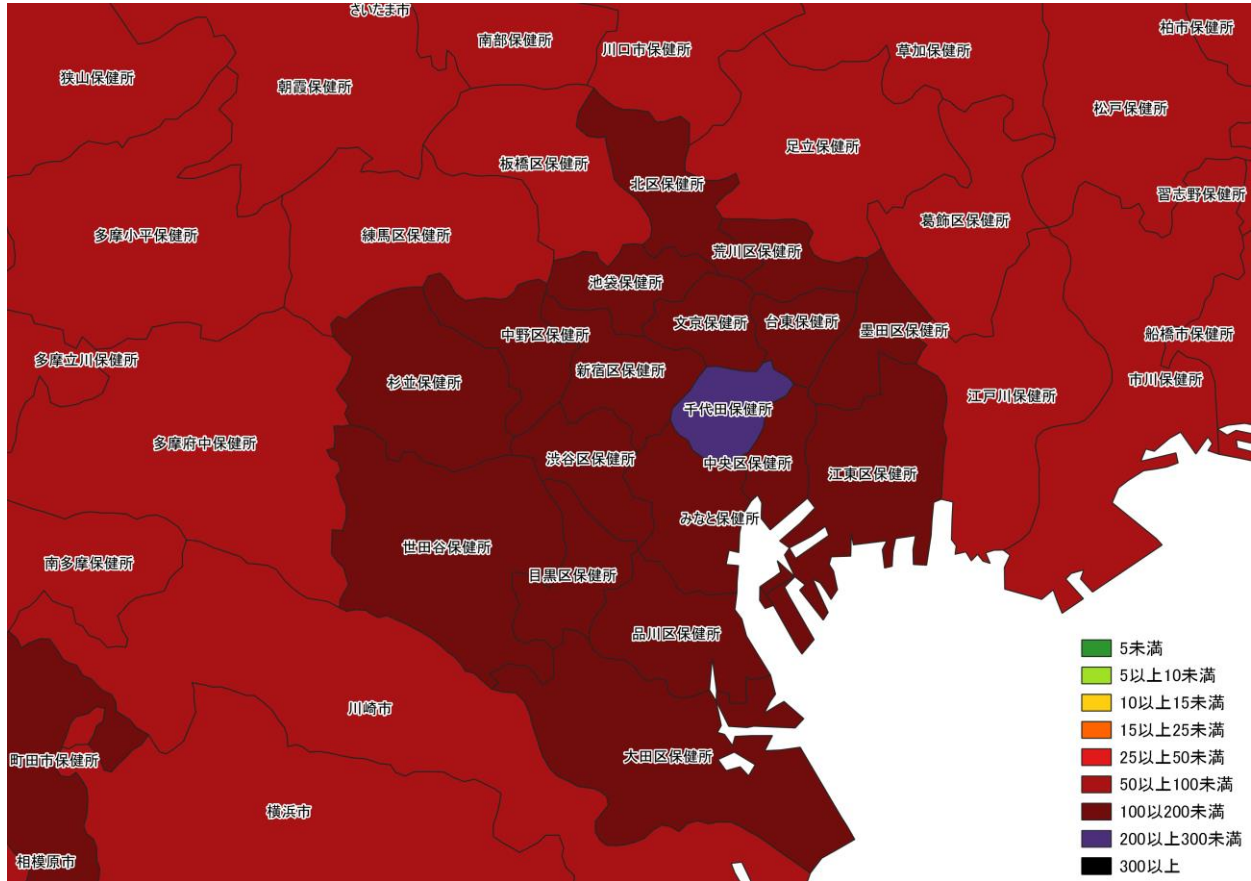
6/19～ 6/25

入力遅れによる過小評価の可能性あり



6/12～ 6/18

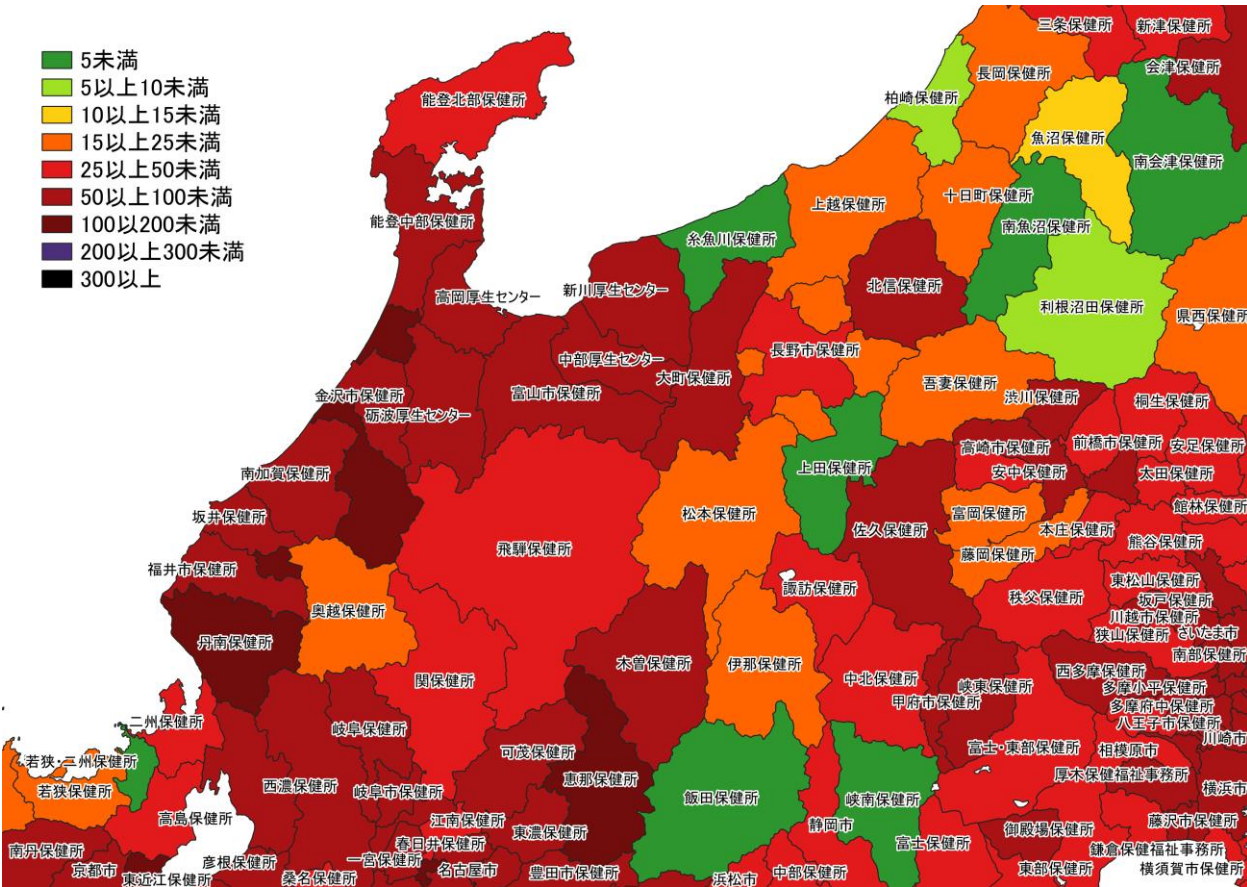
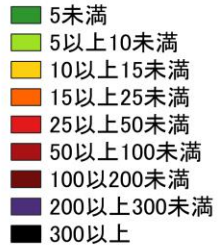
人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
東京周辺（HER-SYS情報）



6/19～ 6/25

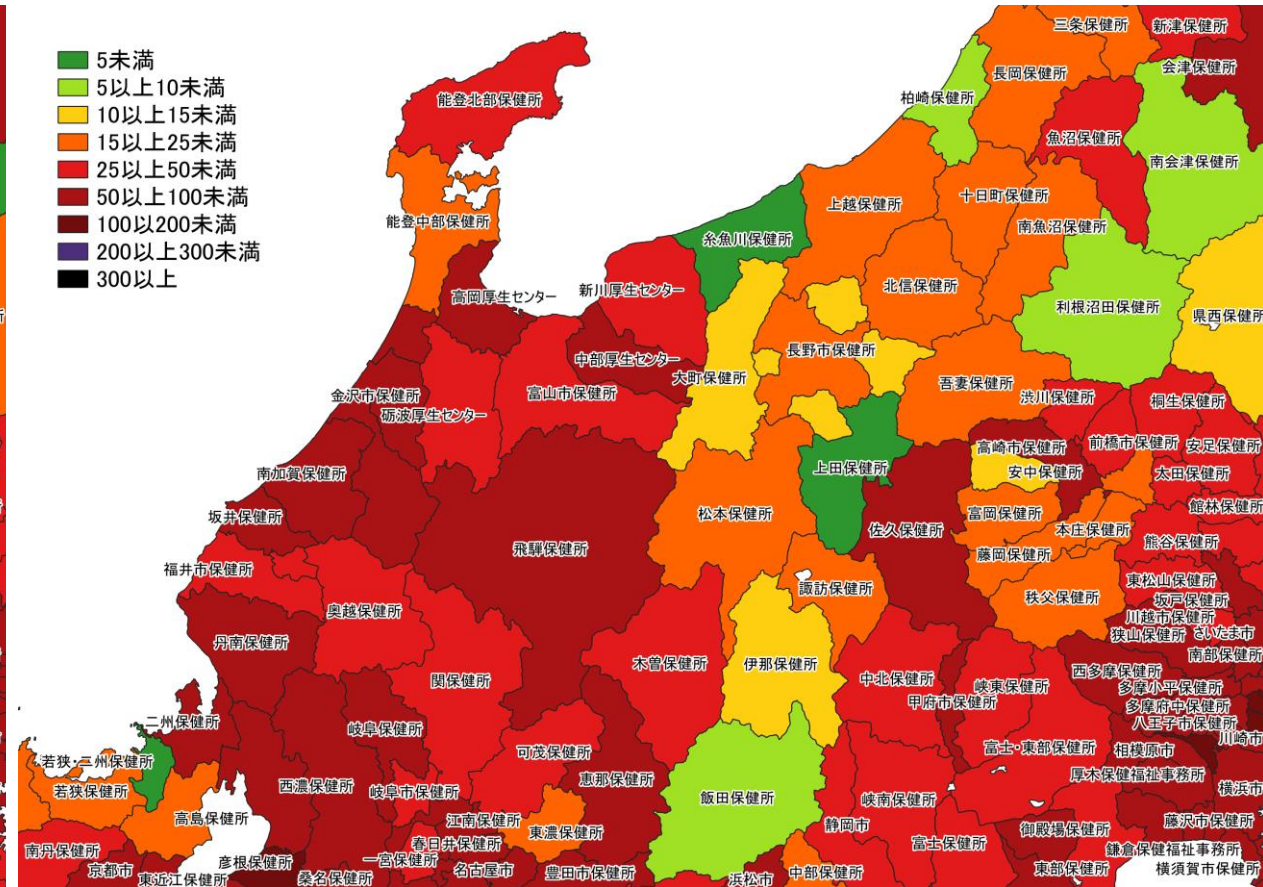
入力遅れによる過小評価の可能性あり





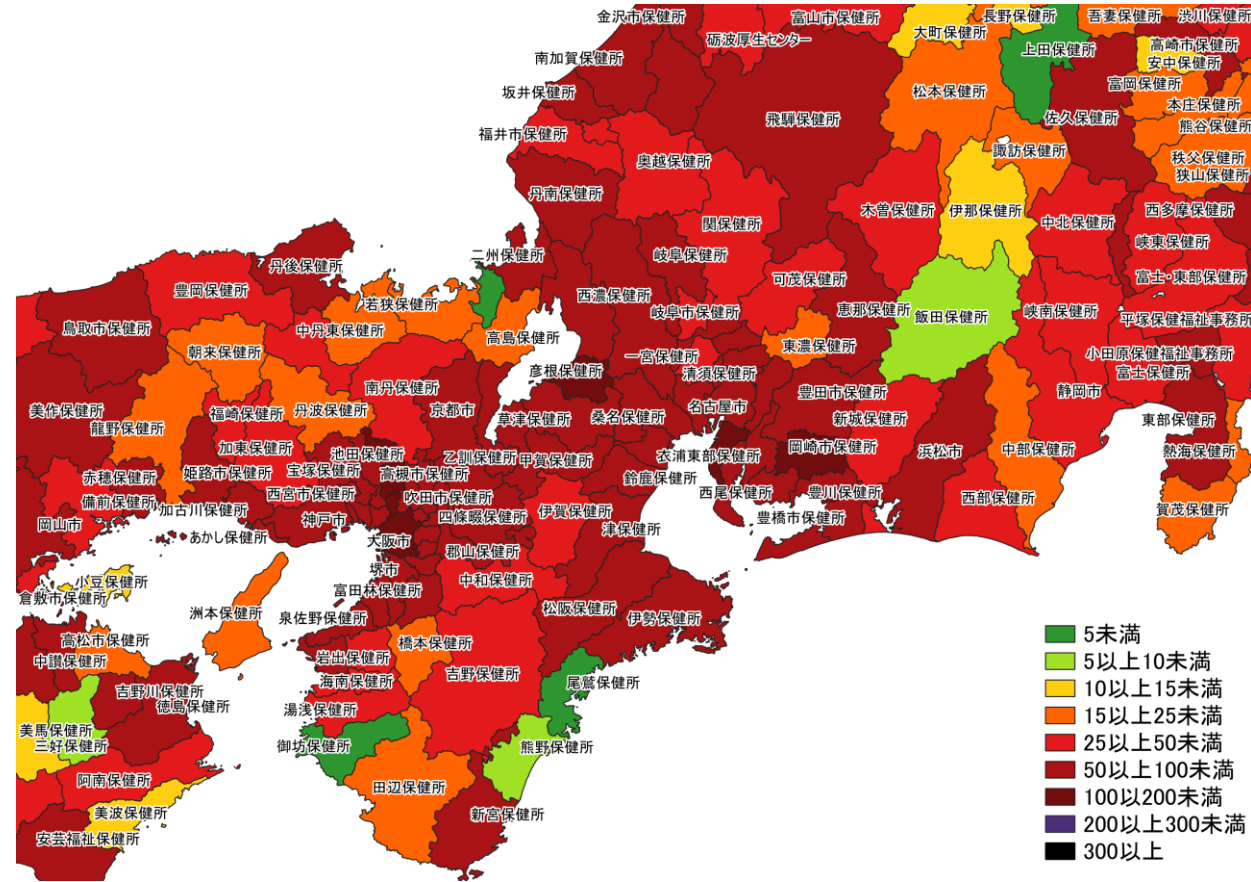
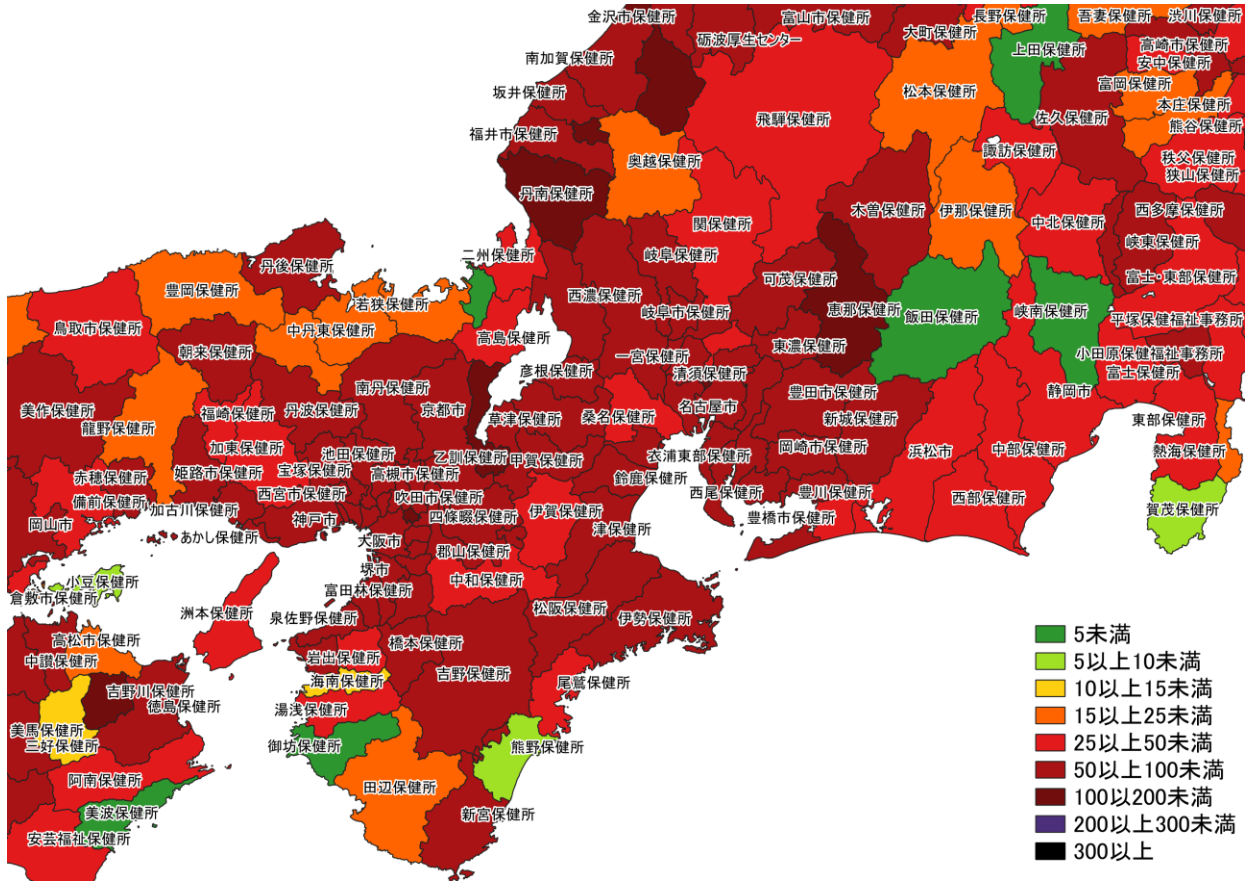
6/12～ 6/18

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
北陸・中部地域（HER-SYS情報）



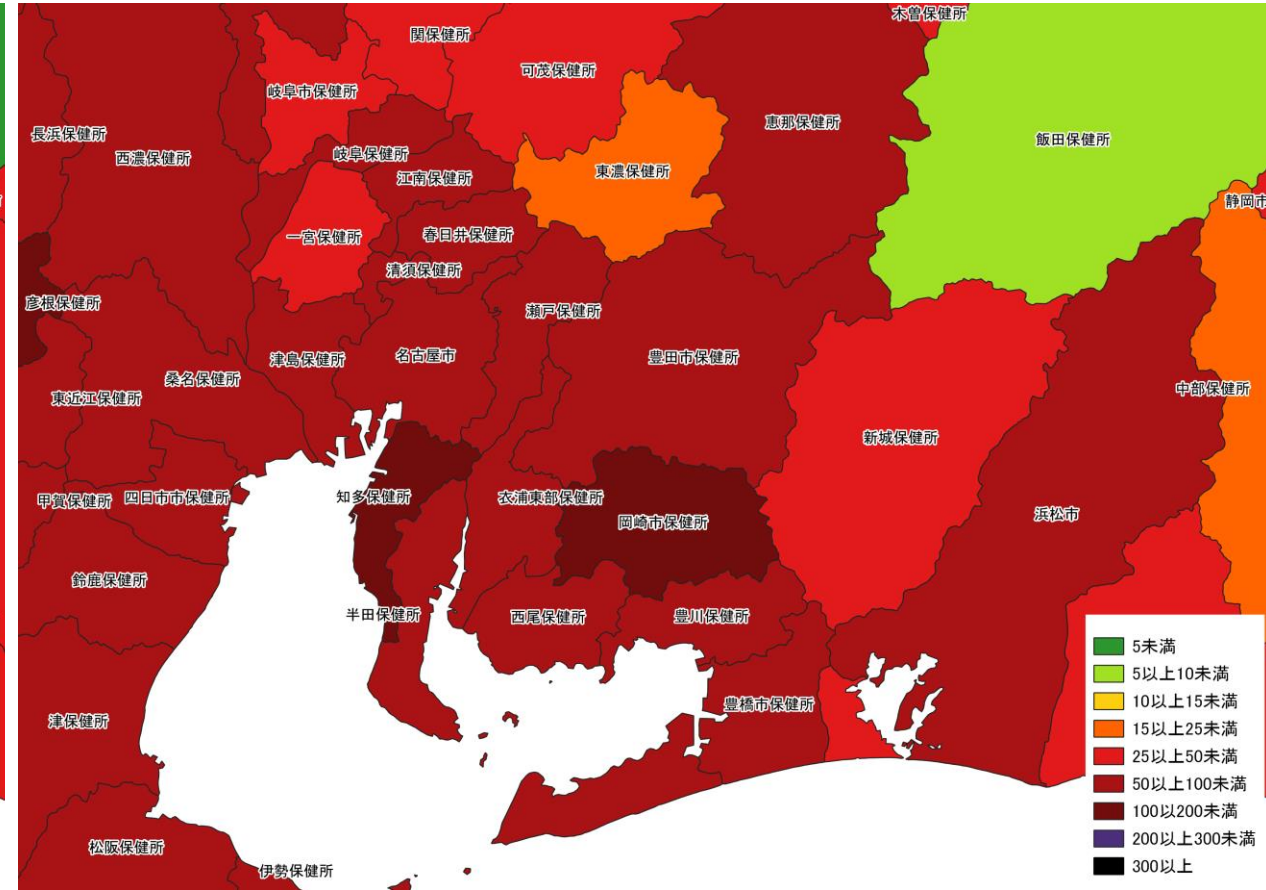
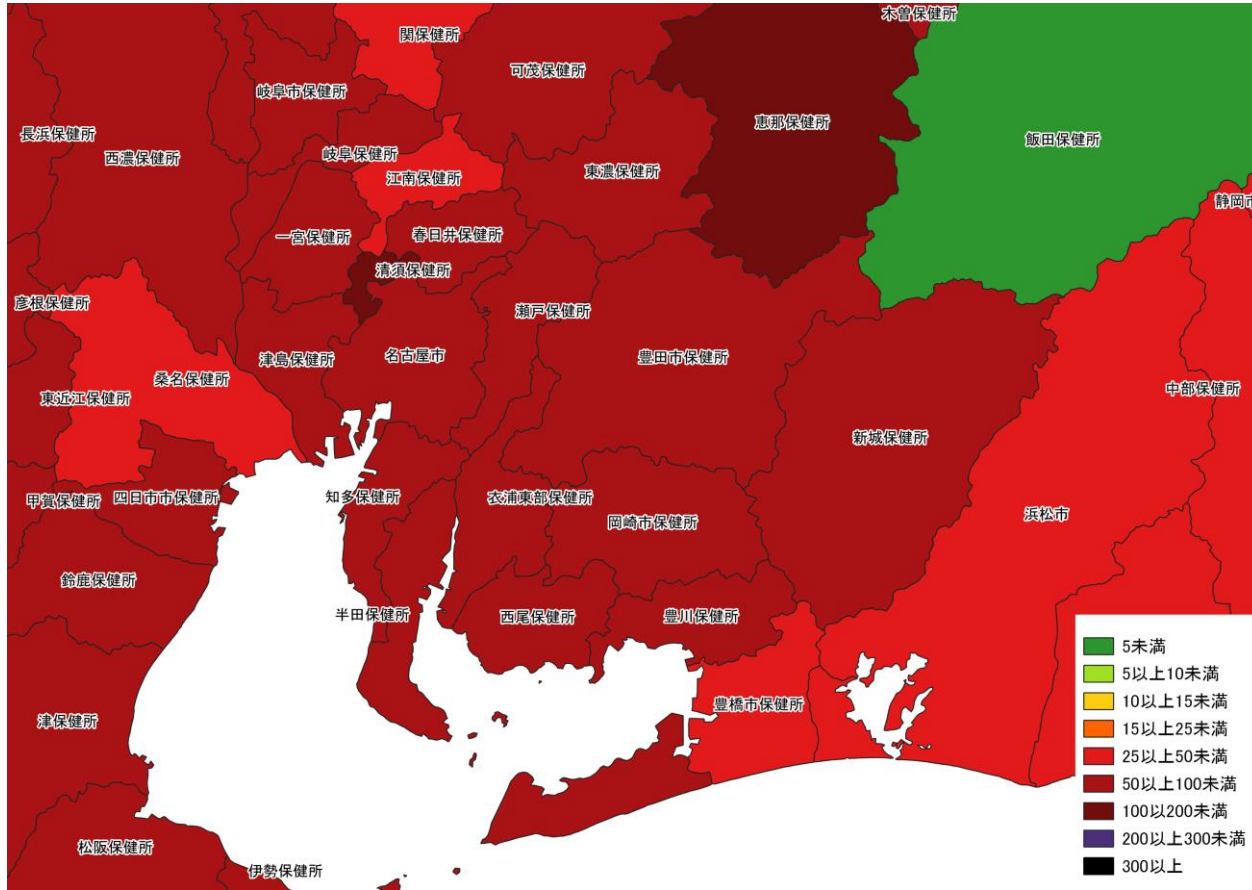
6/19～ 6/25

入力遅れによる過小評価の可能性あり

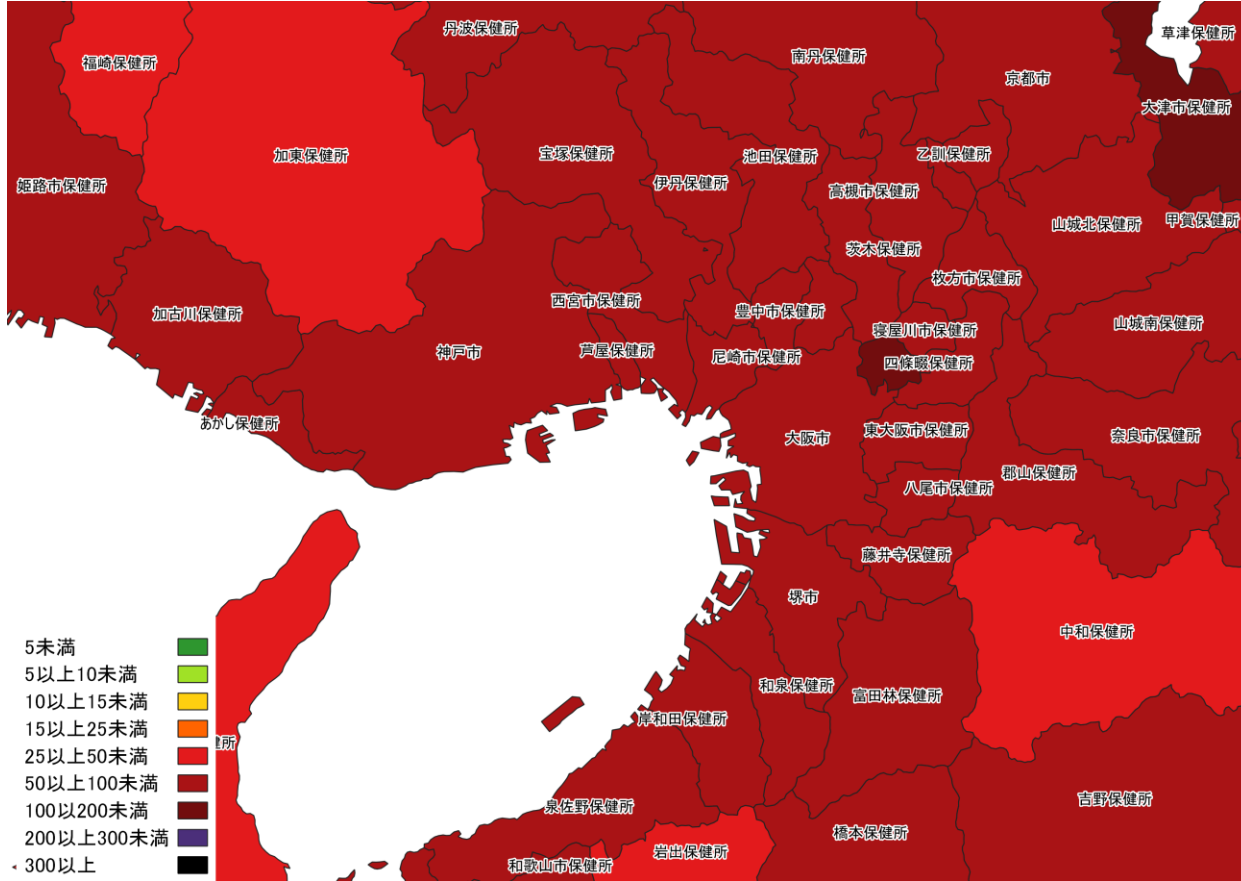


人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
関西・中京圏（HER-SYS情報）



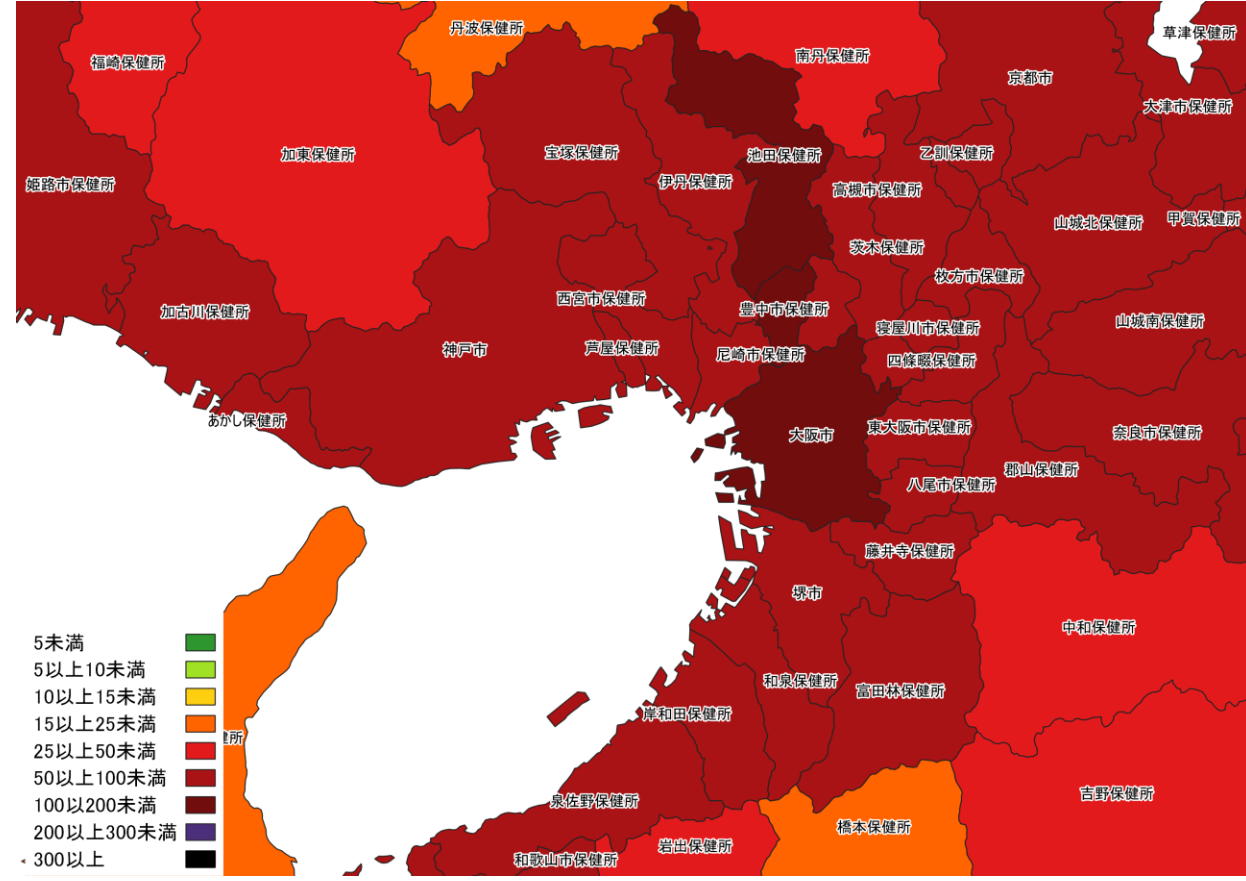


人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
名古屋周辺（HER-SYS情報）



6/12~ 6/18

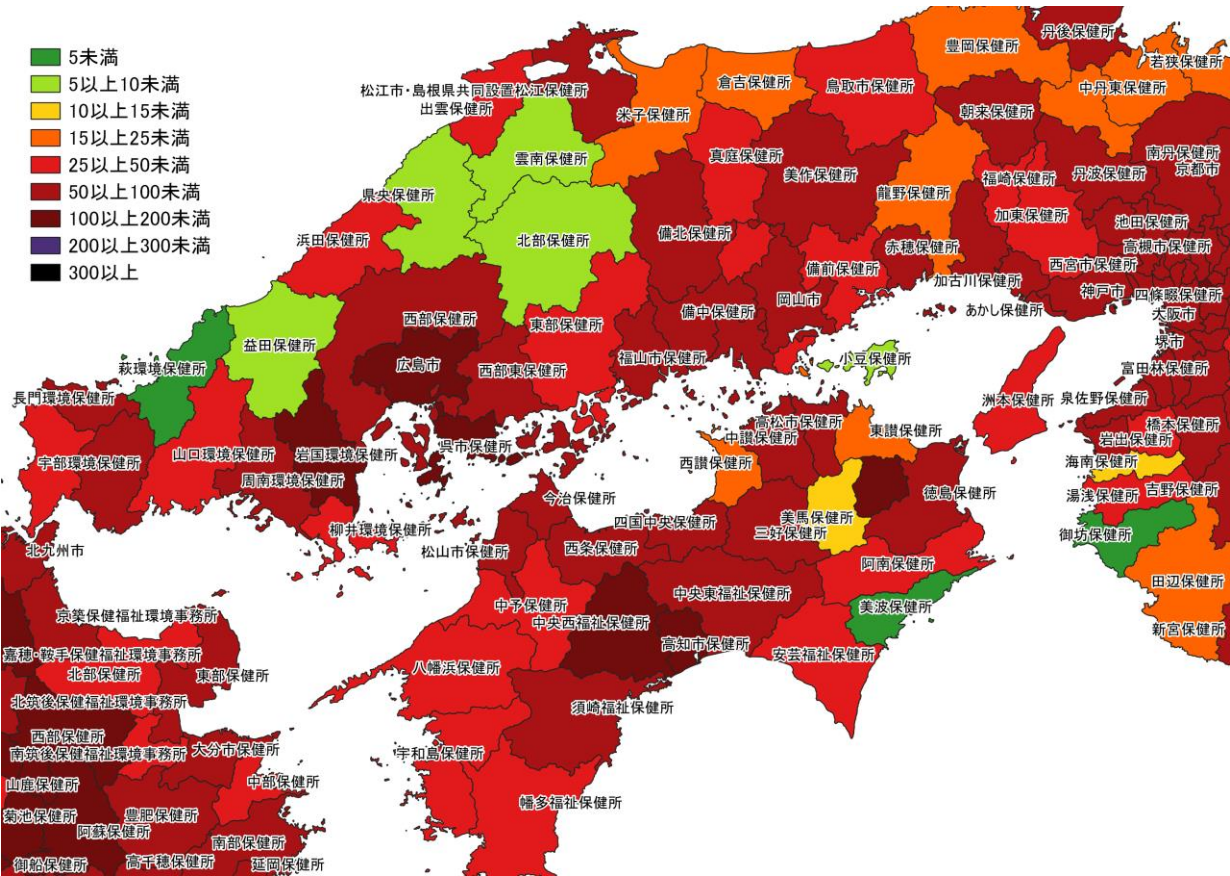
人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
大阪周辺（HER-SYS情報）



6/19~ 6/25

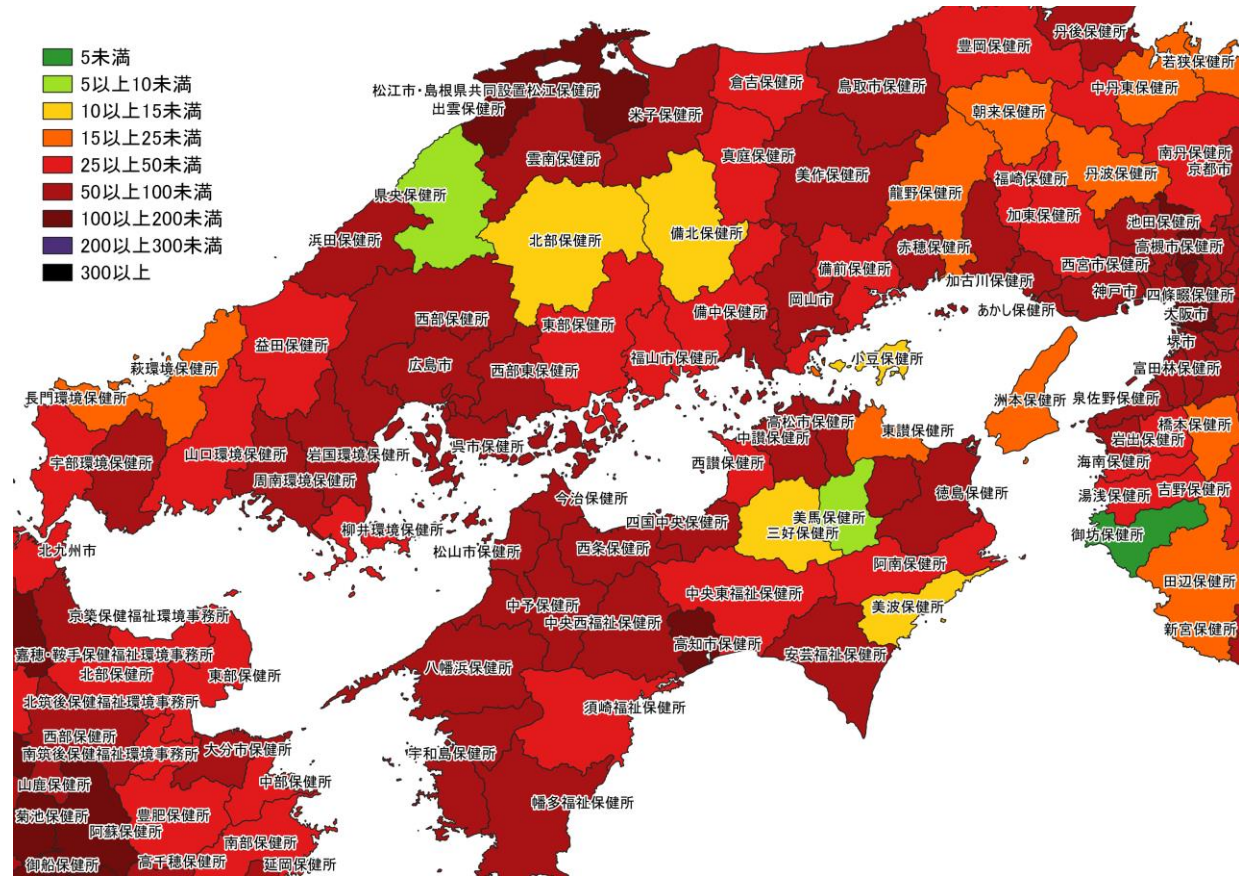
入力遅れによる過小評価の可能性あり





6/12～ 6/18

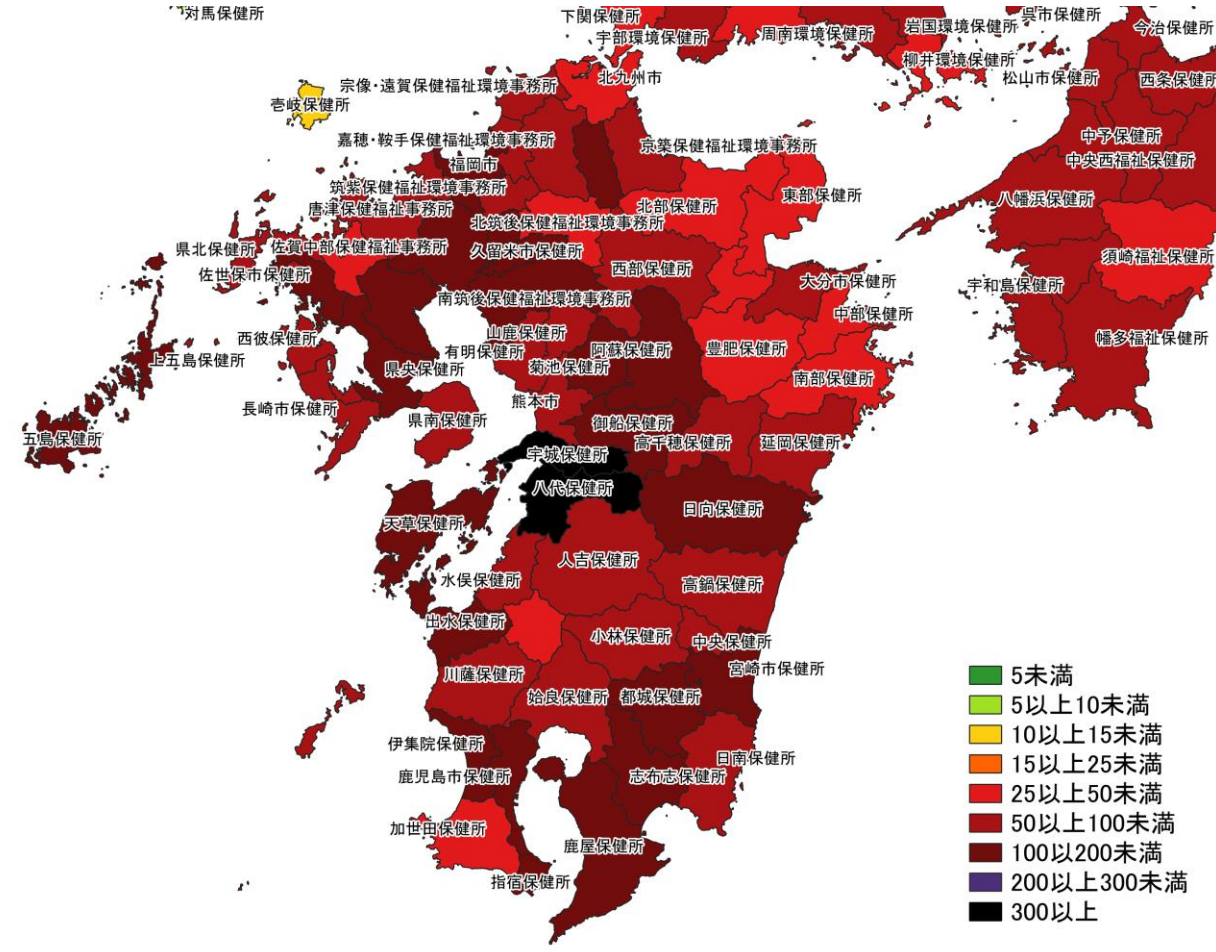
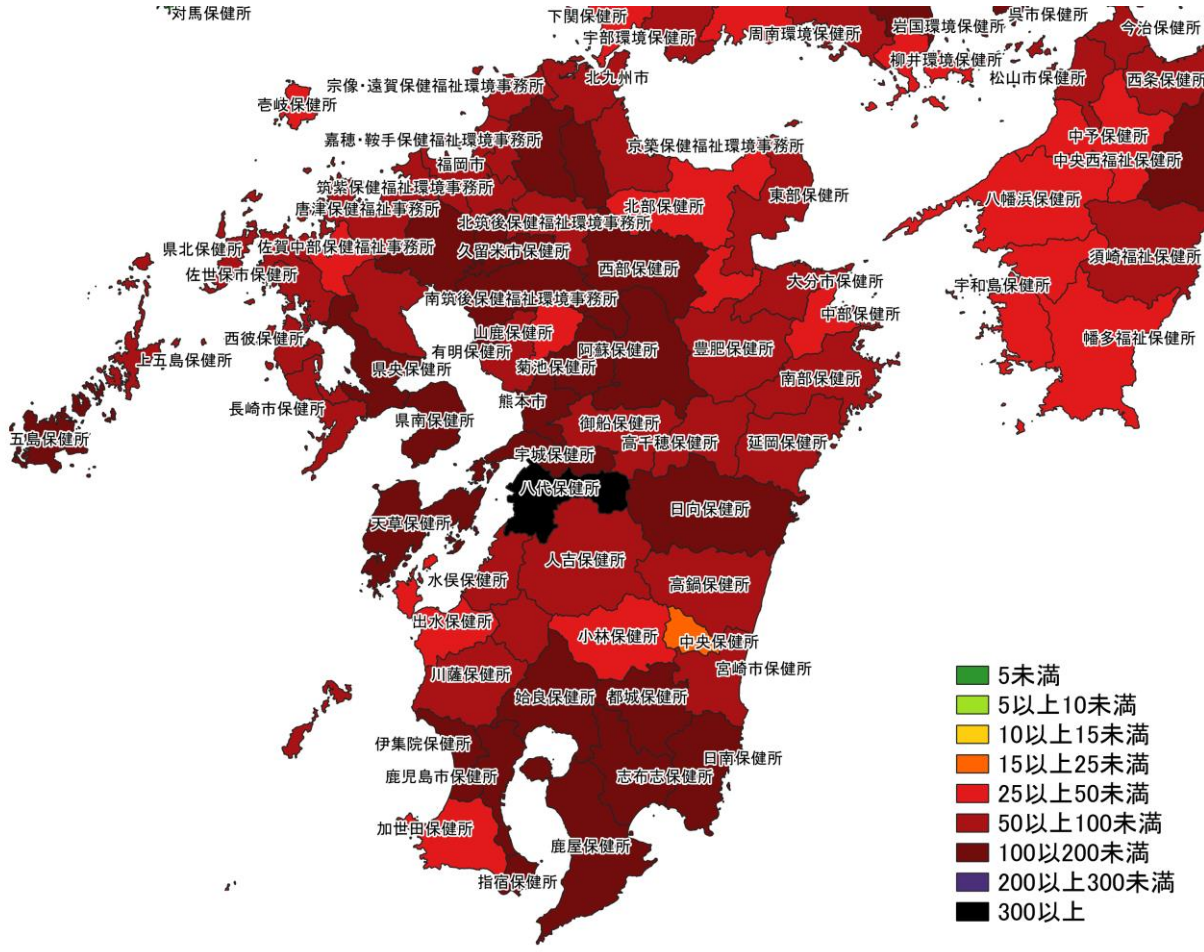
人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
中国・四国地域 (HER-SYS情報)



6/19～ 6/25

入力遅れによる過小評価の可能性あり



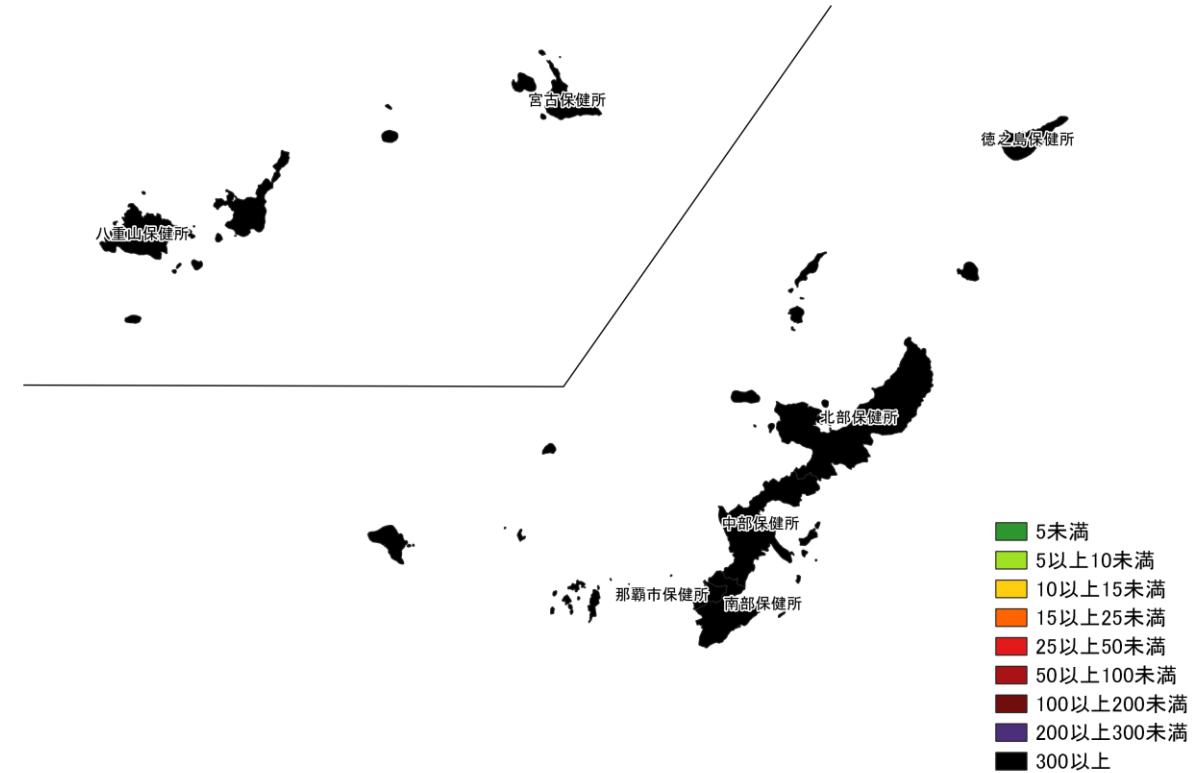


6/12～ 6/18

6/19～ 6/25

入力遅れによる過小評価の可能性あり

人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
九州地域 (HER-SYS情報)



人口10万人あたりの7日間累積新規症例報告数マップ  
沖縄周辺（HER-SYS情報）



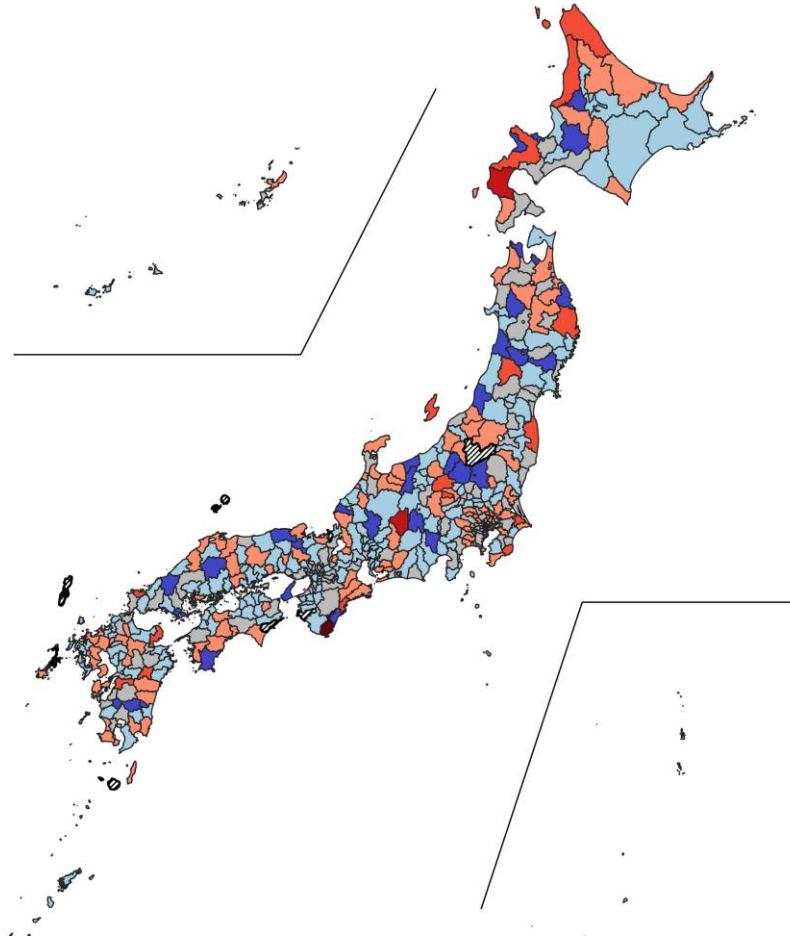
## 7日間累積新規症例報告数 前週比マップ

### 使用データ

- 2022年6月27日時点のHER-SYSデータを用いて、保健所管区別の7日間累積新規症例報告数（診断日）の、前週との比を  
図示する。
- 前週比マップでは、前週の症例数が0の場合、データを得られなかった場合は比を算出できないためNAとした。
- 集計は日曜日から土曜日であり、疫学週（月曜日から日曜日）とは異なる。
- **データ入力や公表の遅れを考慮し、直近1週間は参考資料とする。**

### まとめ

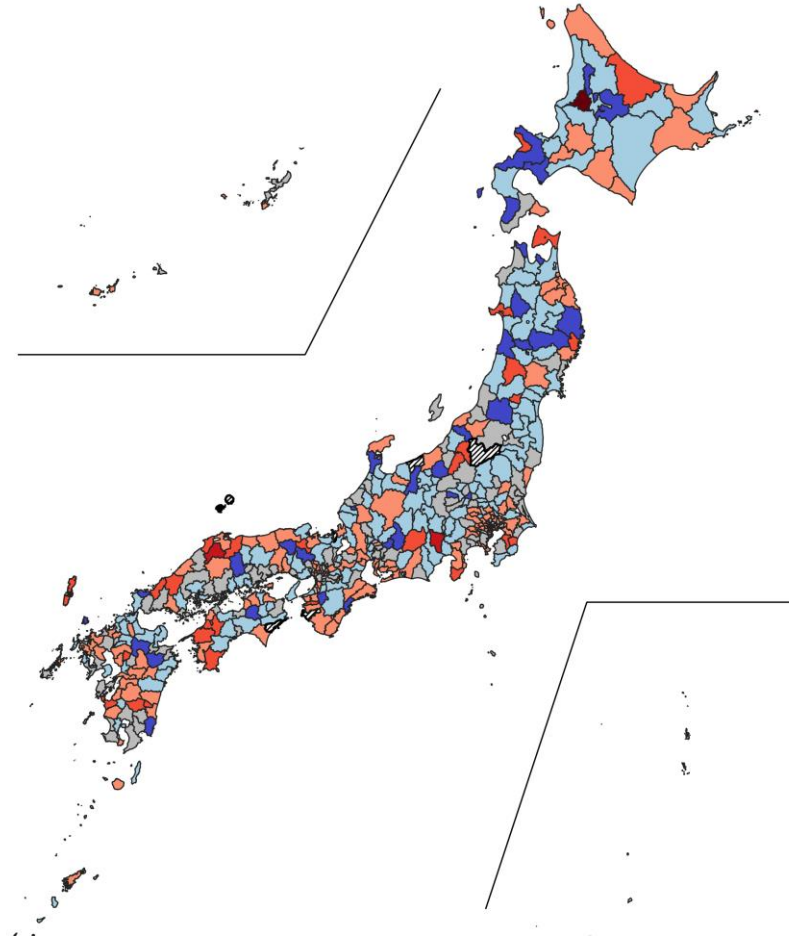
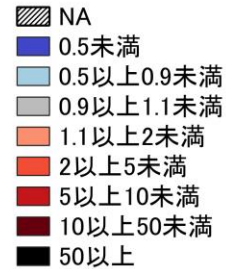
- 全国的に、前週比0.9を下回る地域と前週比1.1を上回る地域が混在している。
- 直近では、前週比2を上回る地域が増加。
- 直近では、東京周辺で広範囲で前週比1.1を上回っている。



6/5~6/11  
6/12~6/18

前週比2以上の保健所管区

- 北海道倶知安保健所
- 北海道稚内保健所
- 北海道八雲保健所
- 北海道留萌保健所
- 岩手県宮古保健所
- 山形県最上保健所
- 福島県相双保健所
- 群馬県安中保健所
- 群馬県吾妻保健所
- 千葉県夷隅保健所
- 千葉県香取保健所
- 新潟県佐渡保健所
- 長野県木曾保健所
- 三重県尾鷲保健所
- 和歌山県新宮保健所
- 山口県長門環境保健所
- 熊本県八代保健所
- 大分県東部保健所
- 宮崎県高千穂保健所



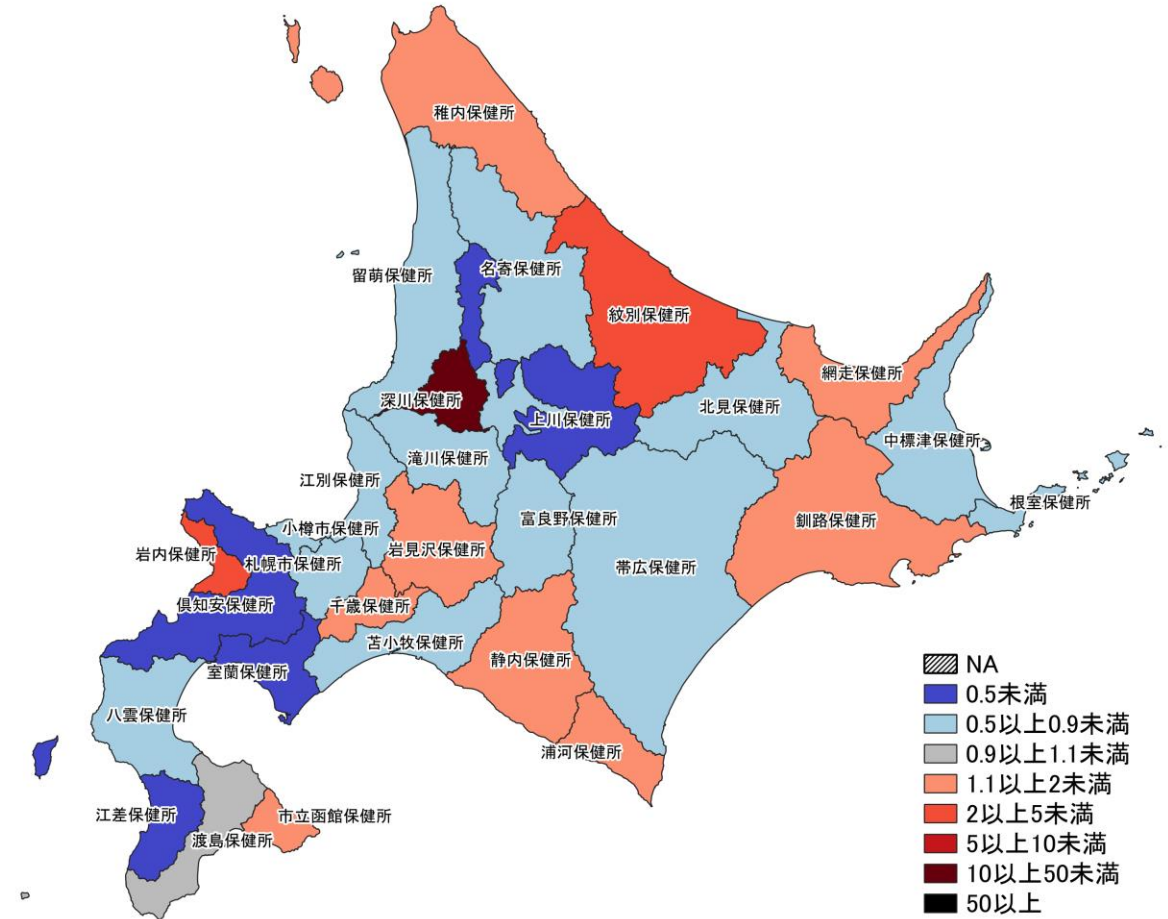
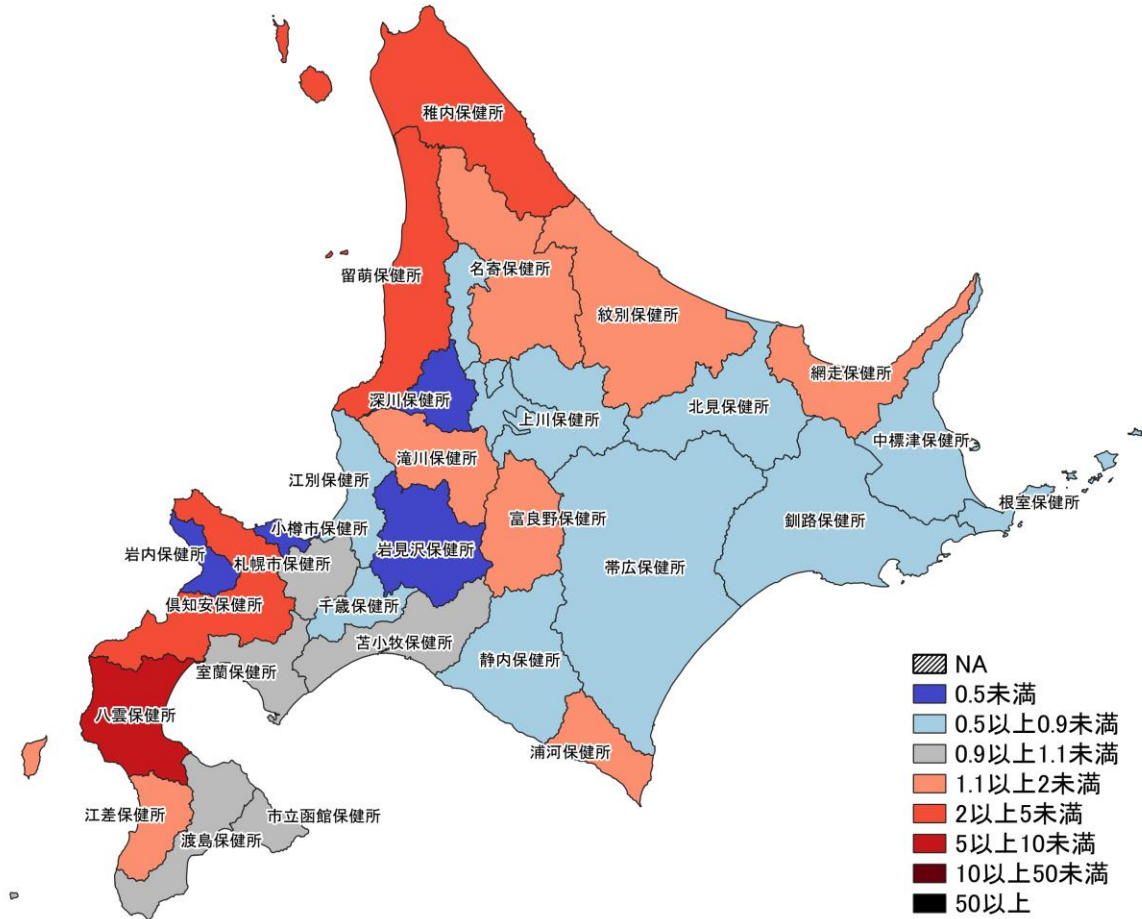
6/12~6/18  
6/19~6/25

前週比2以上の保健所管区

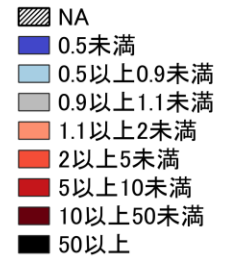
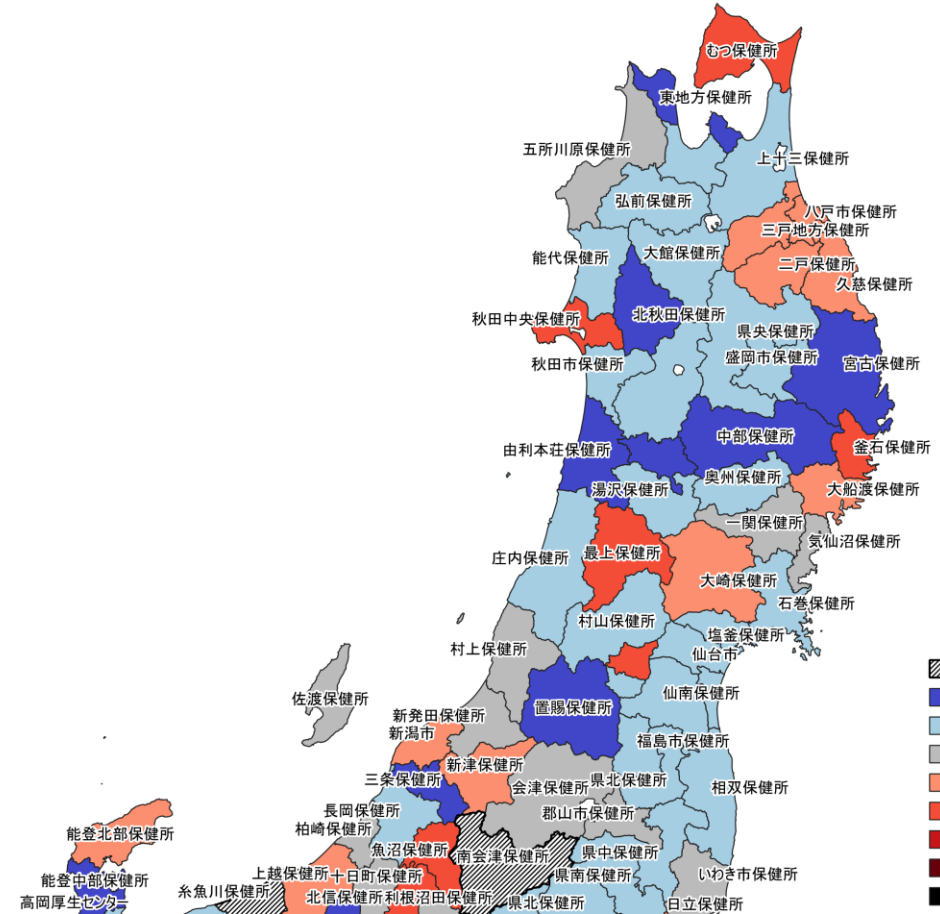
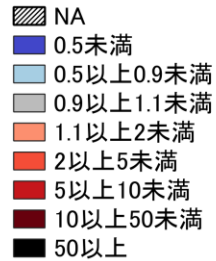
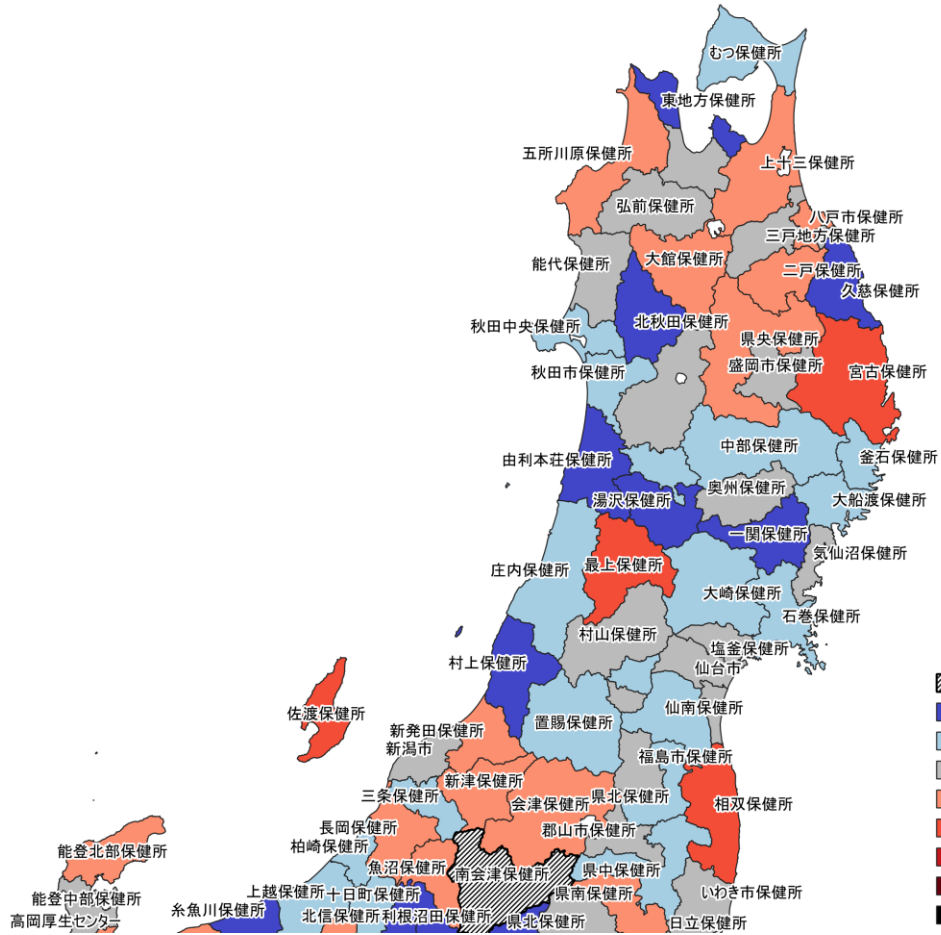
- 北海道岩内保健所
- 北海道深川保健所
- 北海道紋別保健所
- 青森県むつ保健所
- 岩手県釜石保健所
- 秋田県秋田中央保健所
- 山形県山形市保健所
- 山形県最上保健所
- 千葉県長生保健所
- 千葉県市原保健所
- 東京都台東保健所
- 新潟県魚沼保健所
- 新潟県南魚沼保健所
- 山梨県峡南保健所
- 長野県飯田保健所
- 静岡県賀茂保健所
- 京都府丹西保健所
- 和歌山県海南保健所
- 鳥取県米子保健所
- 島根県出雲保健所
- 島根県益田保健所
- 島根県雲南保健所
- 山口県萩環境保健所
- 愛媛県八幡浜保健所
- 愛媛県中予保健所
- 高知県幡多福祉保健所
- 長崎県対馬保健所
- 熊本県山鹿保健所
- 宮崎県小林保健所
- 宮崎県中央保健所
- 鹿児島県出水保健所

入力遅れによる過小評価の可能性あり

7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
保健所単位 (HER-SYS情報)



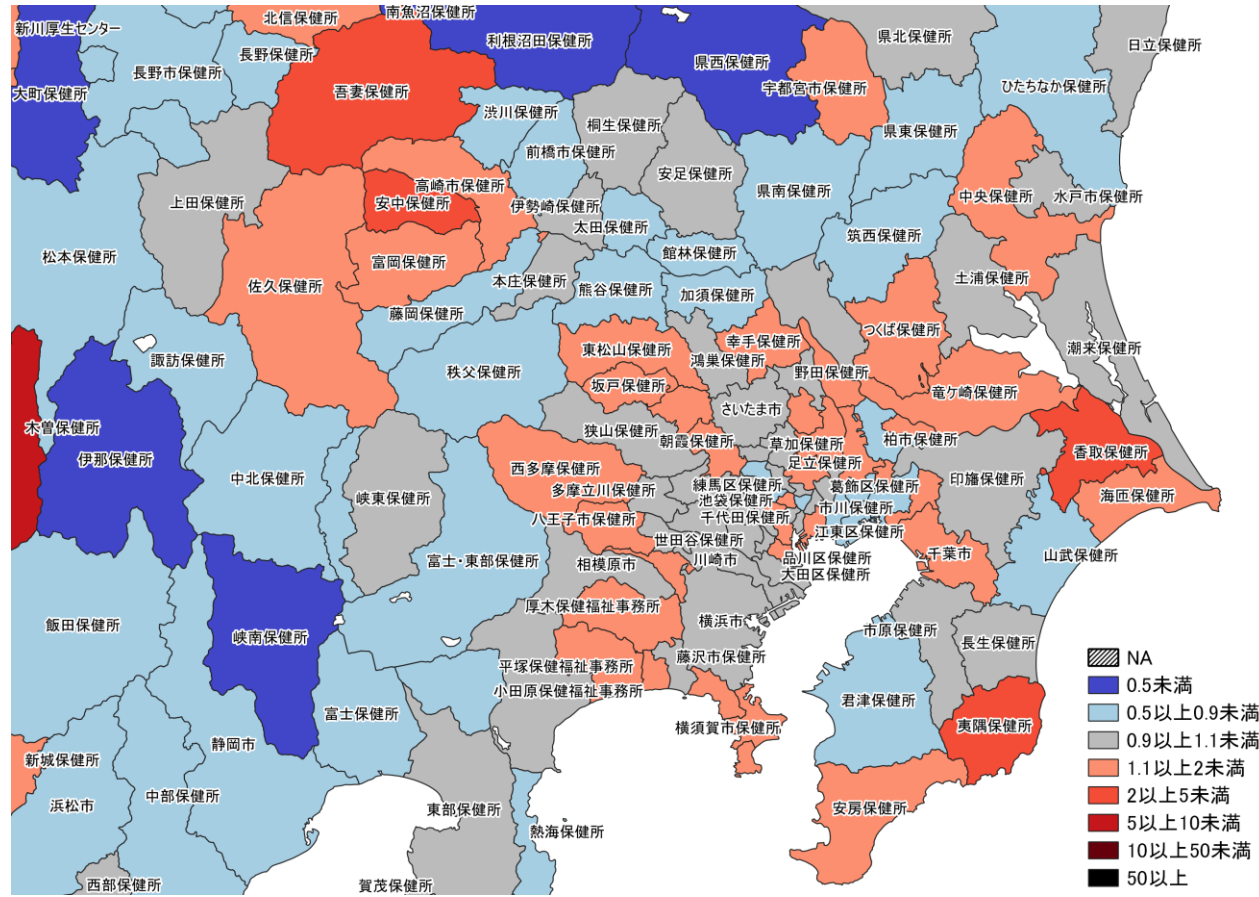
7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
北海道 (HER-SYS情報)



入力遅れによる過小評価の可能性あり

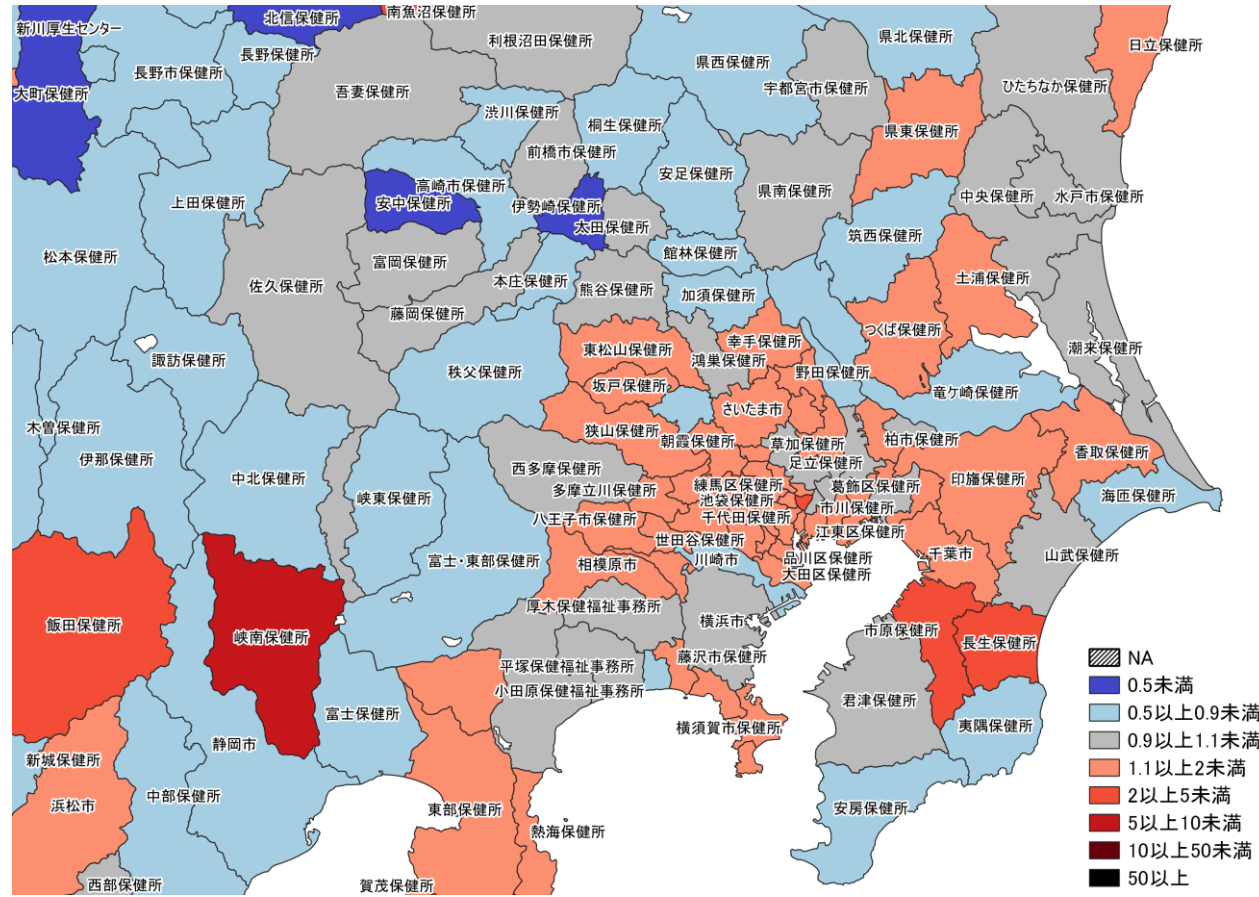
7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
東北地域 (HER-SYS情報)





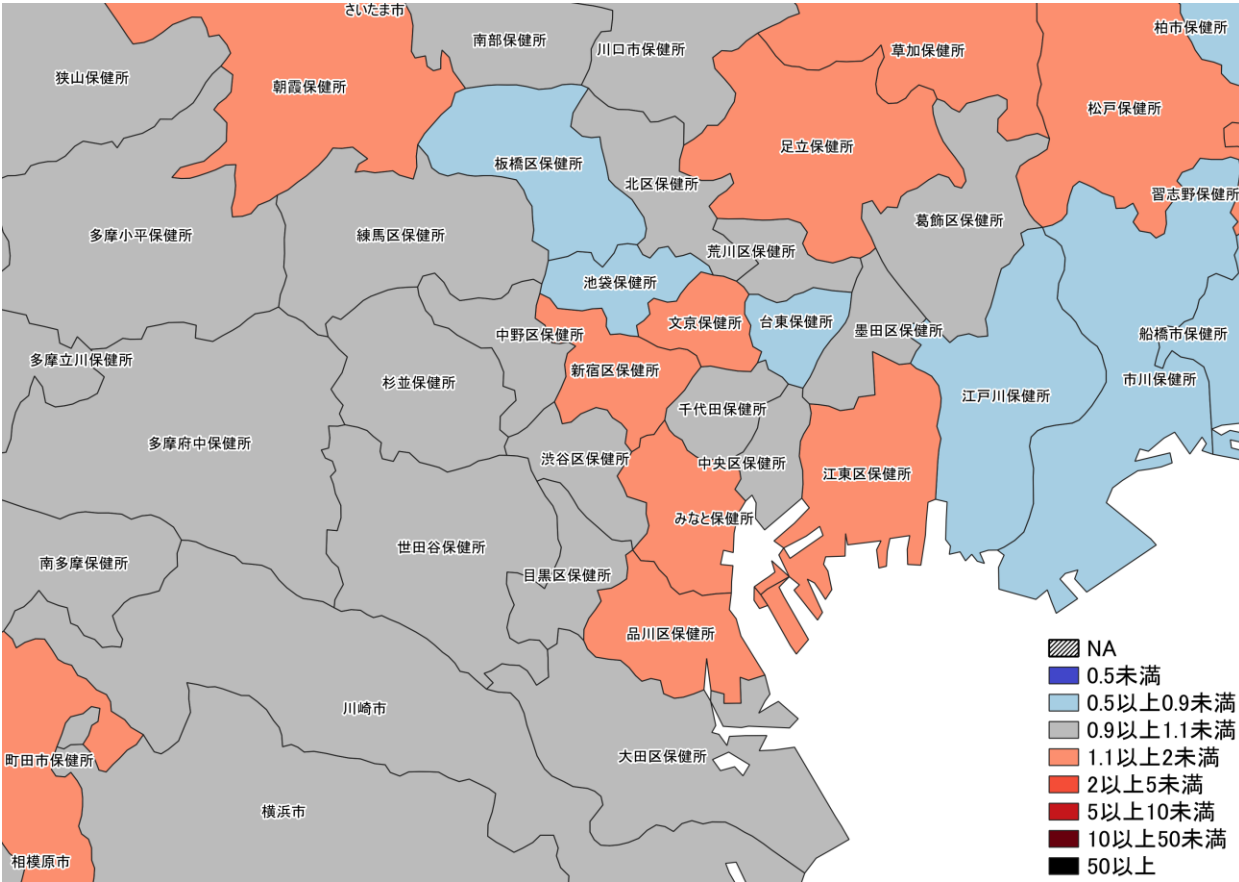
6/5~6/11  
6/12~6/18

7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
首都圏 (HER-SYS情報)



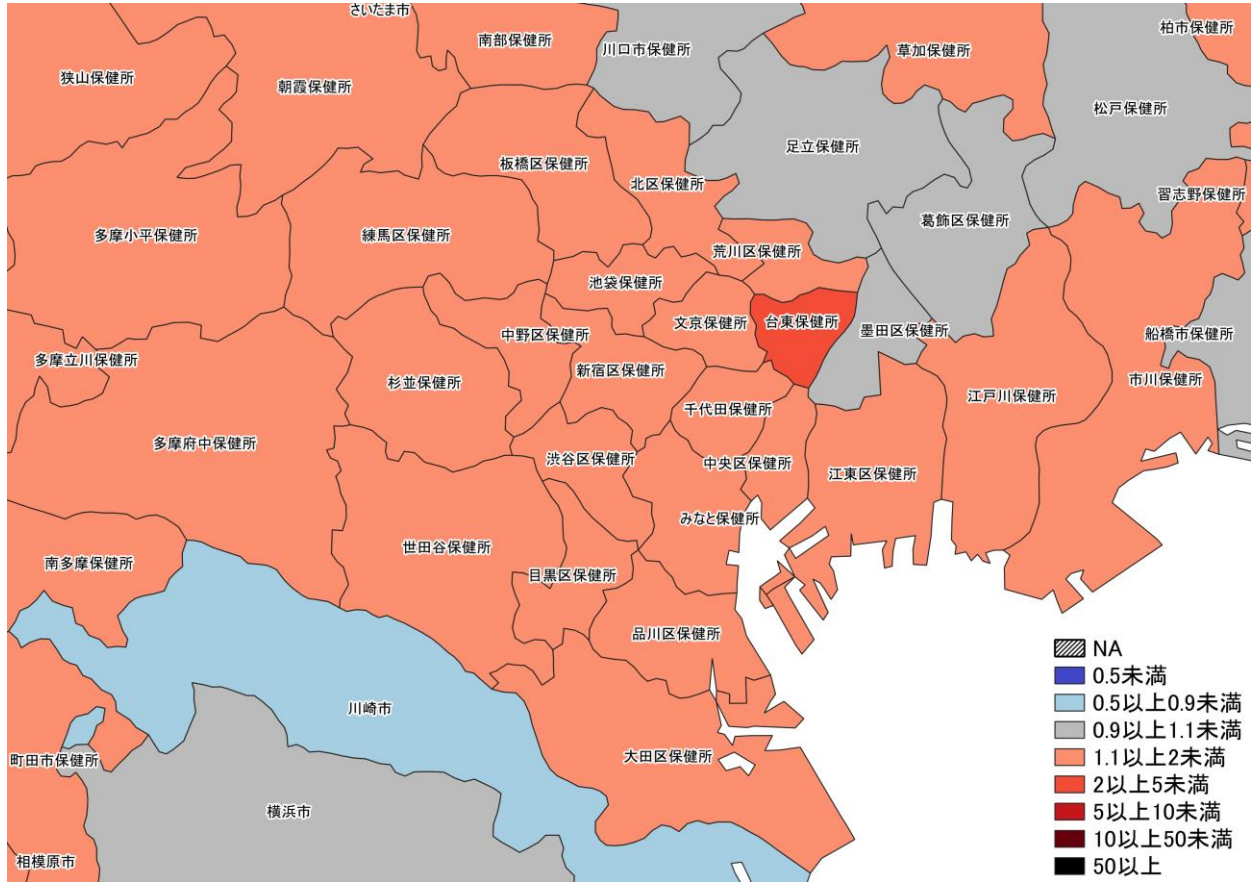
6/12~6/18  
6/19~6/25

入力遅れによる過小評価の可能性あり



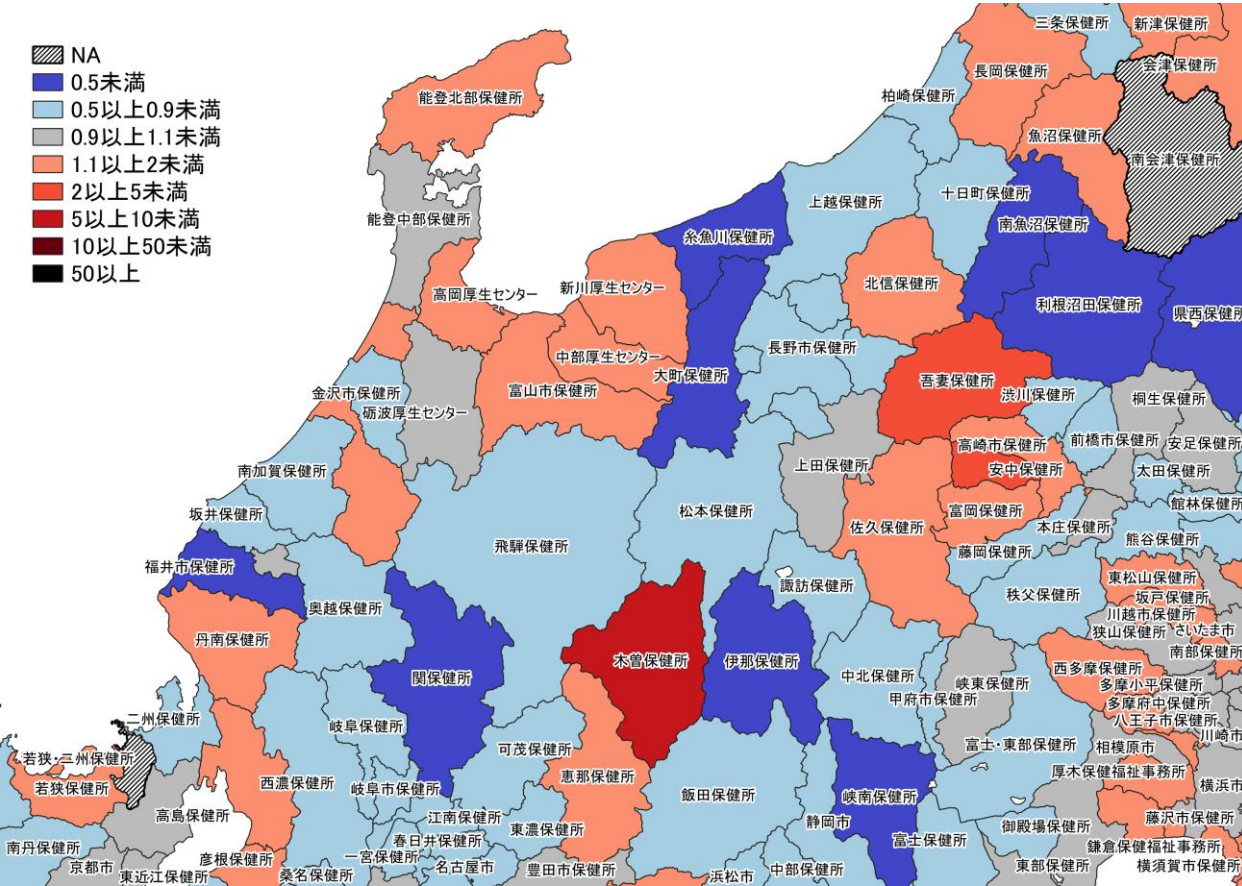
6/5~6/11  
6/12~6/18

7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
東京周辺 (HER-SYS情報)



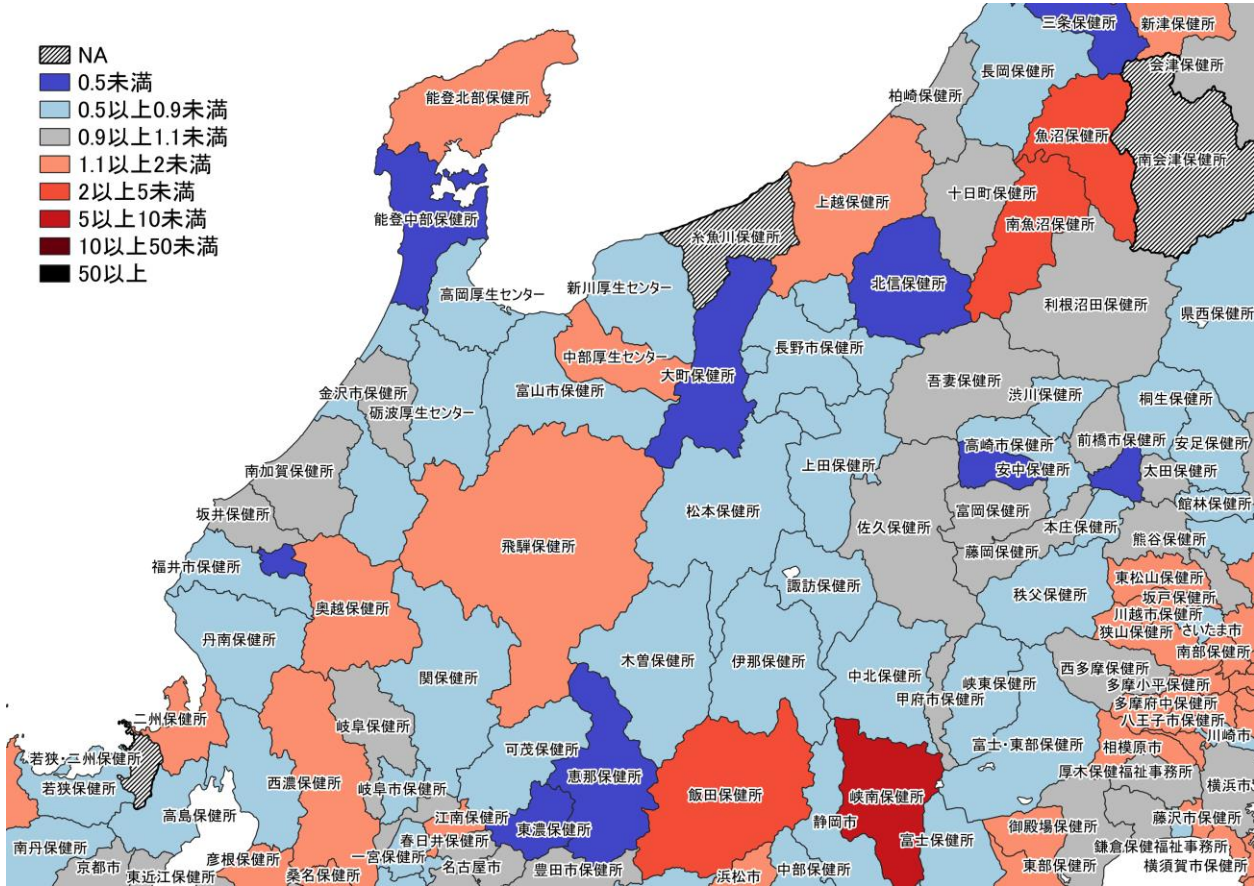
6/12~6/18  
6/19~6/25 入力遅れによる過小評価の可能性あり





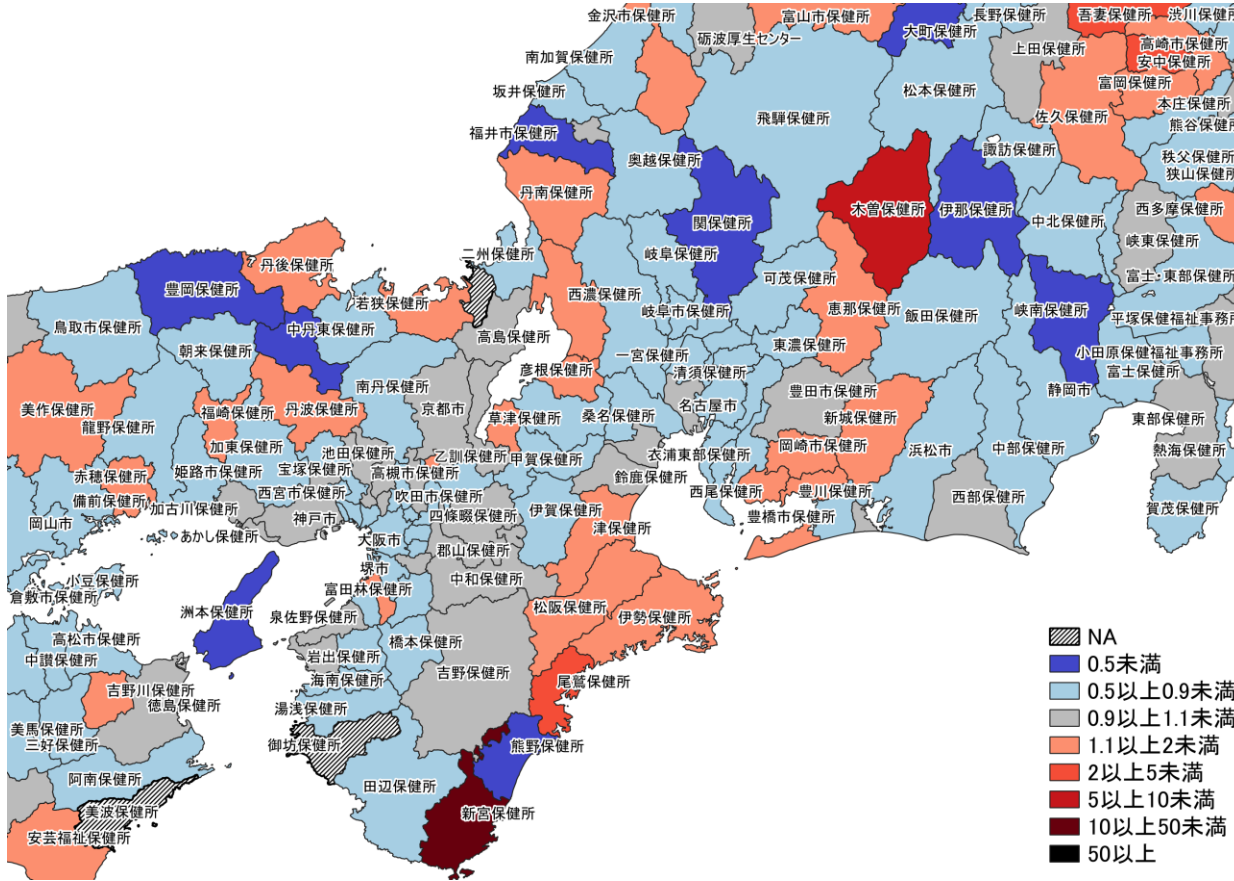
6/5~6/11  
6/12~6/18

7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
北陸・中部地域 (HER-SYS情報)



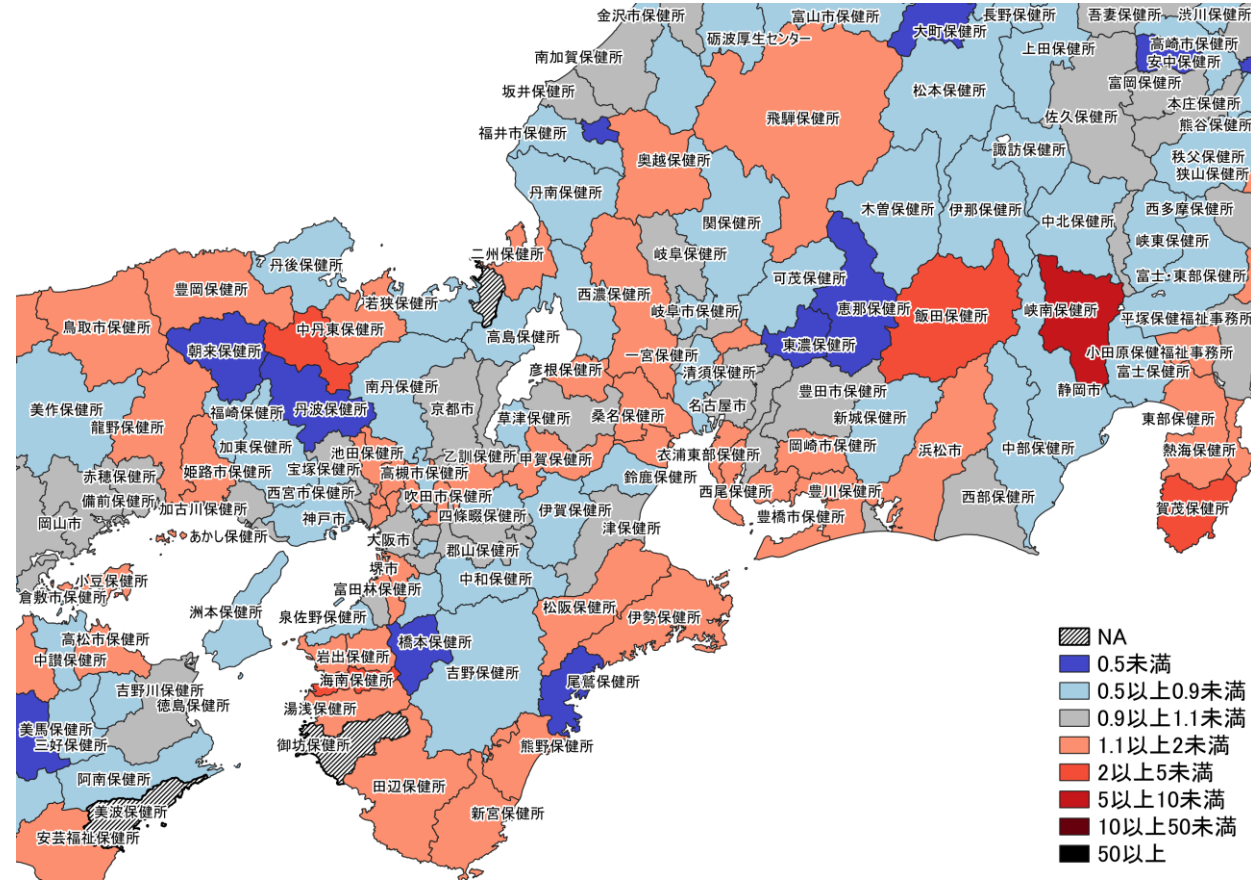
6/12~6/18  
6/19~6/25 入力遅れによる過小評価の可能性あり



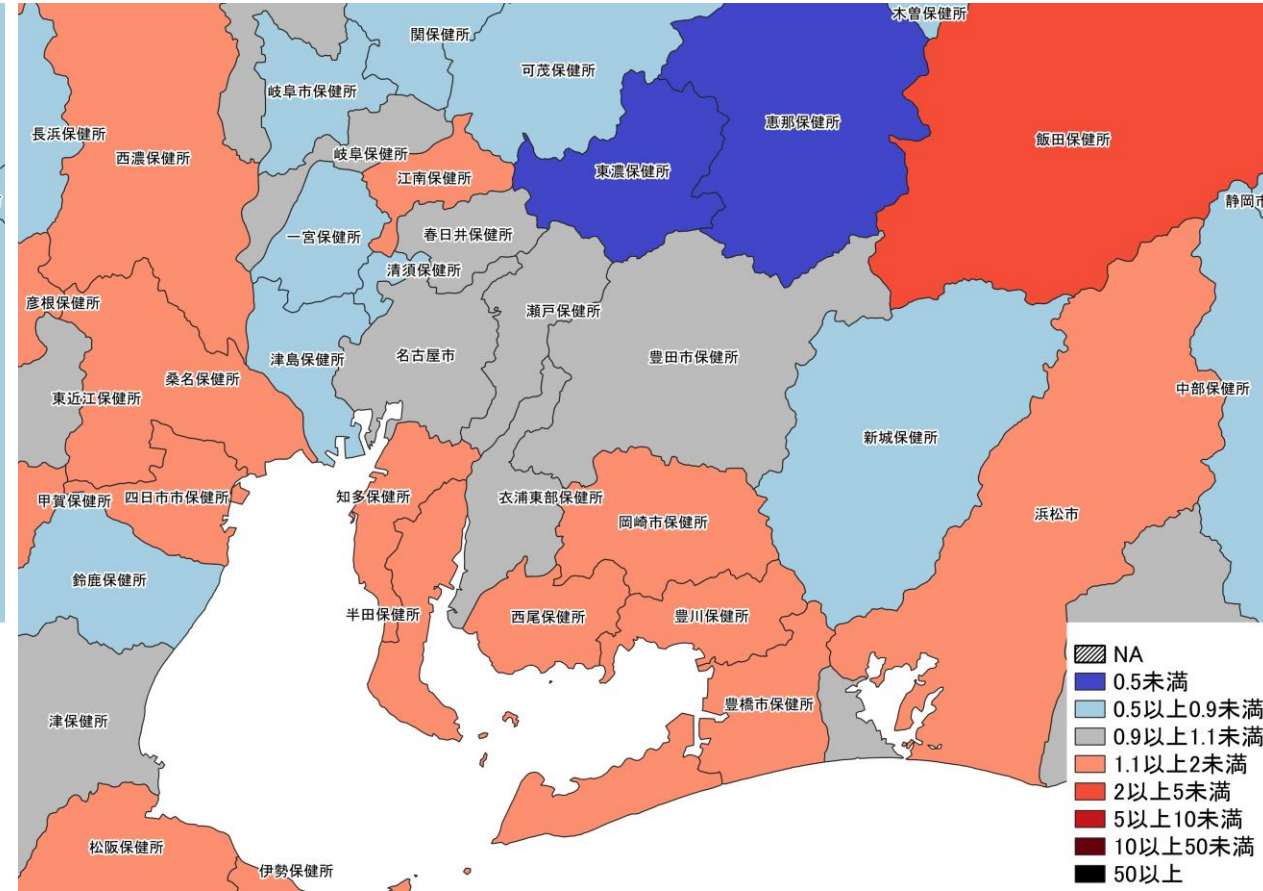
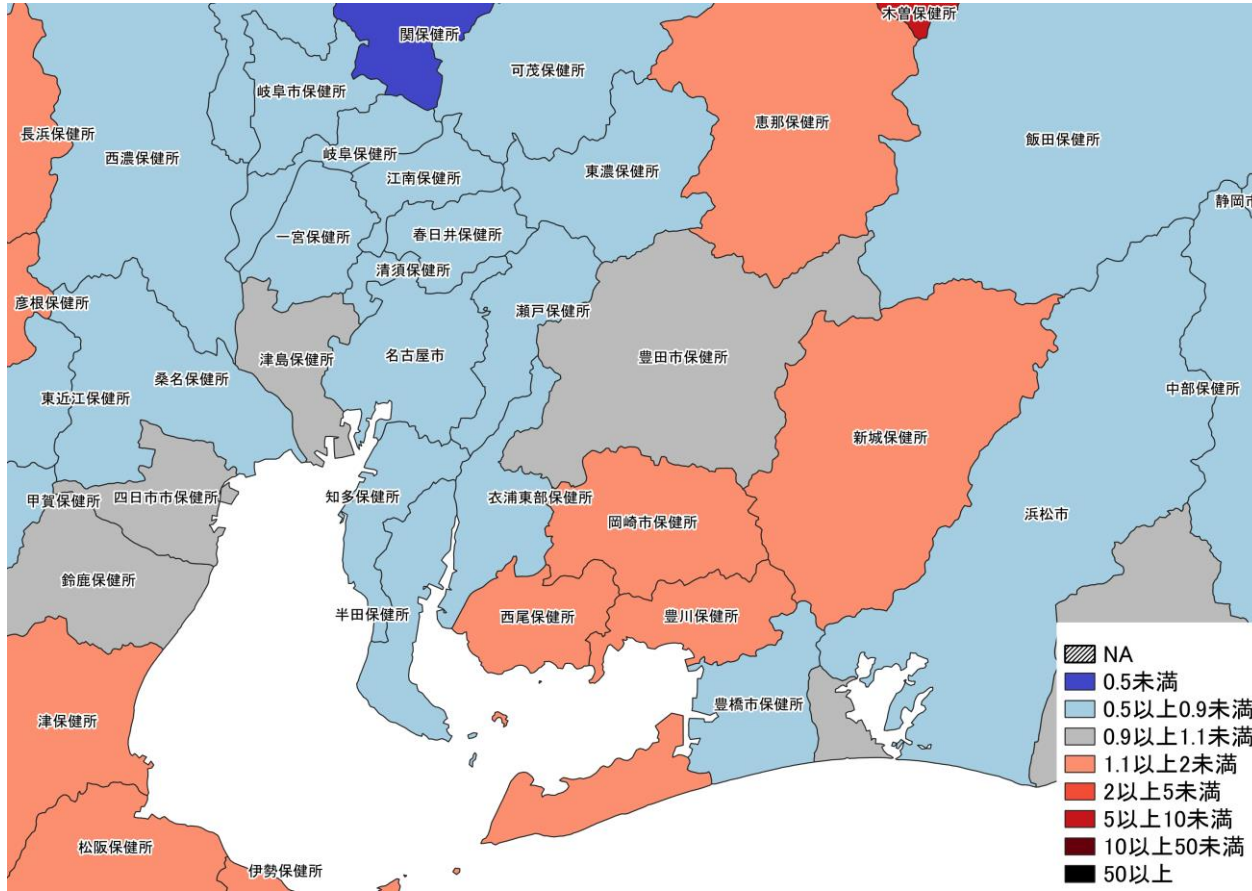


6/5~6/11  
6/12~6/18

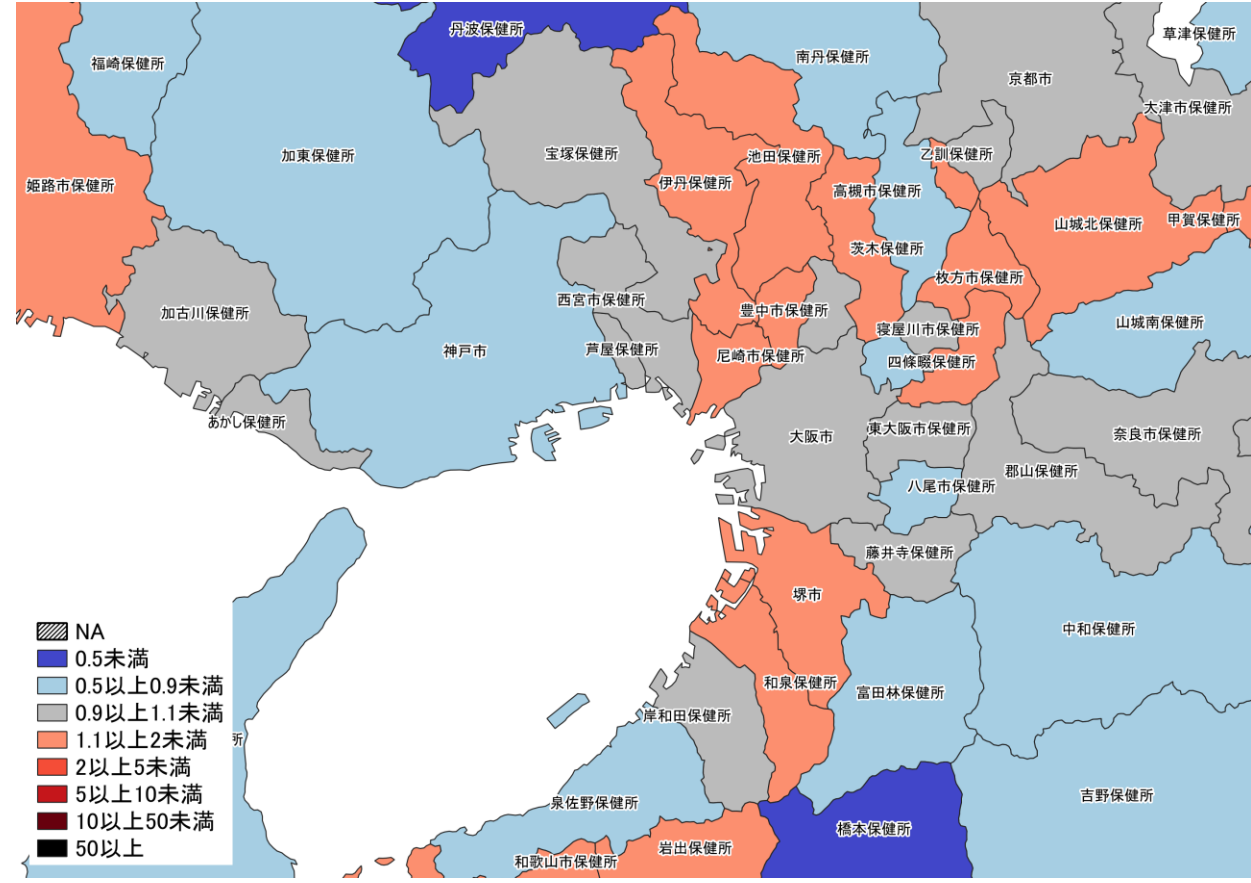
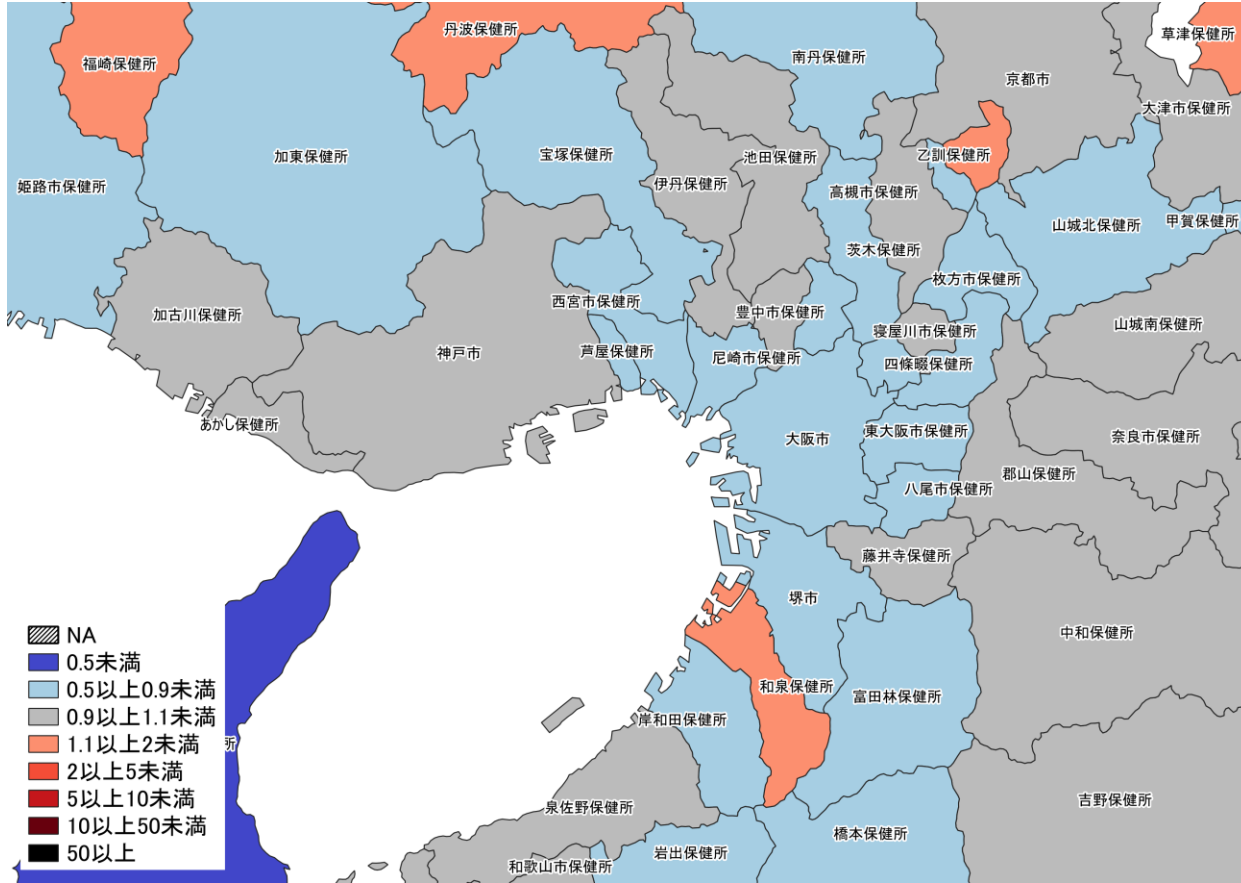
7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
関西・中京圏 (HER-SYS情報)

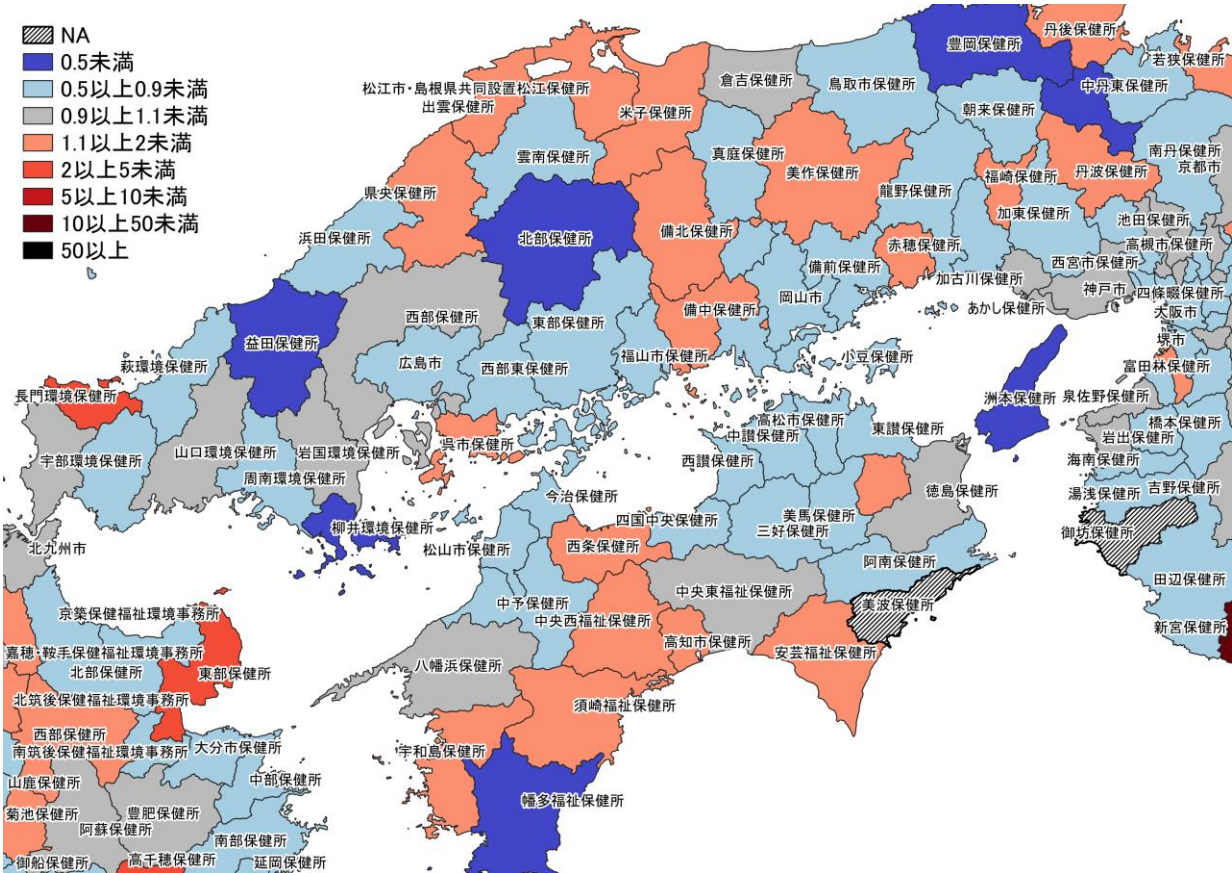


6/12~6/18  
6/19~6/25 入力遅れによる過小評価の可能性あり



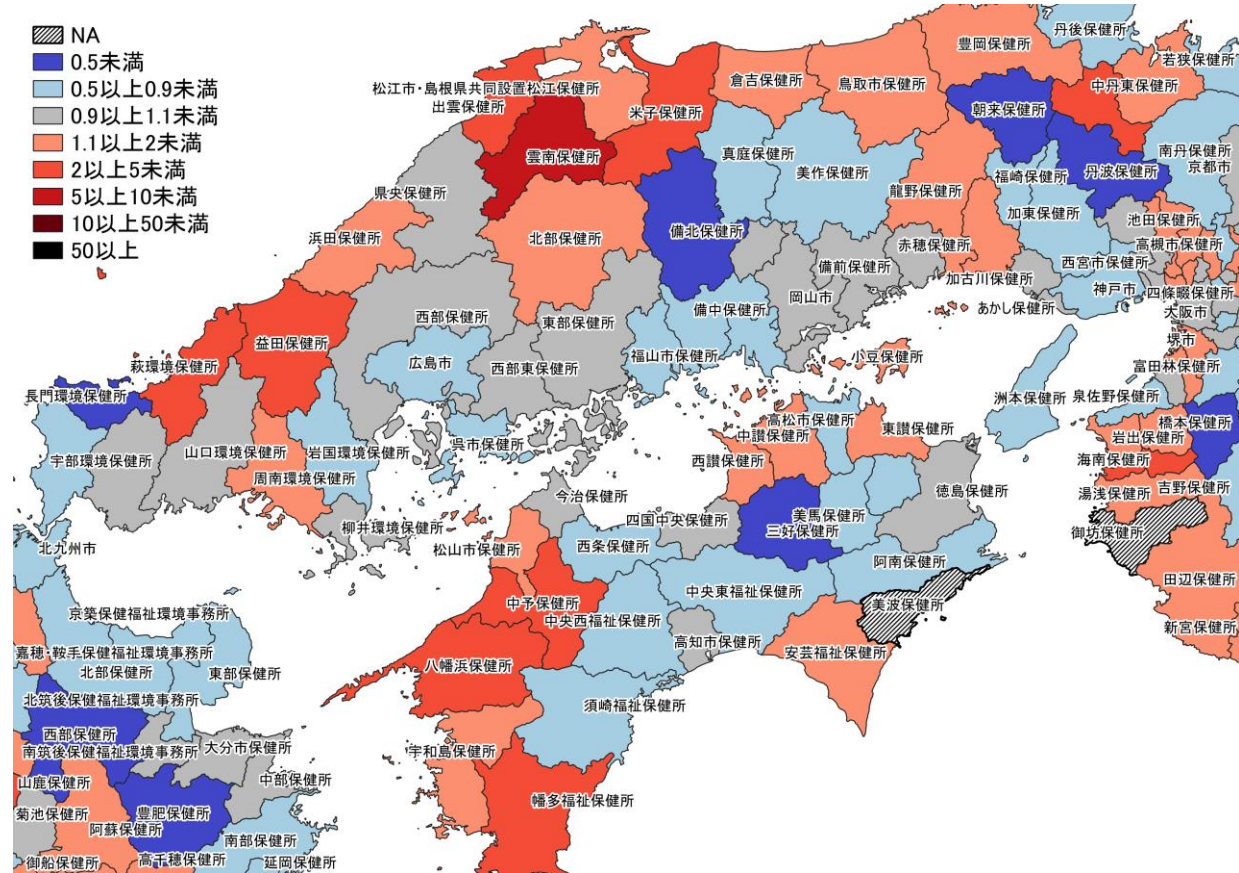






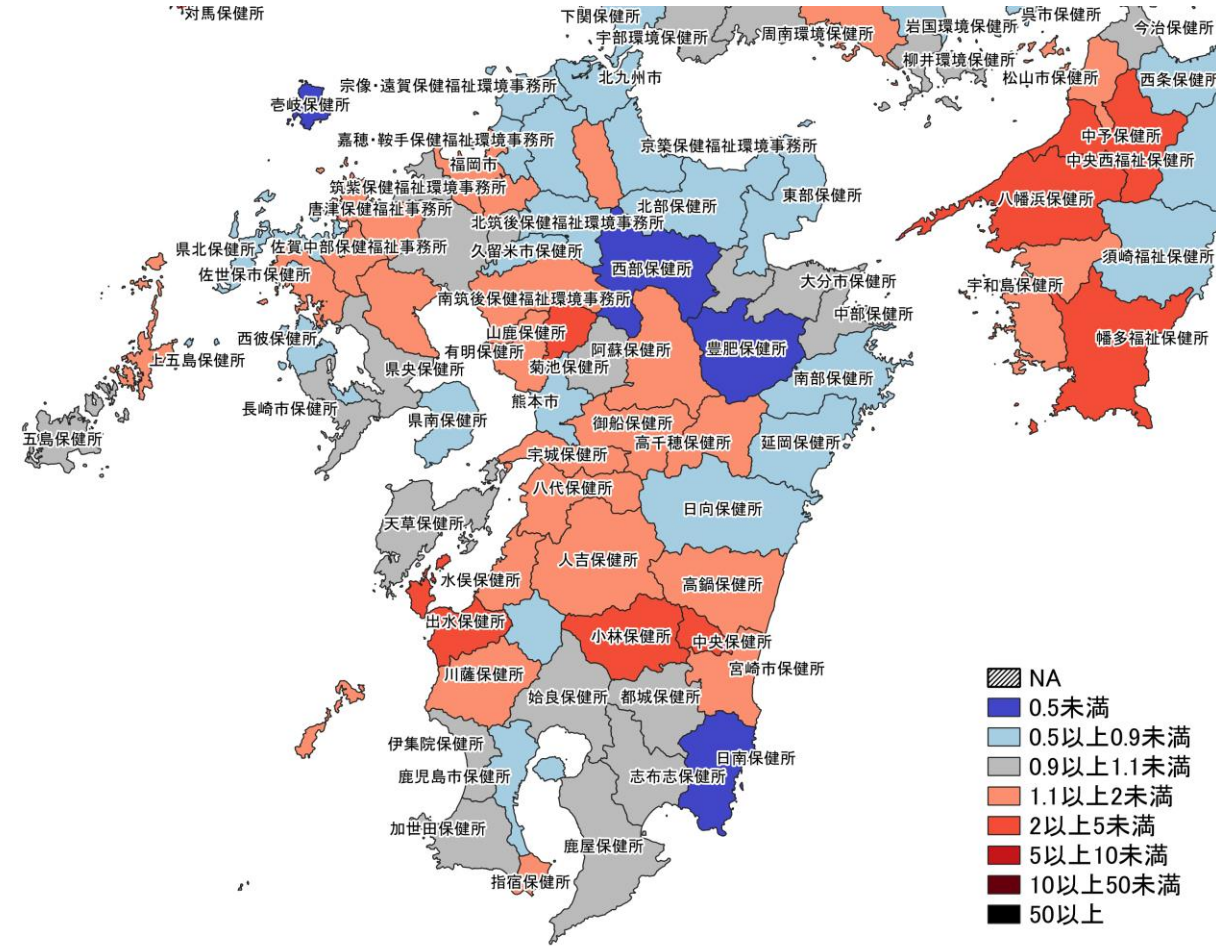
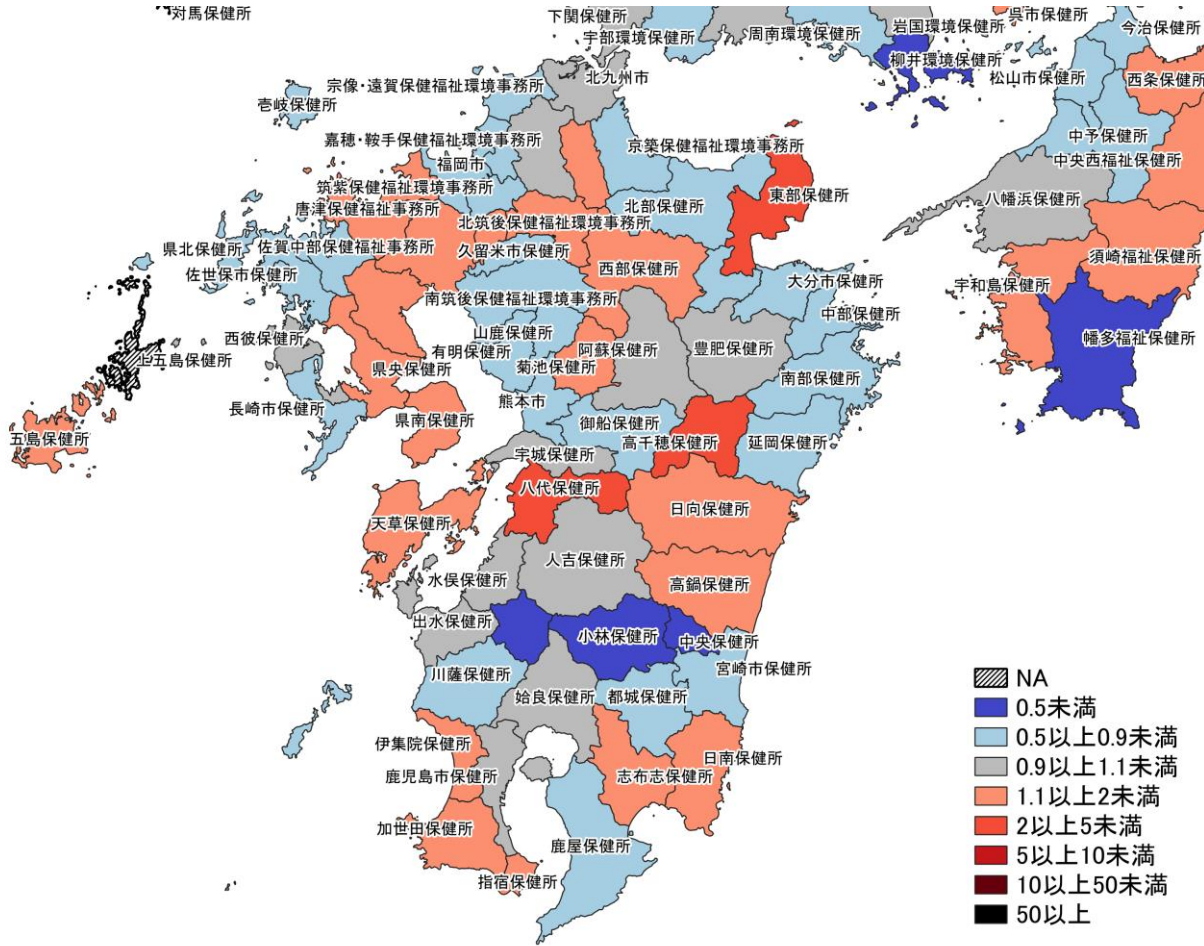
6/5~6/11  
6/12~6/18

7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
中国・四国地域 (HER-SYS情報)



6/12~6/18  
6/19~6/25 入力遅れによる過小評価の可能性あり

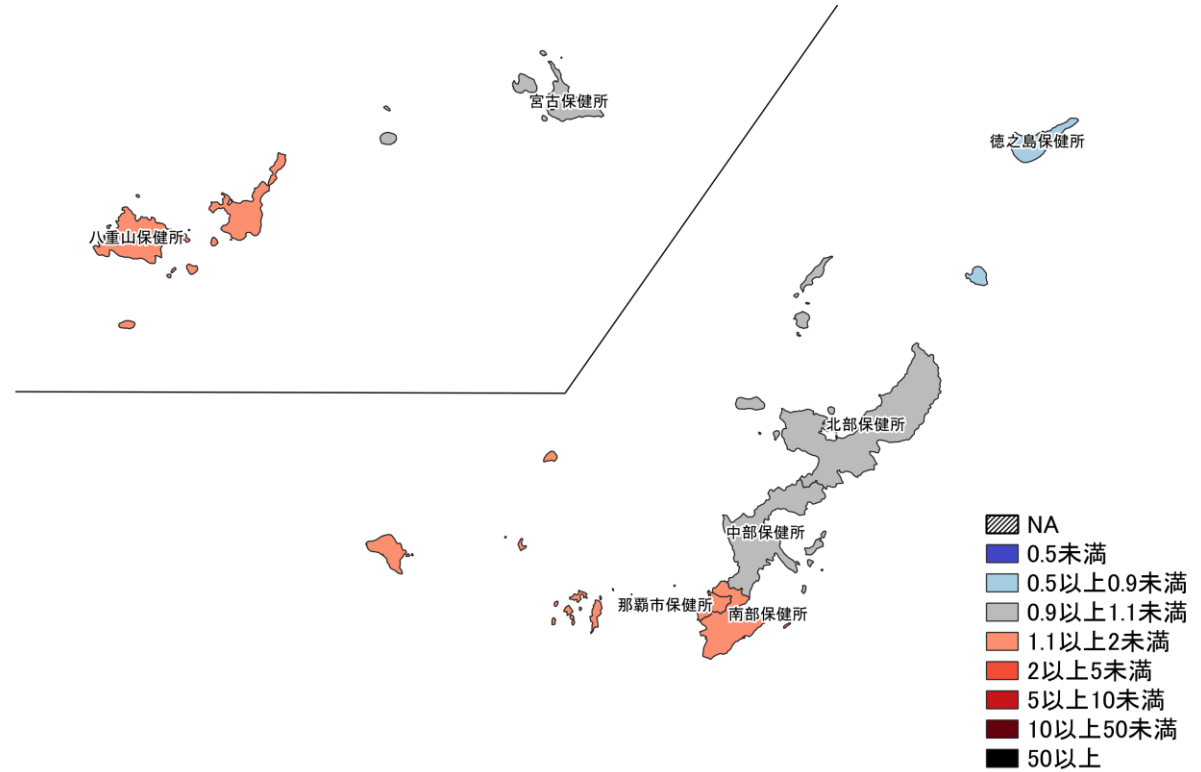
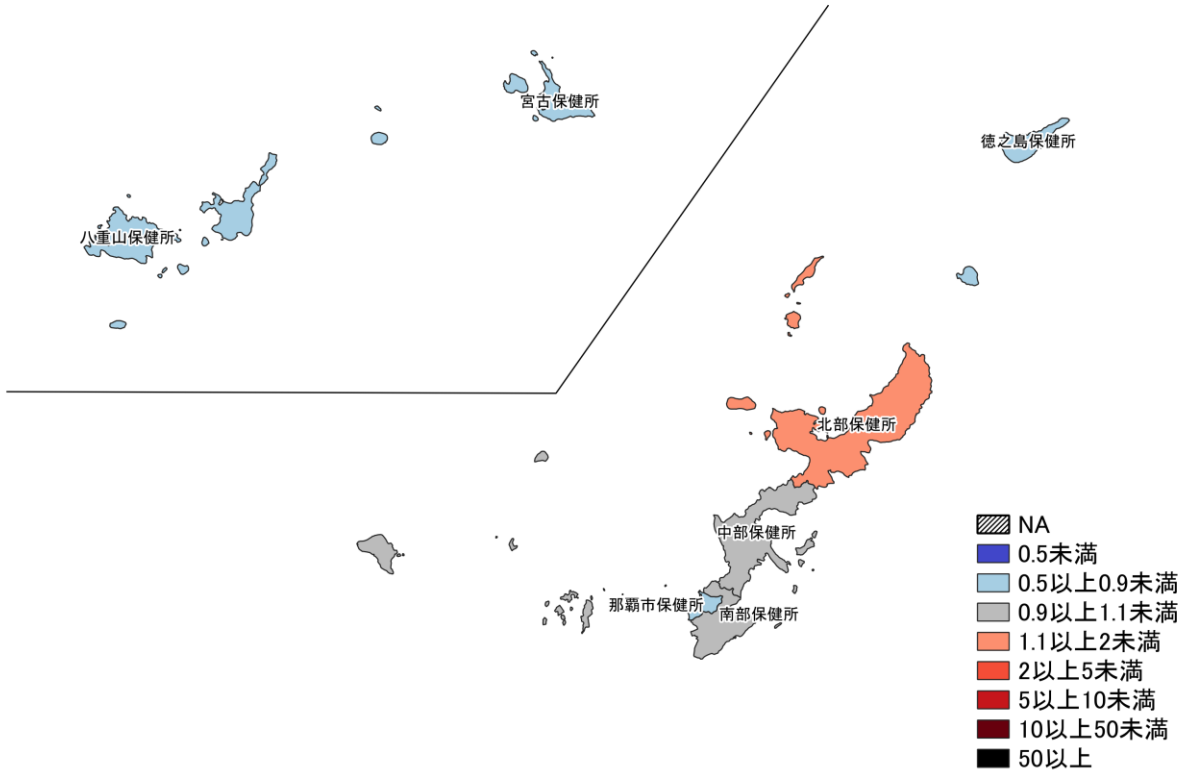




6/5~6/11  
6/12~6/18

6/12~6/18  
6/19~6/25 **入力遅れによる過小評価の可能性あり**

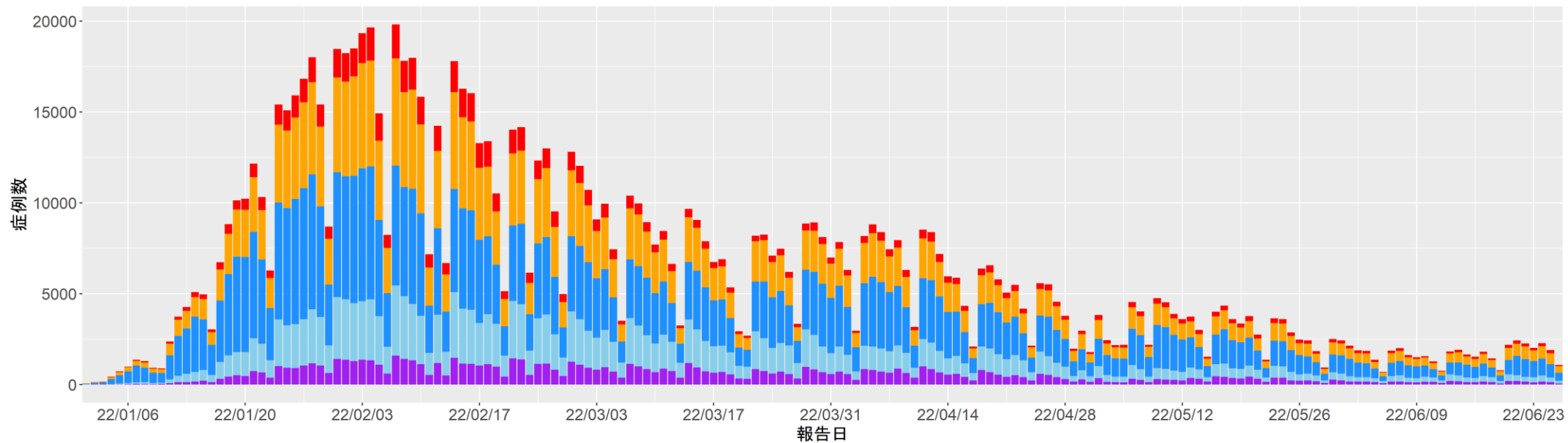
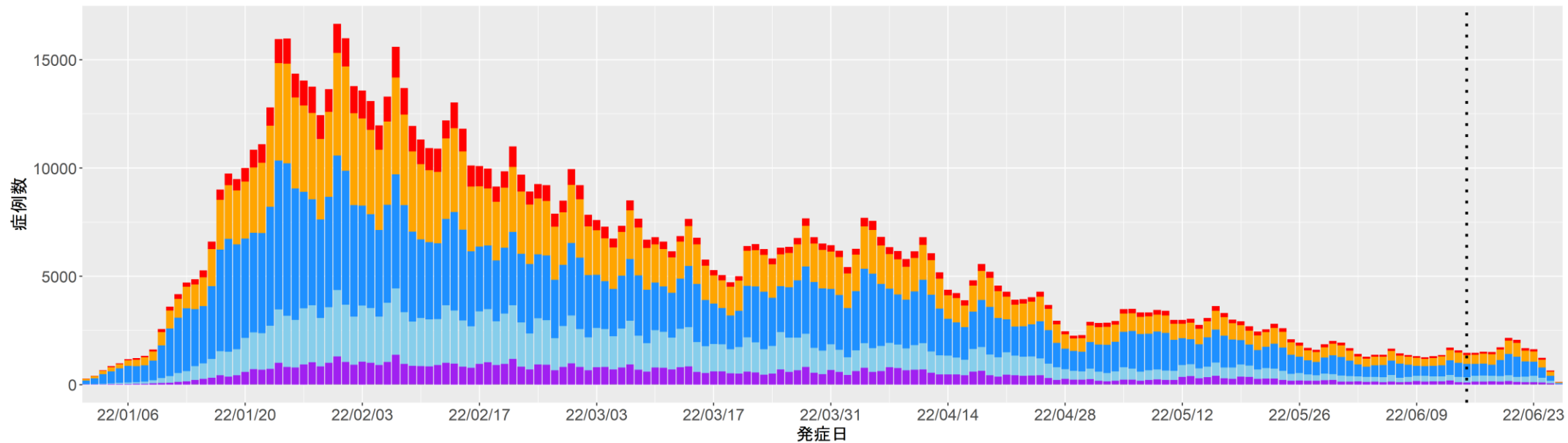
7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
九州地域 (HER-SYS情報)



7日間累積新規症例報告数 前週比マップ  
沖縄 (HER-SYS情報)

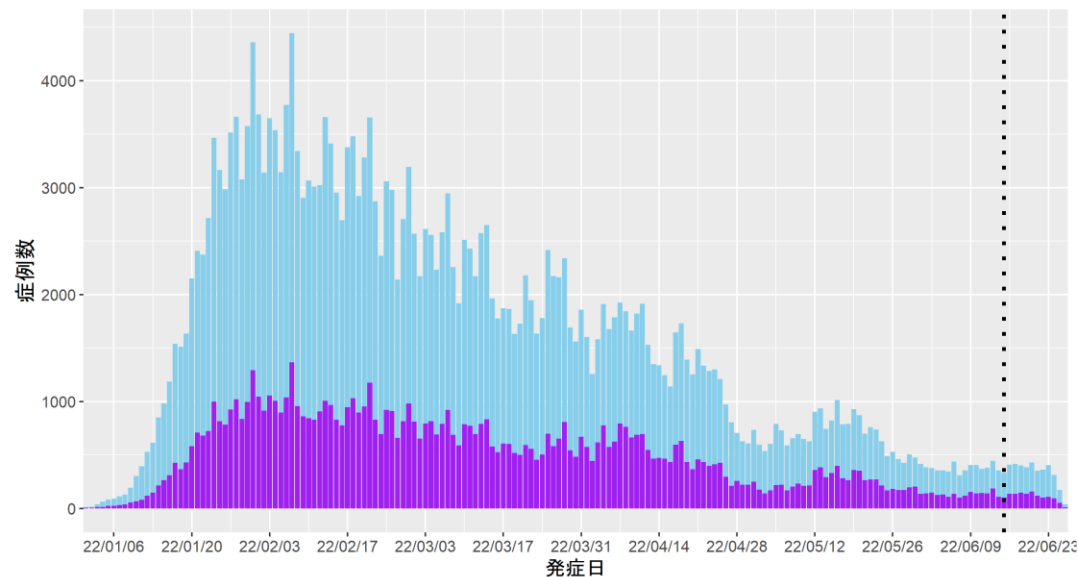


# 東京都の発症日及び報告日別流行曲線：6月27日作成

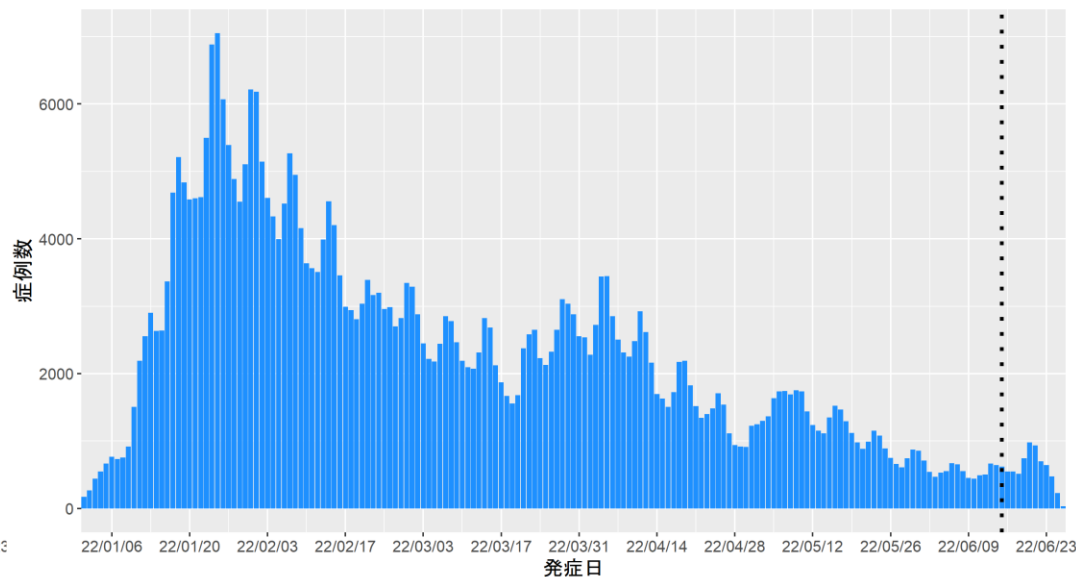


# 東京都の発症日別流行曲線：年代別、6月27日作成

0-5歳(紫)、6-17歳(水色)

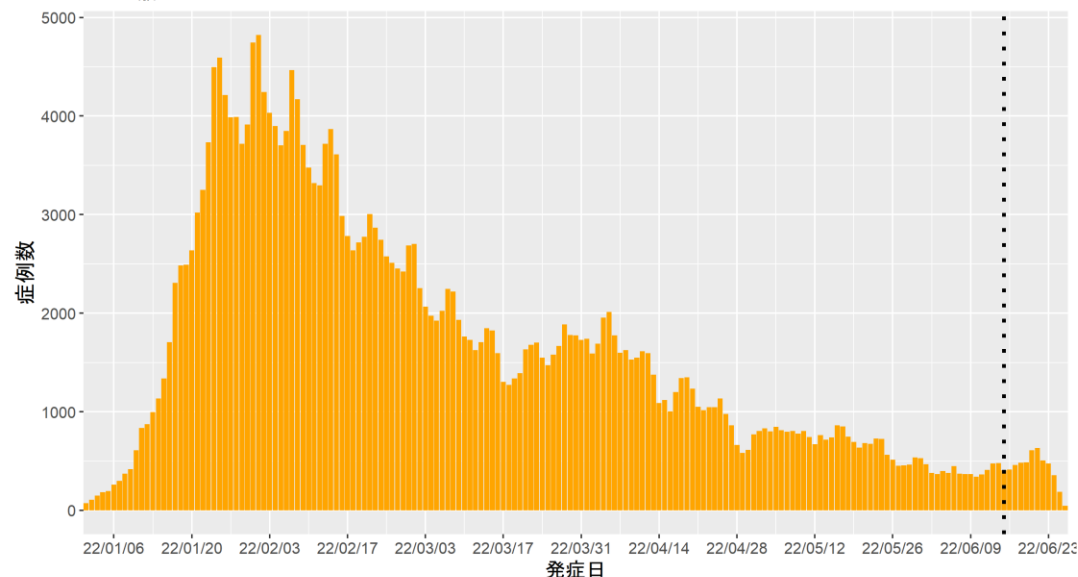


18-39歳

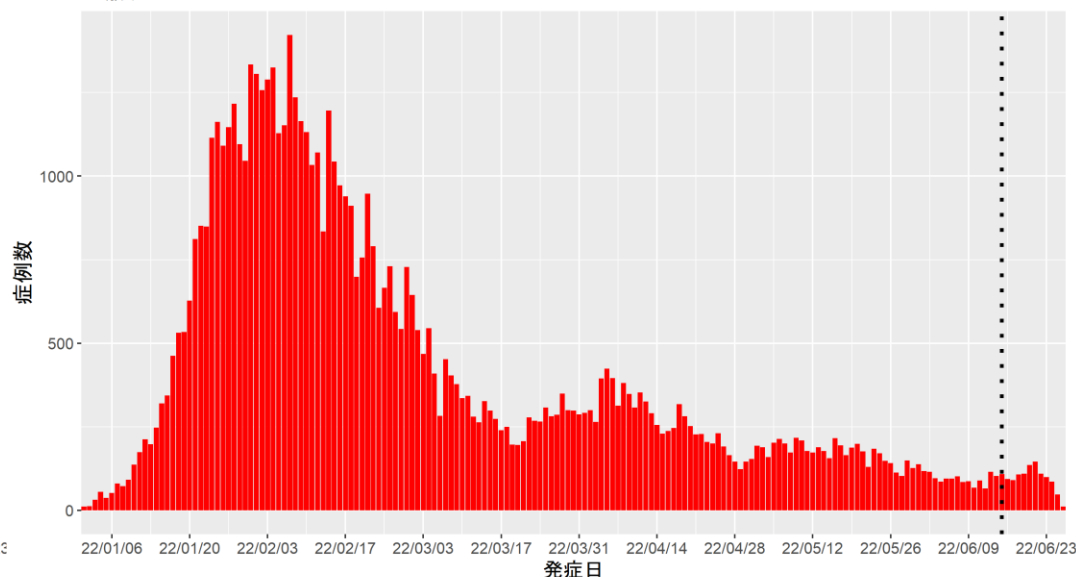


- 年齢
- 65歳以上
  - 40-64歳
  - 18-39歳
  - 6-17歳
  - 0-5歳
  - NA

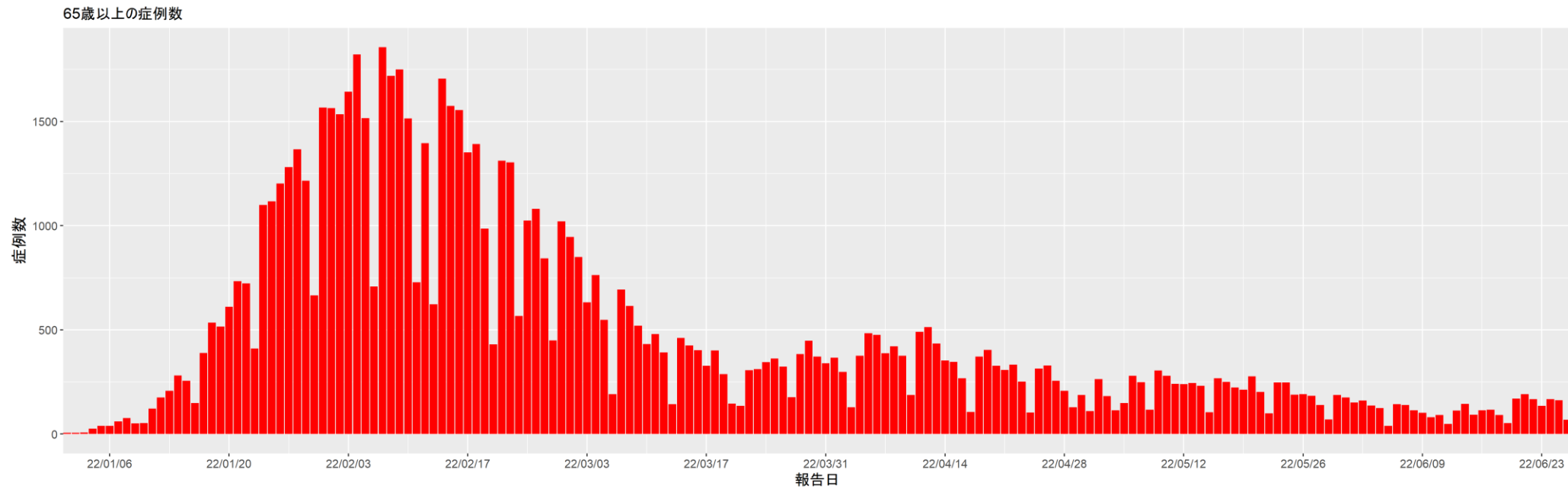
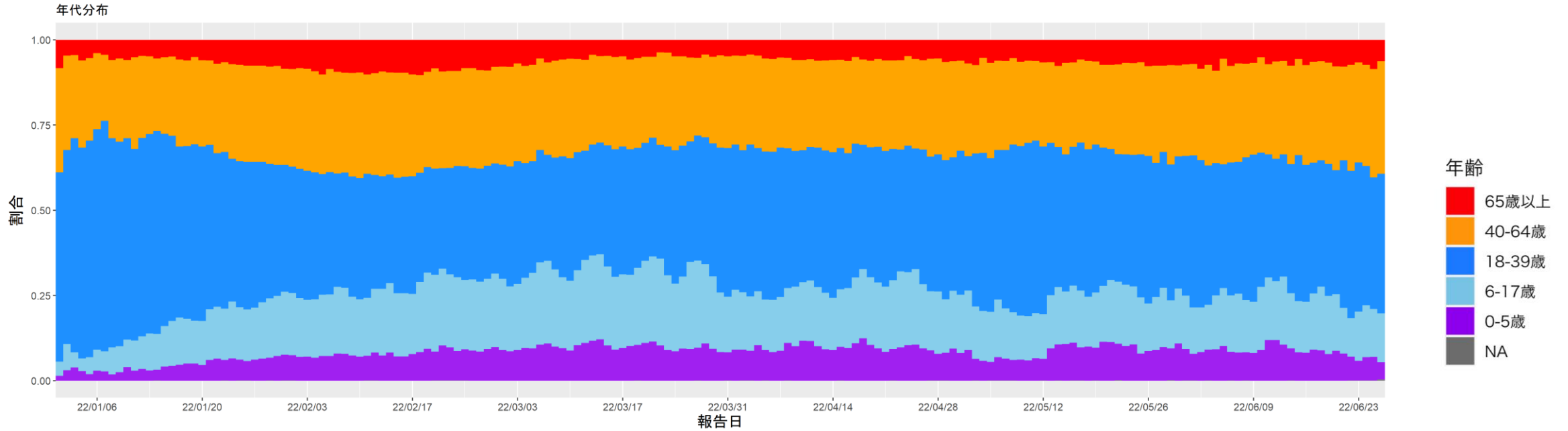
40-64歳



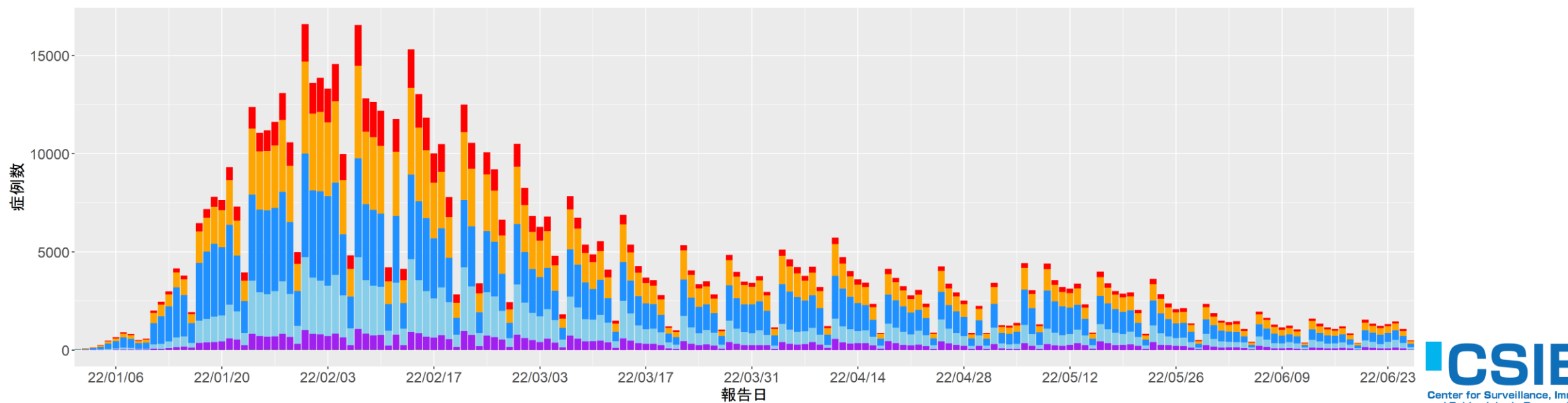
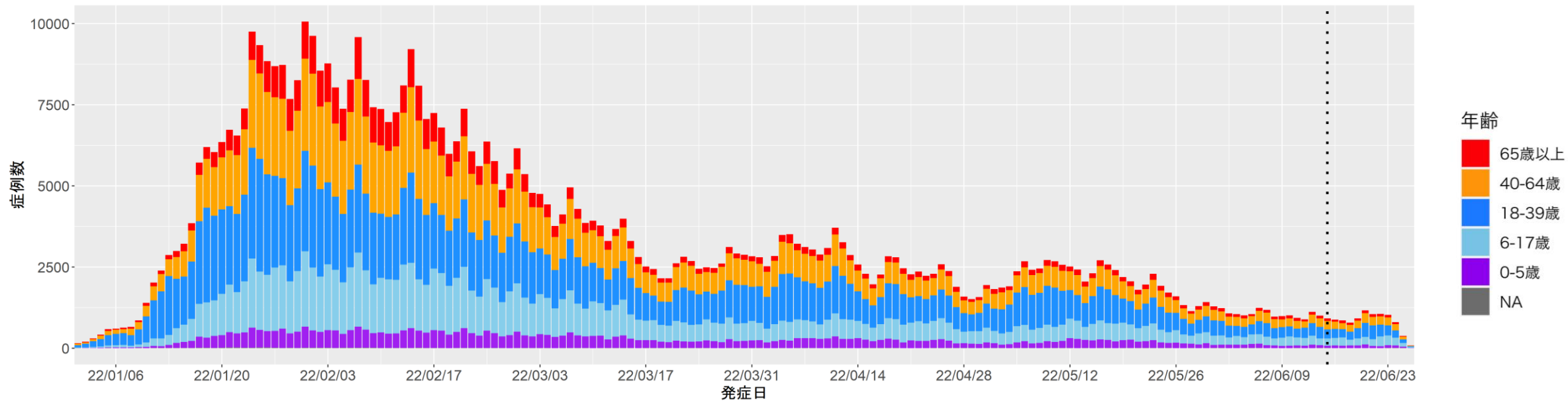
65歳以上



# 東京都の症例の年代分布：報告日別、6月27日作成

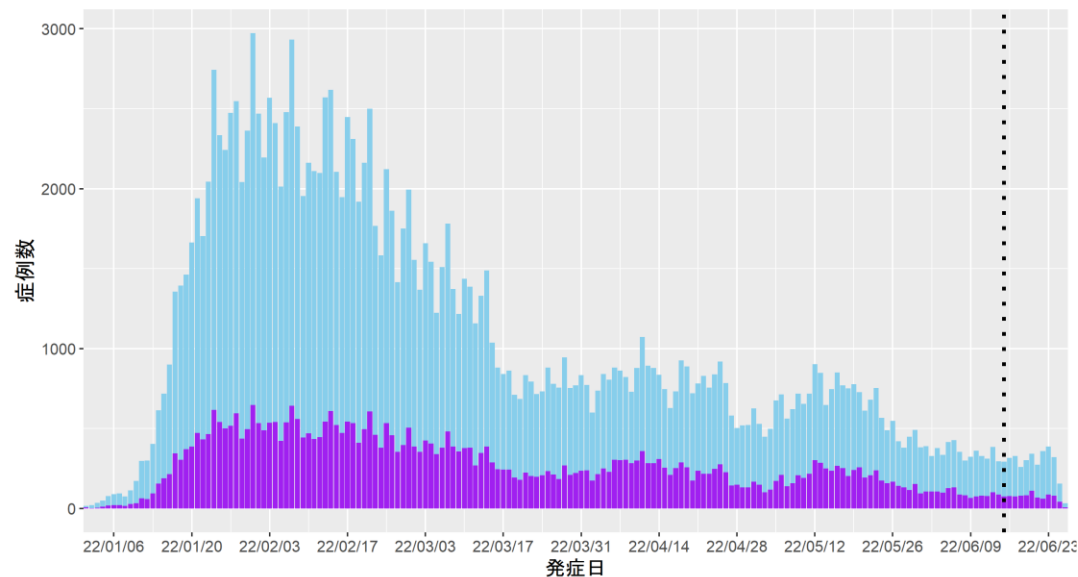


# 大阪府の発症日及び報告日別流行曲線：6月27日作成

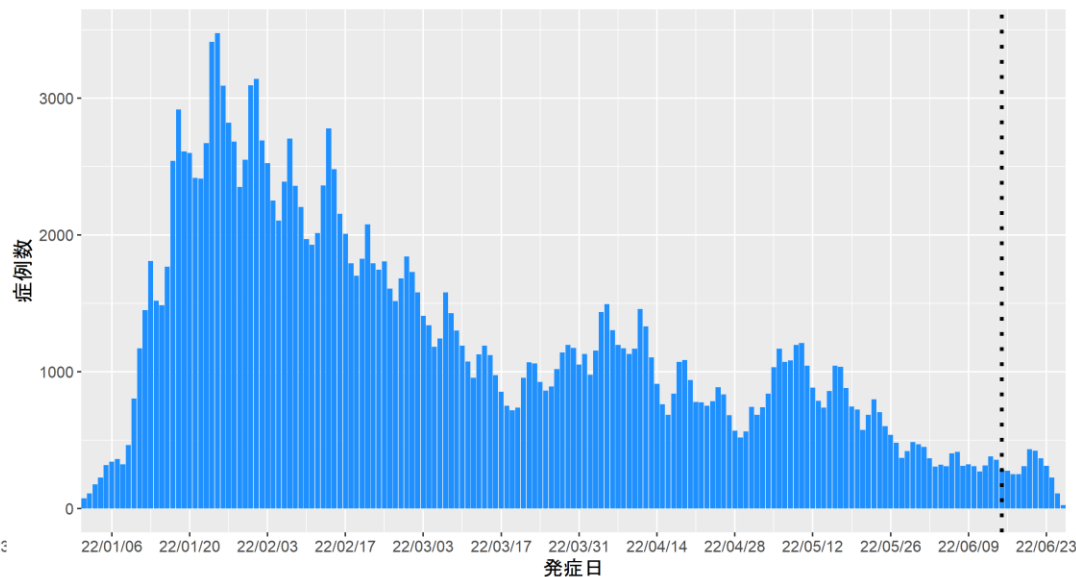


# 大阪府の発症日別流行曲線：年代別、6月27日作成

0-5歳(紫)、6-17歳(水色)



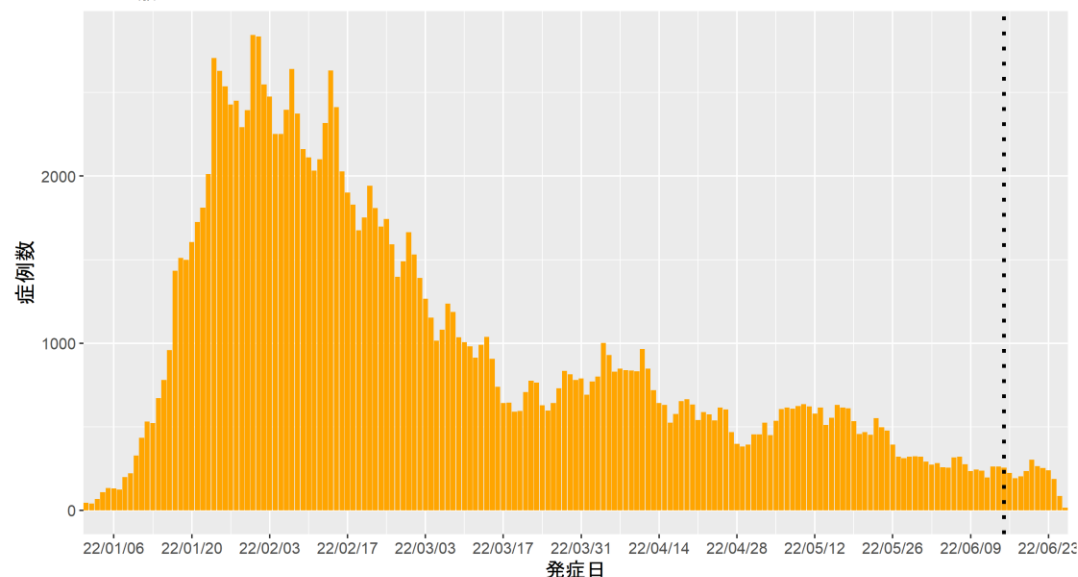
18-39歳



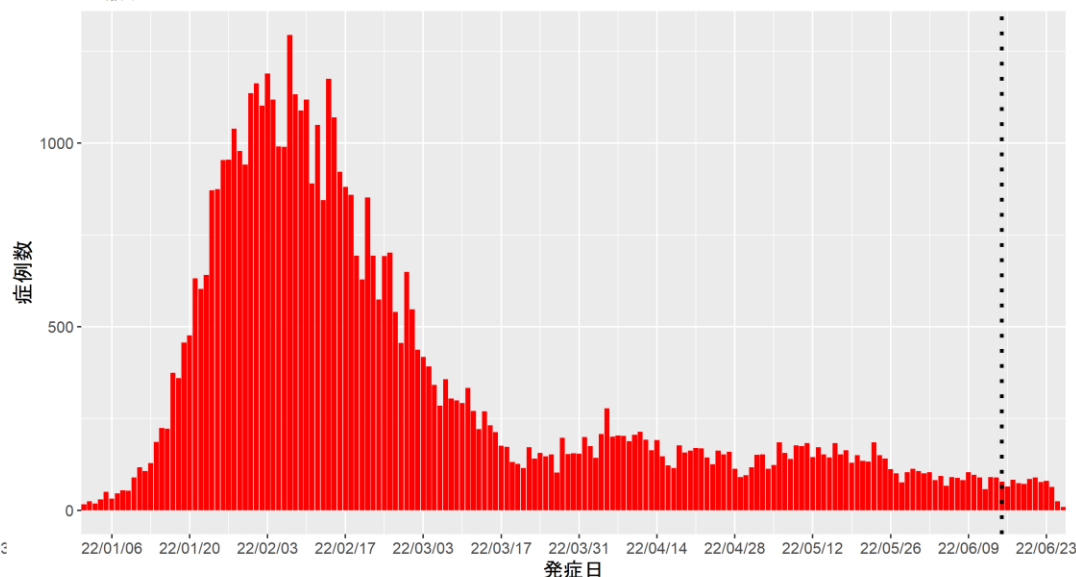
年齢

- 65歳以上
- 40-64歳
- 18-39歳
- 6-17歳
- 0-5歳
- NA

40-64歳

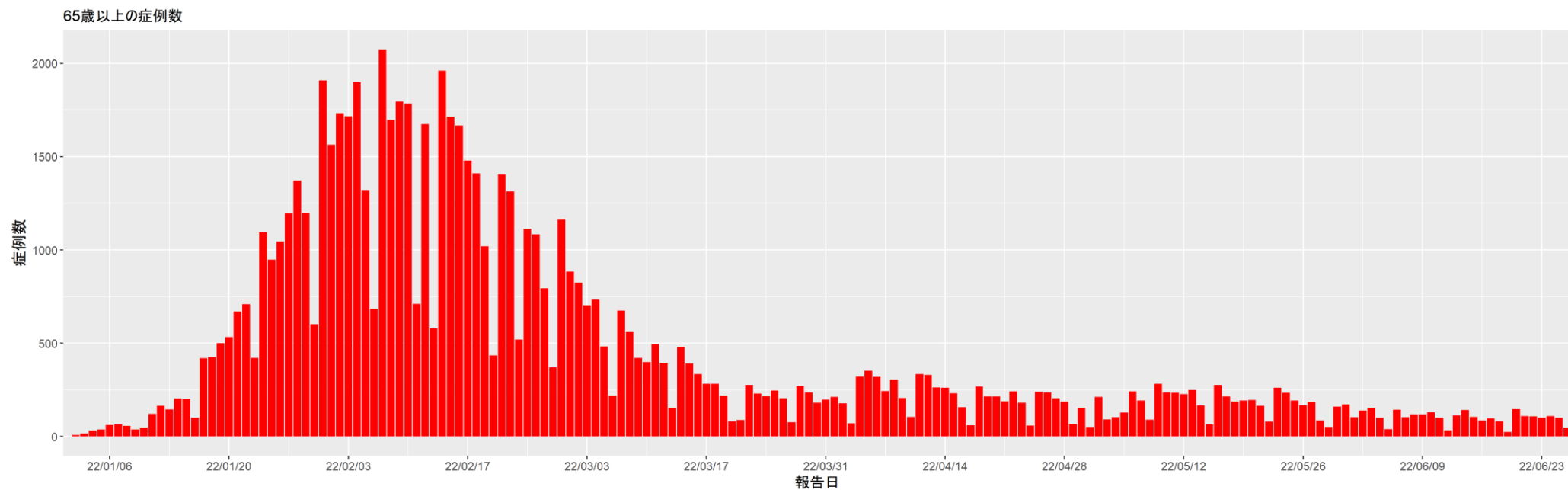
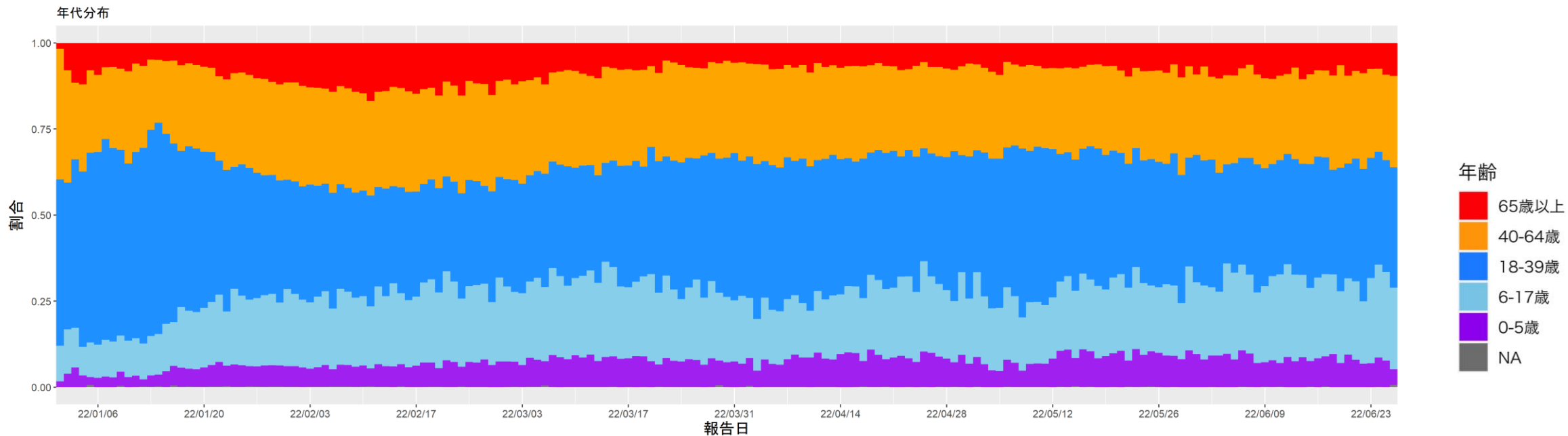


65歳以上

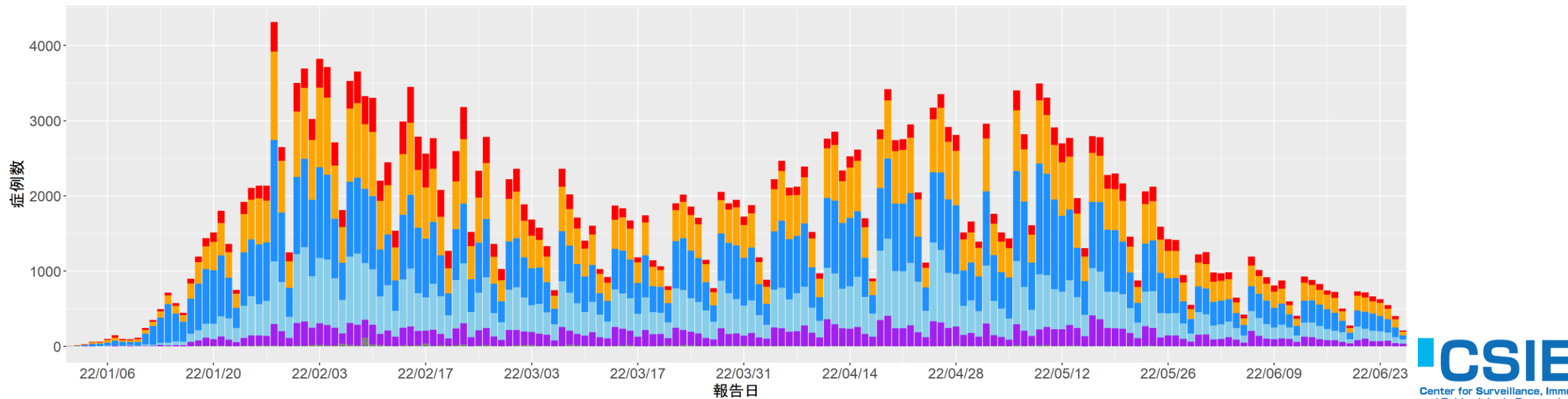
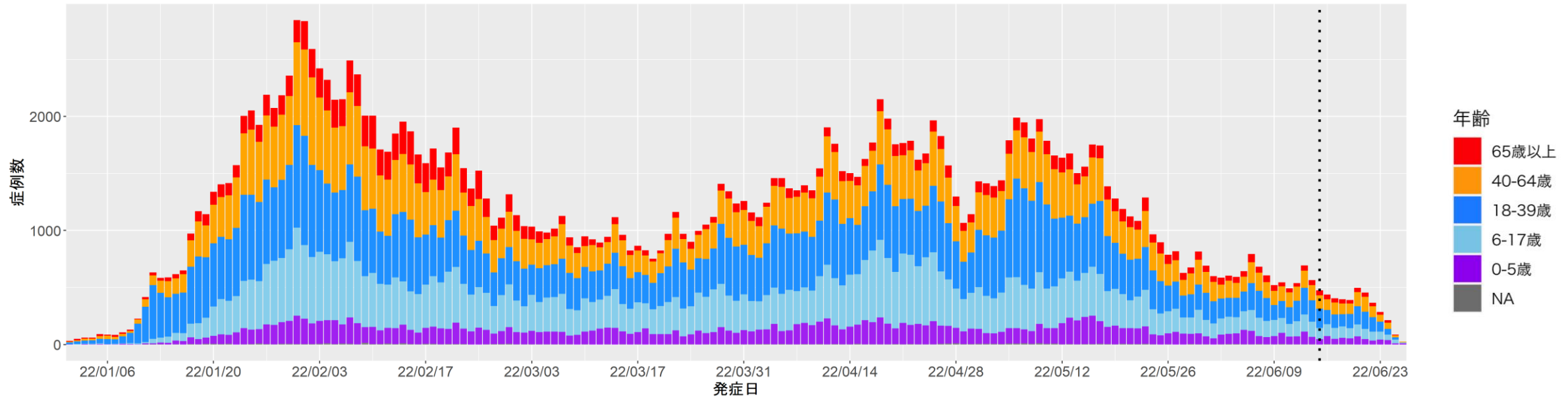




# 大阪府の症例の年代分布：報告日別、6月27日作成

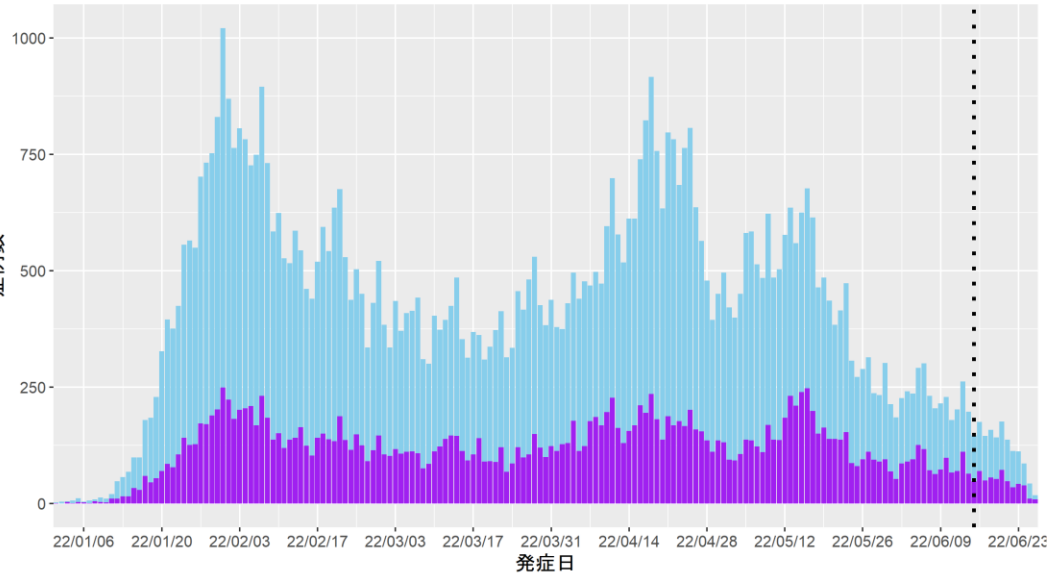


# 北海道の発症日及び報告日別流行曲線：6月27日作成

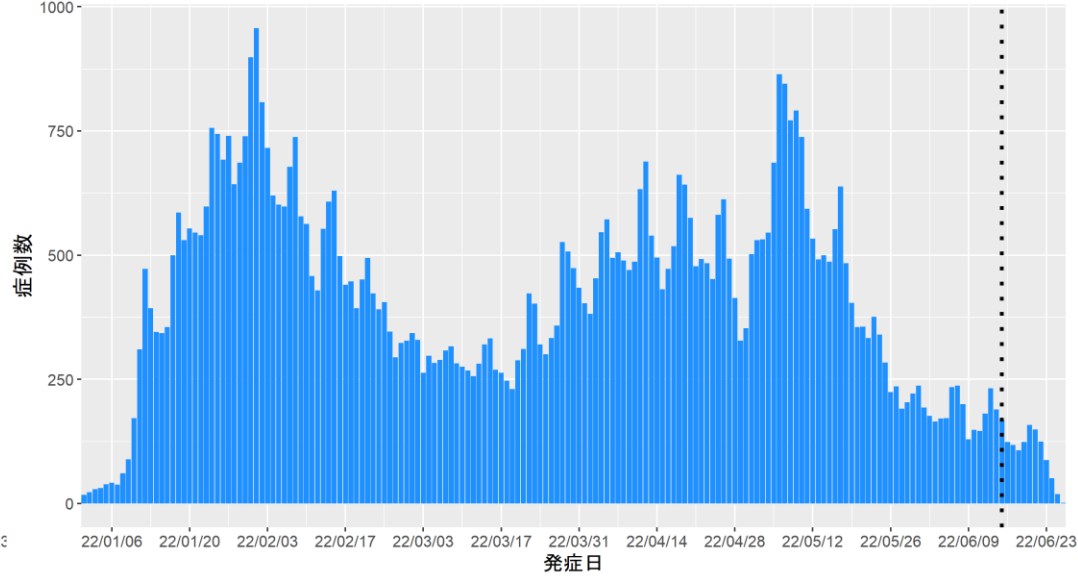


# 北海道の発症日別流行曲線：年代別、6月27日作成

0-5歳(紫)、6-17歳(水色)

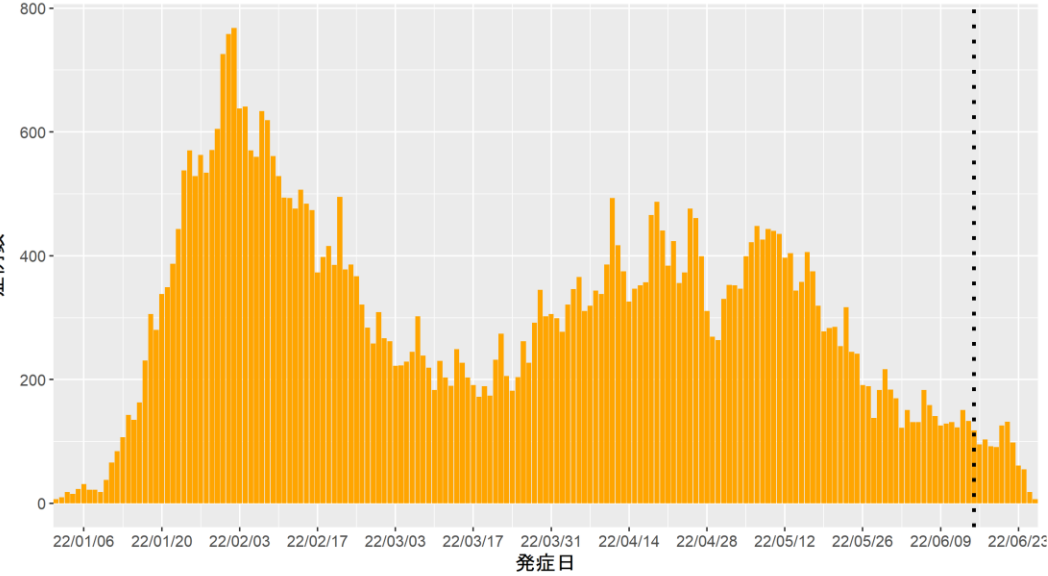


18-39歳

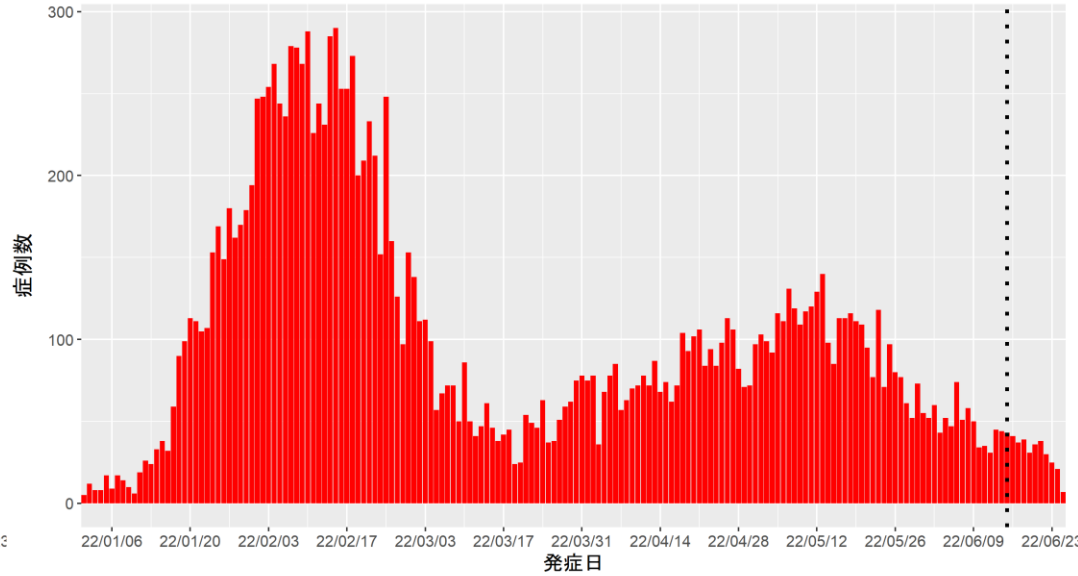


- 年齢
- 65歳以上
  - 40-64歳
  - 18-39歳
  - 6-17歳
  - 0-5歳
  - NA

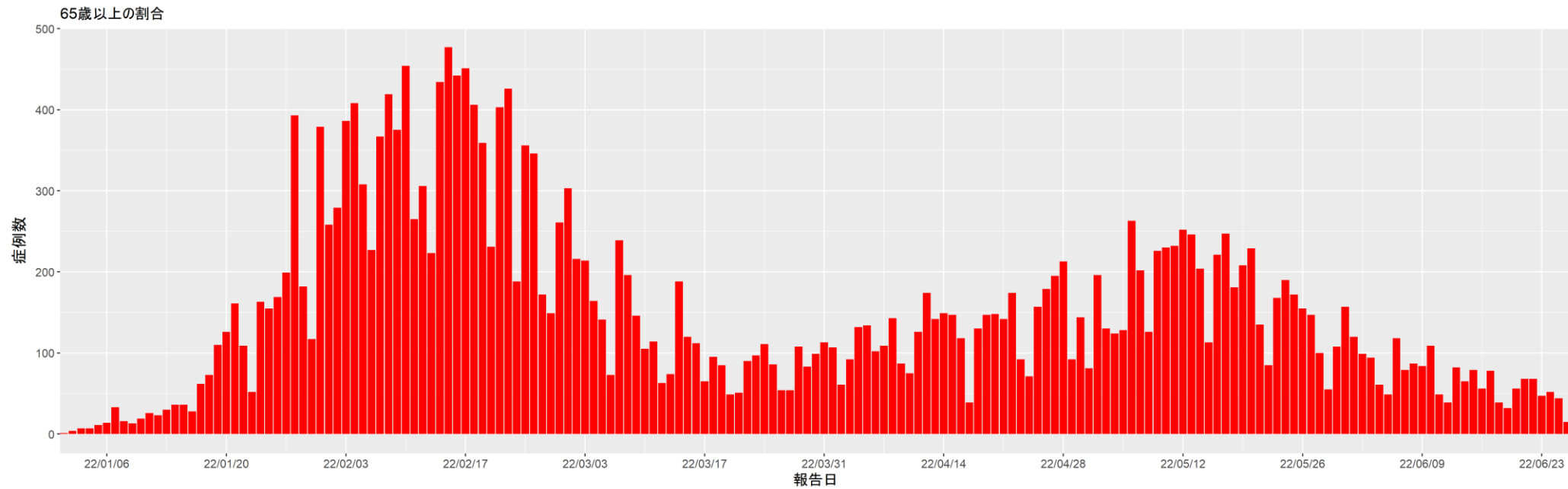
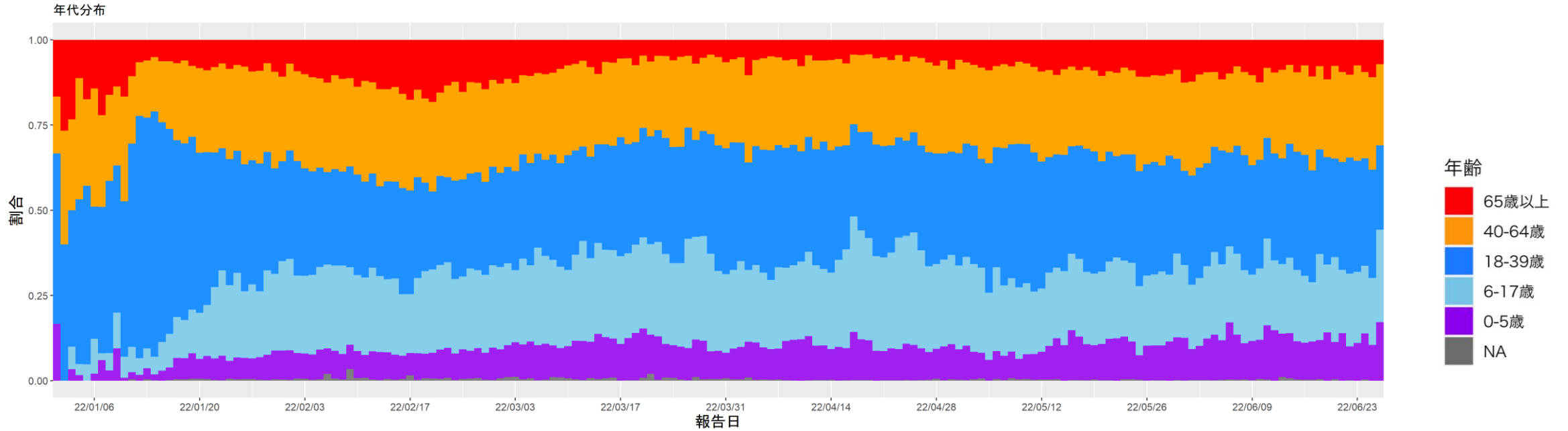
40-64歳



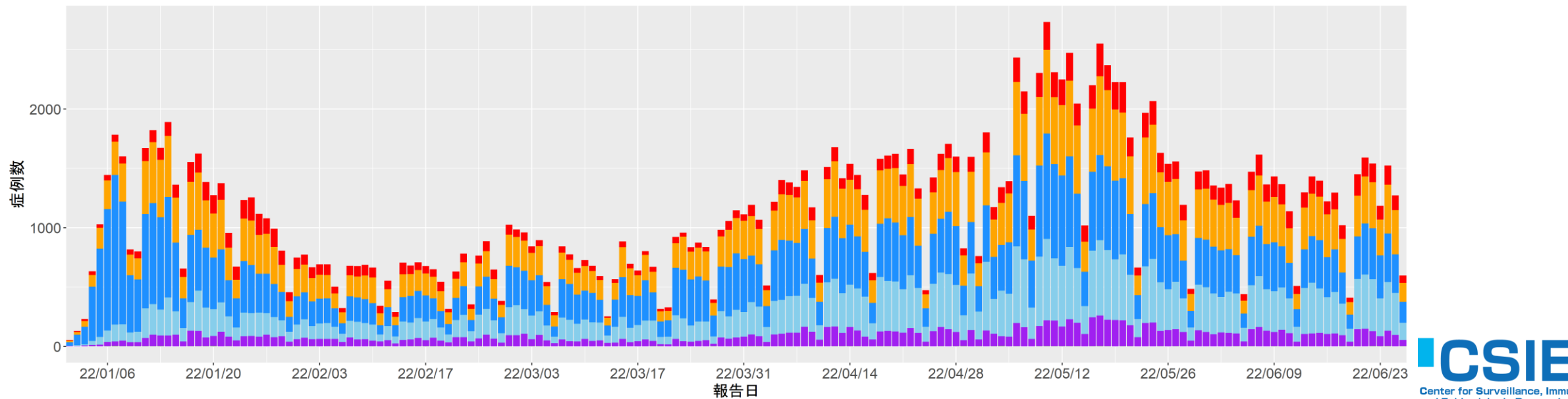
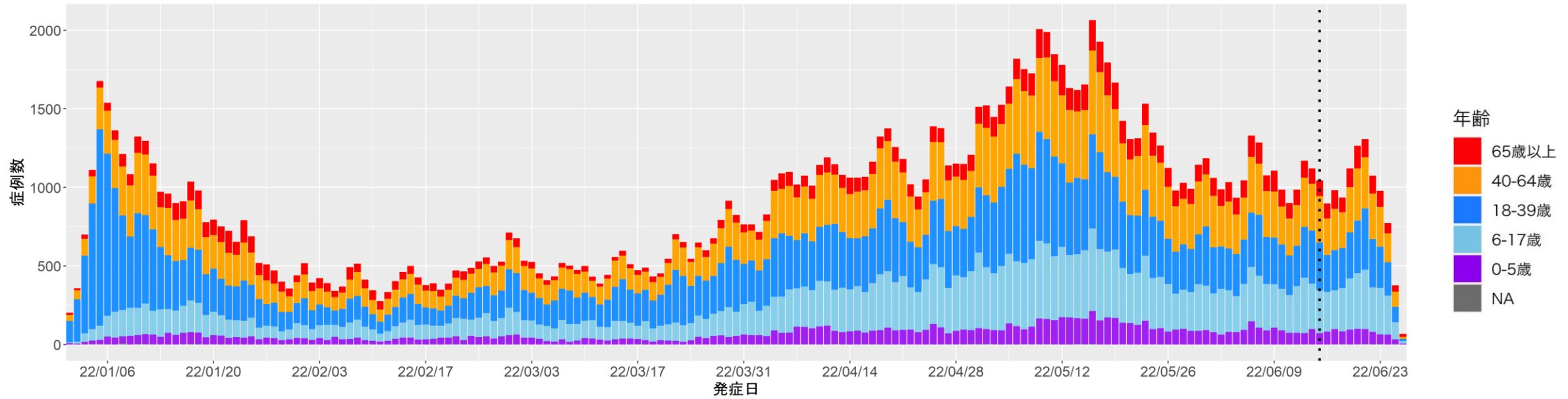
65歳以上



# 北海道の症例の年代分布：報告日別、6月27日作成

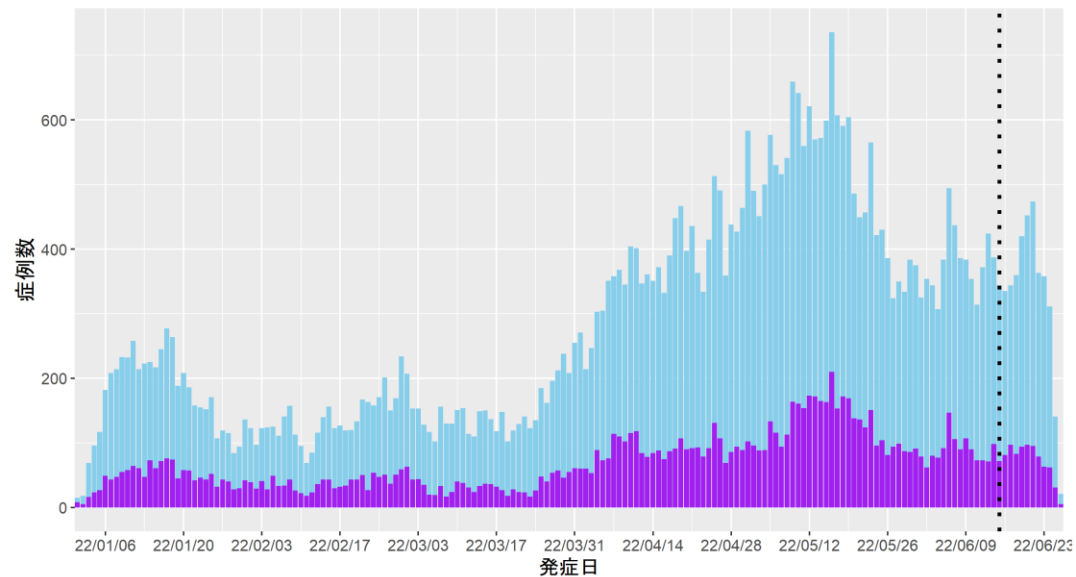


# 沖縄県の発症日及び報告日別流行曲線：6月27日作成

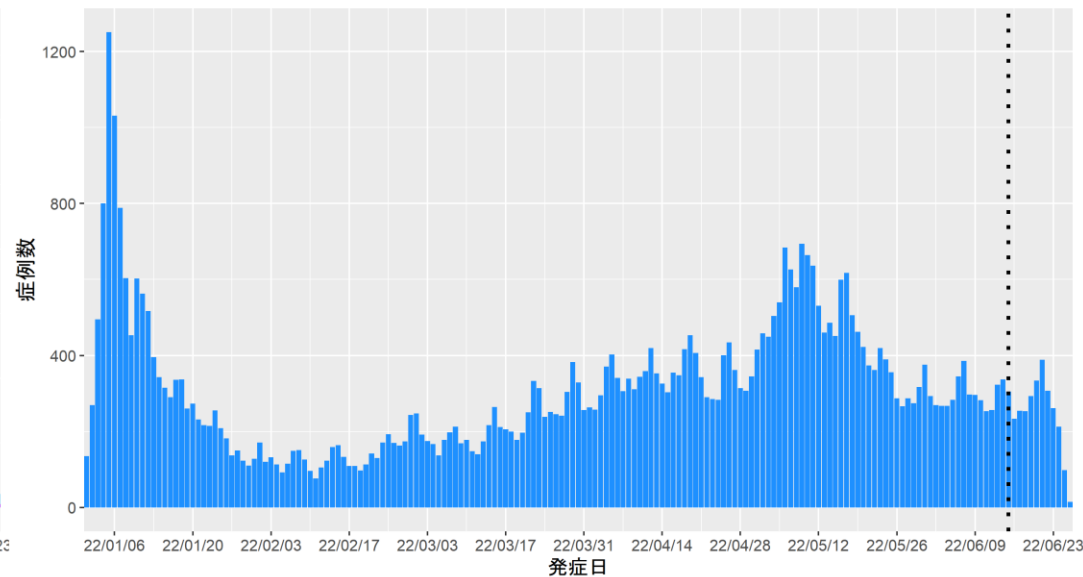


# 沖縄県の発症日別流行曲線：年代別、6月27日作成

0-5歳(紫)、6-17歳(水色)

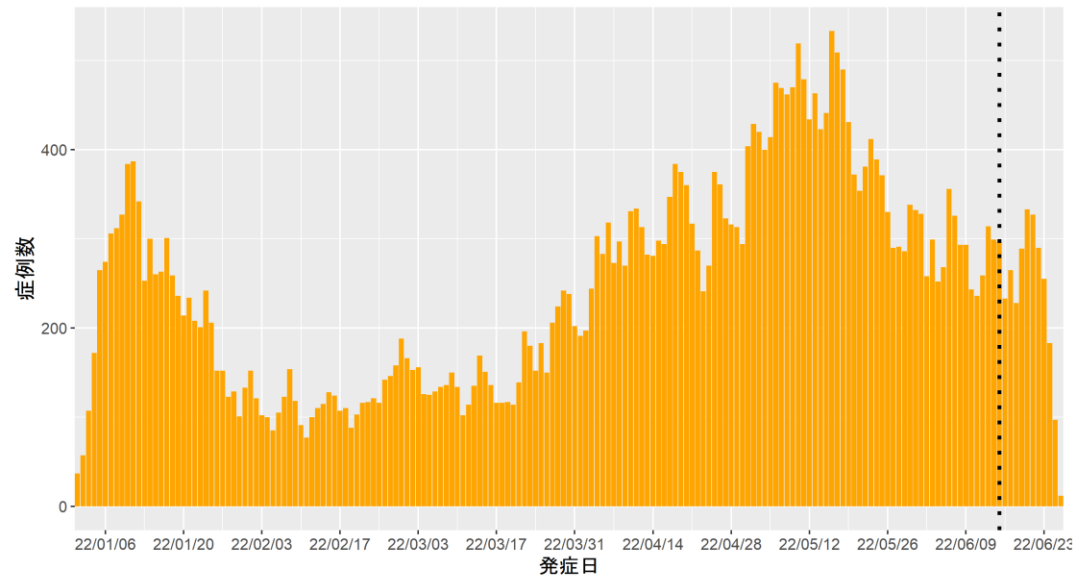


18-39歳

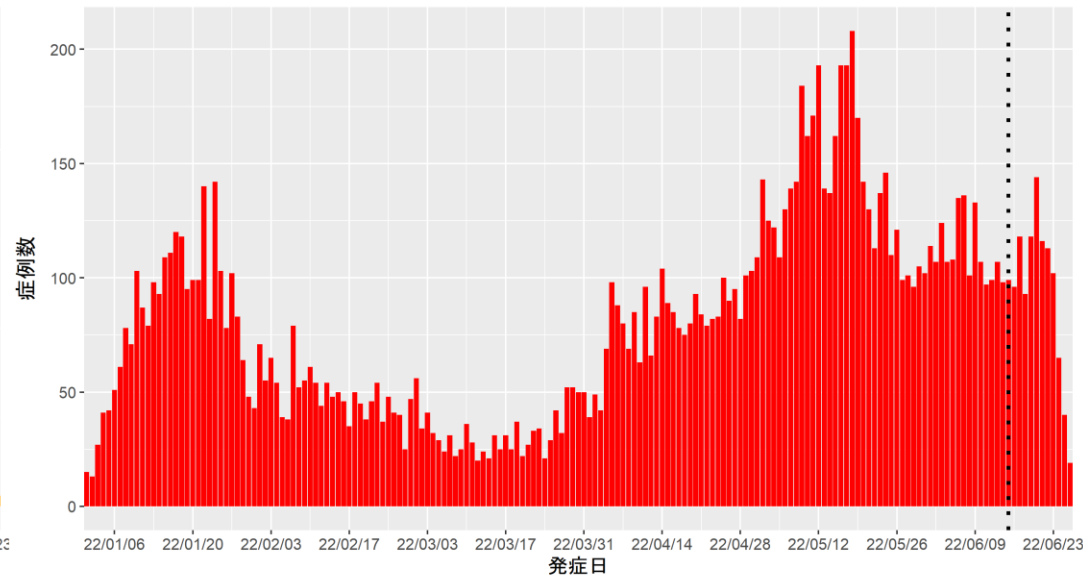


- 年齢
- 65歳以上
  - 40-64歳
  - 18-39歳
  - 6-17歳
  - 0-5歳
  - NA

40-64歳

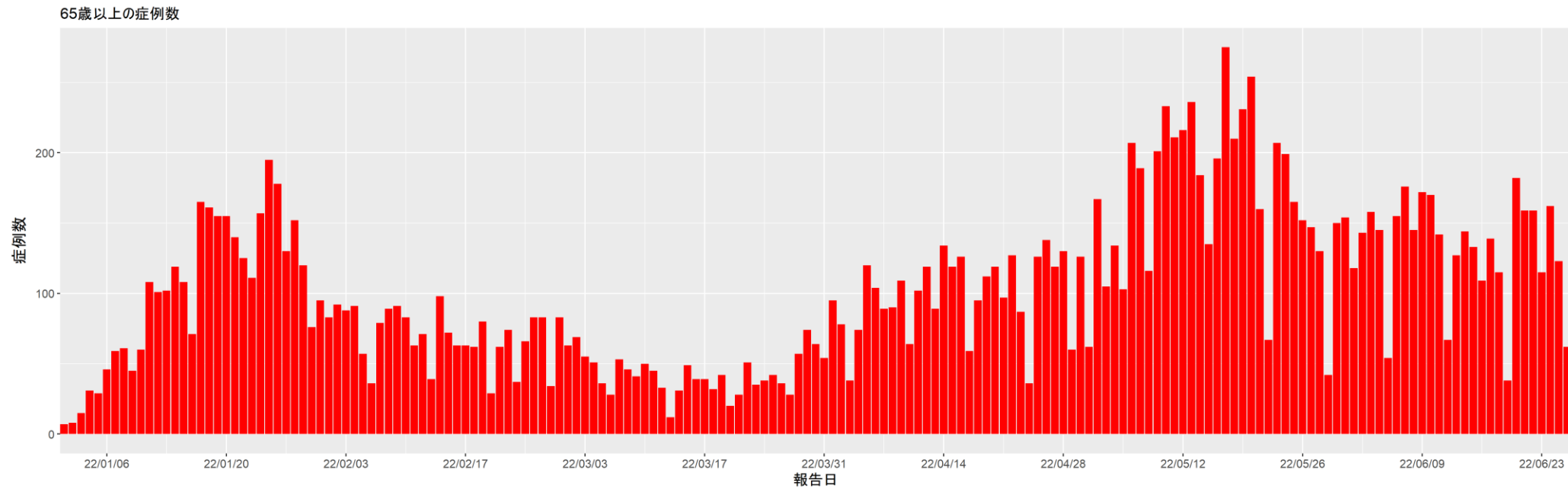
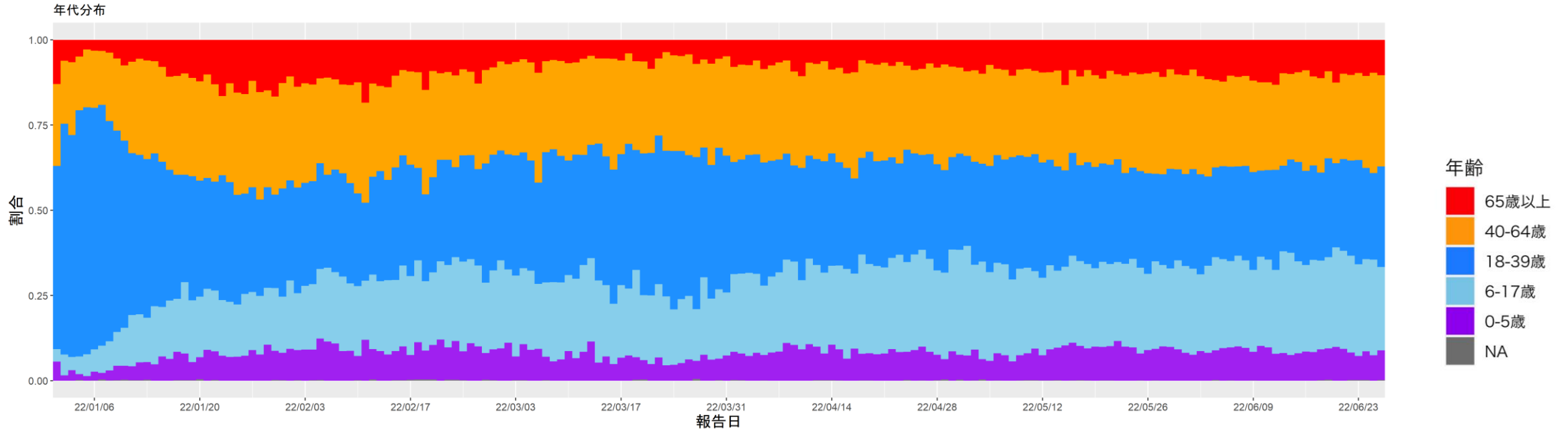


65歳以上



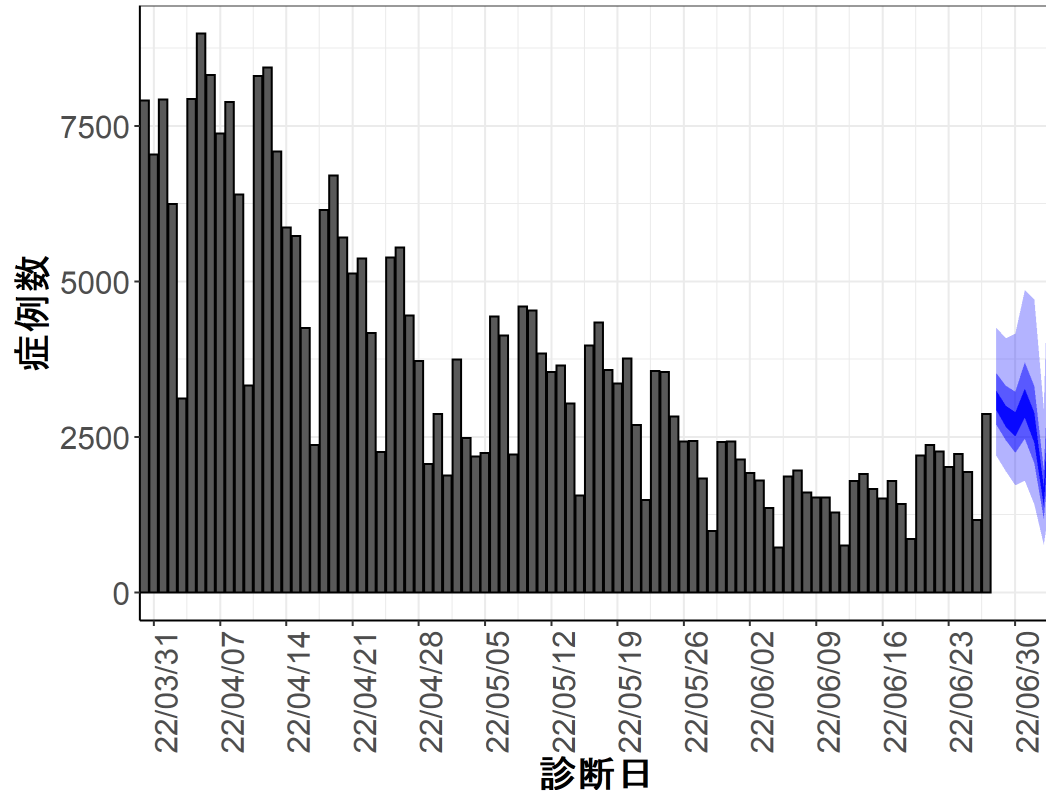


# 沖縄県の症例の年代分布：報告日別、6月27日作成



# 新規症例数の予測値：東京都

## 東京都



7日間の新規症例数予測値

日付	推定中央値
2022-06-28	3091.5
2022-06-29	2834
2022-06-30	2709
2022-07-01	3036.5
2022-07-02	2621.5
2022-07-03	1543
2022-07-04	3894.5

新規症例数は、一定の確率（90%、50%、20%）で青い帯の幅の範囲内に収まることが期待される。推定中央値は、あくまでも参考である。

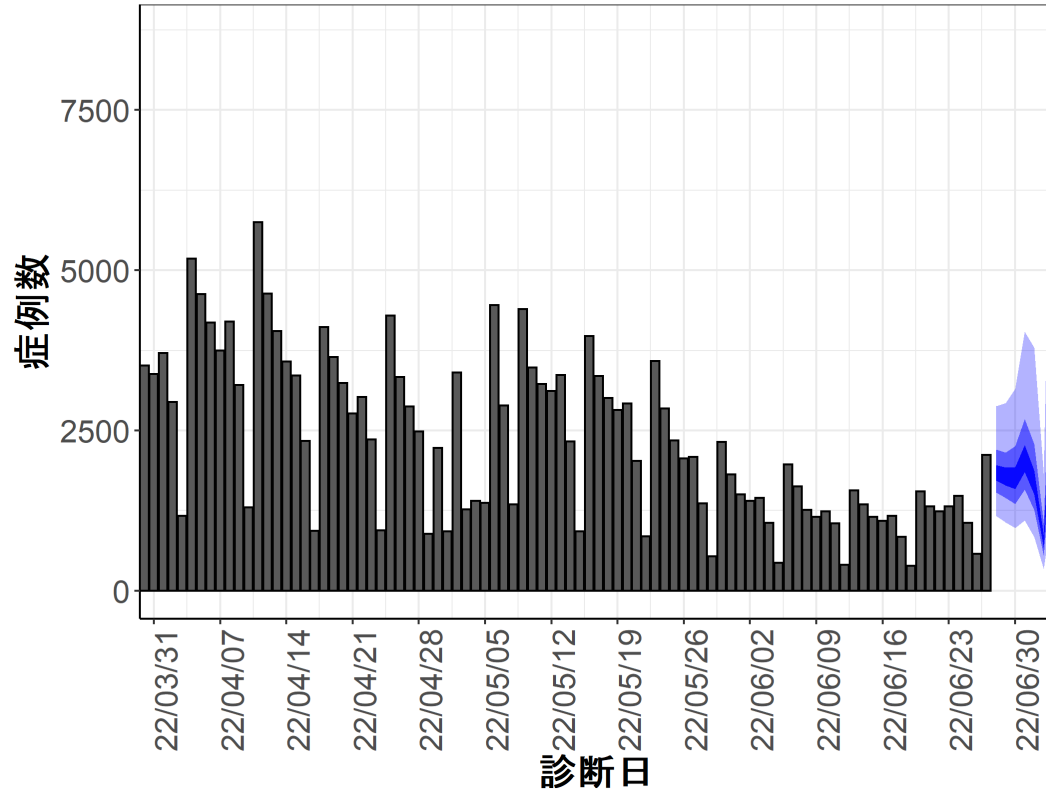
新規症例数予測：新規症例数（診断日別）はHER-SYSに入力された値を用い、RパッケージEpiNow2を用いて予測値を推定した<sup>1</sup>。  
 （英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>2</sup>、国内の積極的疫学調査により得られたオミクロン株に推定された潜伏期間、HER-SYSから推定された発症から診断までにかかる日数をパラメータとして設定）  
 図の青帯は外側から90%、50%、20%信用区間を示す。オミクロン株の感染伝播性と免疫逃避、感染対策、行動変容による影響等については明示的に考慮されておらず、あくまで一定のアルゴリズムから推定された値であり、今後の対策を検討する際の一助として活用されることを想定している。

<sup>1</sup> <https://github.com/epiforecasts/EpiNow2>

<sup>2</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)

# 新規症例数の予測値：大阪府

## 大阪府



### 7日間の新規症例数予測値

日付	推定中央値
2022-06-28	1836
2022-06-29	1779
2022-06-30	1747
2022-07-01	2060.5
2022-07-02	1682
2022-07-03	769
2022-07-04	3335

新規症例数は、一定の確率（90%、50%、20%）で青い帯の幅の範囲内に収まることが期待される。推定中央値は、あくまでも参考である。

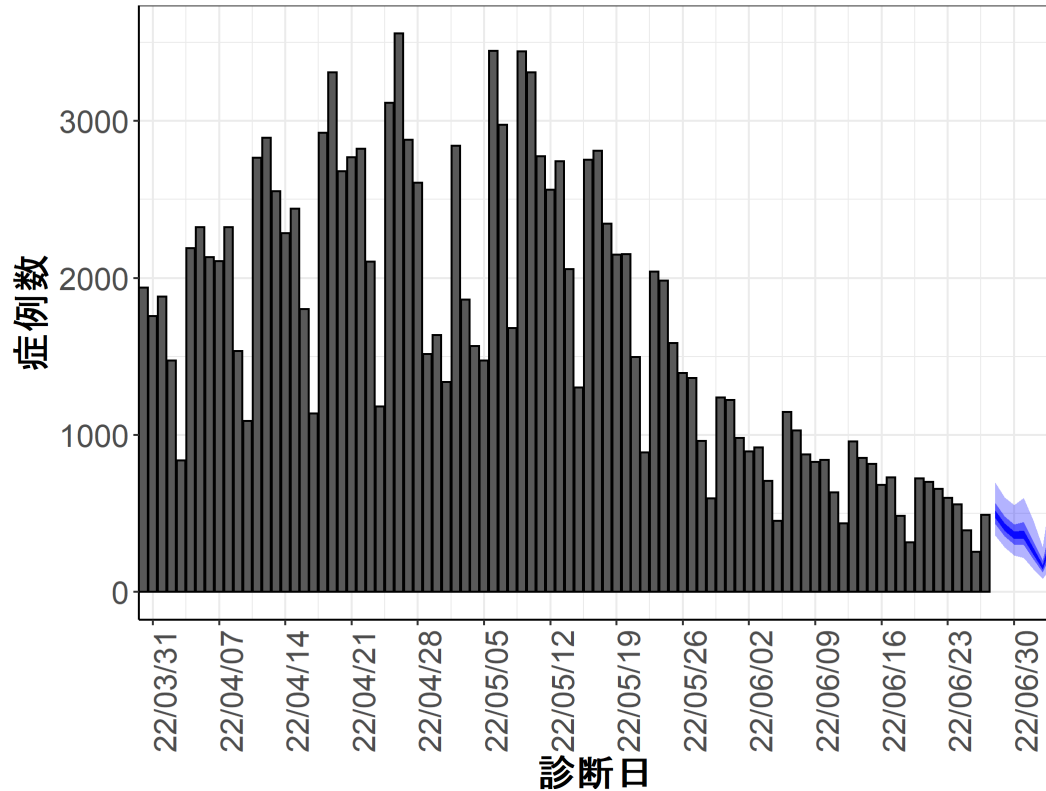
新規症例数予測：新規症例数（診断日別）はHER-SYSに入力された値を用い、RパッケージEpiNow2を用いて予測値を推定した<sup>1</sup>。（英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>2</sup>、国内の積極的疫学調査により得られたオミクロン株に推定された潜伏期間、HER-SYSから推定された発症から診断までにかかる日数をパラメータとして設定）  
 図の青帯は外側から90%、50%、20%信用区間を示す。オミクロン株の感染伝播性と免疫逃避、感染対策、行動変容による影響等については明示的に考慮されておらず、あくまで一定のアルゴリズムから推定された値であり、今後の対策を検討する際の一助として活用されることを想定している。

<sup>1</sup> <https://github.com/epiforecasts/EpiNow2>

<sup>2</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)

# 新規症例数の予測値：北海道

## 北海道



7日間の新規症例数予測値

日付	推定中央値
2022-06-28	492
2022-06-29	410
2022-06-30	362
2022-07-01	363
2022-07-02	260
2022-07-03	157
2022-07-04	343

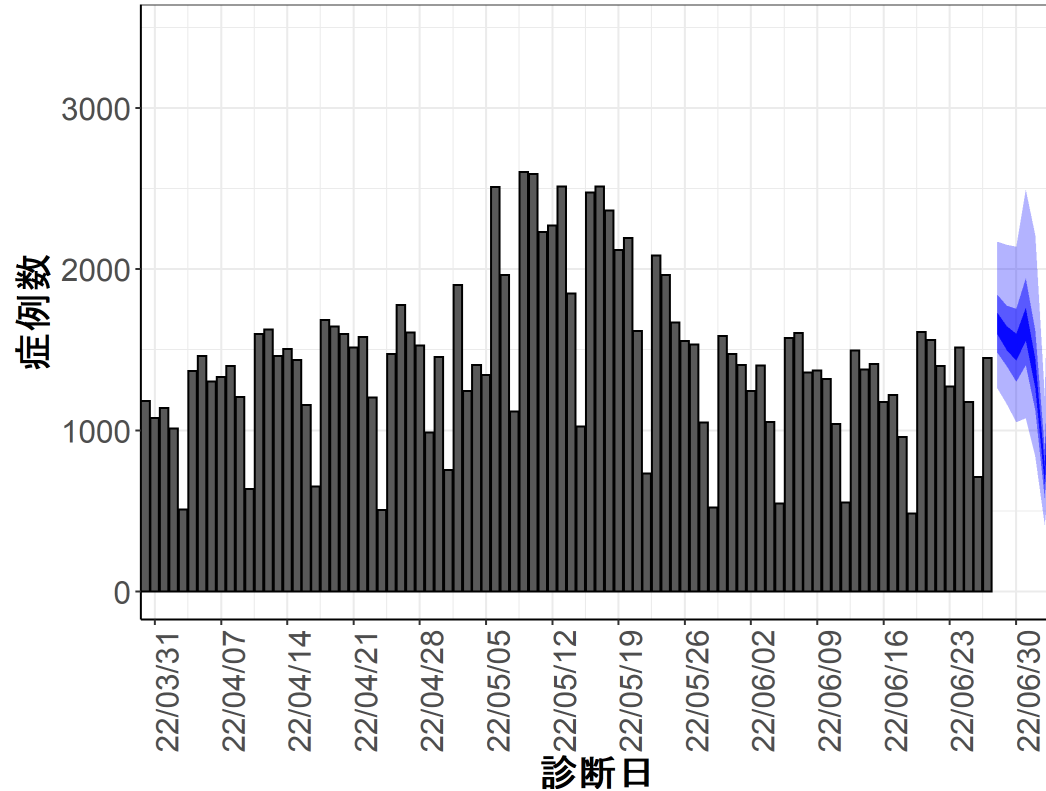
新規症例数は、一定の確率（90%、50%、20%）で青い帯の幅の範囲内に収まることが期待される。推定中央値は、あくまでも参考である。

新規症例数予測：新規症例数（診断日別）はHER-SYSに入力された値を用い、RパッケージEpiNow2を用いて予測値を推定した<sup>1</sup>。（英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>2</sup>、国内の積極的疫学調査により得られたオミクロン株に推定された潜伏期間、HER-SYSから推定された発症から診断までにかかる日数をパラメータとして設定）  
 図の青帯は外側から90%、50%、20%信用区間を示す。オミクロン株の感染伝播性と免疫逃避、感染対策、行動変容による影響等については明示的に考慮されておらず、あくまで一定のアルゴリズムから推定された値であり、今後の対策を検討する際の一助として活用されることを想定している。

<sup>1</sup> <https://github.com/epiforecasts/EpiNow2>  
<sup>2</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)

# 新規症例数の予測値：沖縄県

## 沖縄県



### 7日間の新規症例数予測値

日付	推定中央値
2022-06-28	1664
2022-06-29	1571
2022-06-30	1517
2022-07-01	1654
2022-07-02	1355
2022-07-03	717
2022-07-04	1932.5

新規症例数は、一定の確率（90%、50%、20%）で青い帯の幅の範囲内に収まることが期待される。推定中央値は、あくまでも参考である。

新規症例数予測：新規症例数（診断日別）はHER-SYSに入力された値を用い、RパッケージEpiNow2を用いて予測値を推定した<sup>1</sup>。（英国から報告されたオミクロン株の世代時間<sup>2</sup>、国内の積極的疫学調査により得られたオミクロン株に推定された潜伏期間、HER-SYSから推定された発症から診断までにかかる日数をパラメータとして設定）  
 図の青帯は外側から90%、50%、20%信用区間を示す。オミクロン株の感染伝播性と免疫逃避、感染対策、行動変容による影響等については明示的に考慮されておらず、あくまで一定のアルゴリズムから推定された値であり、今後の対策を検討する際の一助として活用されることを想定している。

<sup>1</sup> <https://github.com/epiforecasts/EpiNow2>

<sup>2</sup> [http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating\\_Generation\\_Time\\_Of\\_Omicron](http://sonorouschocolate.com/covid19/index.php?title=Estimating_Generation_Time_Of_Omicron)



## 使用データ

HER-SYS（6月27日時点）

## まとめ

2021年第14週から2022年第25週までの全国データを用いて、24歳以下における週別の年齢群別報告数と割合を記述的に検討した。

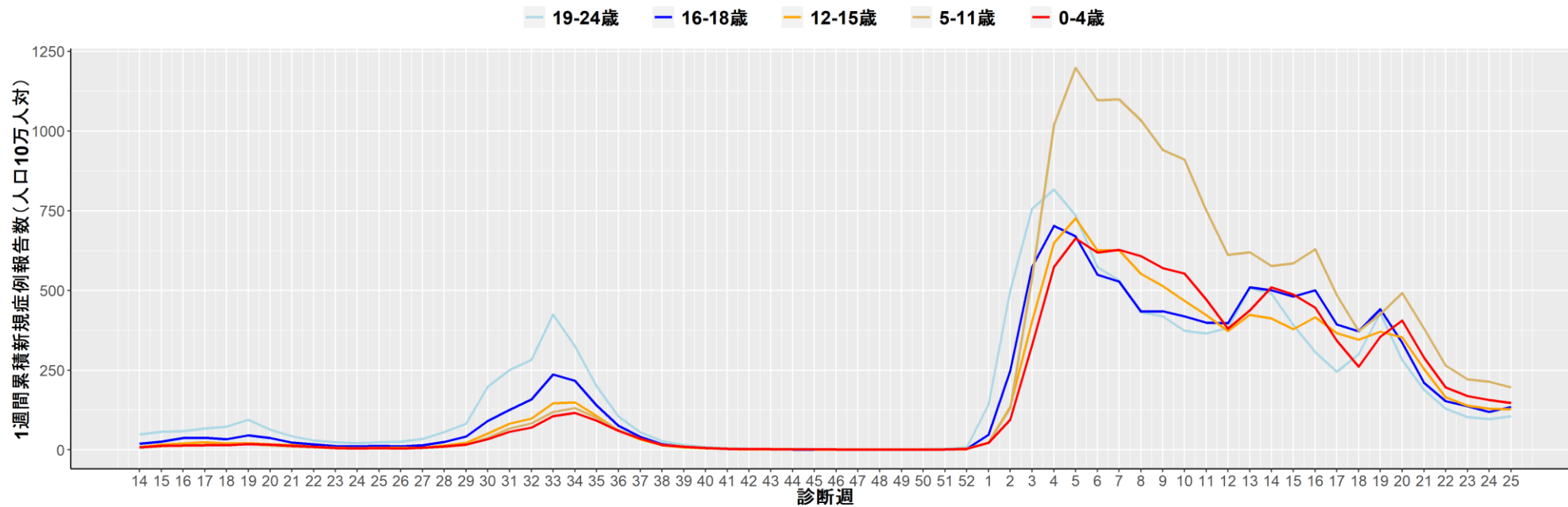
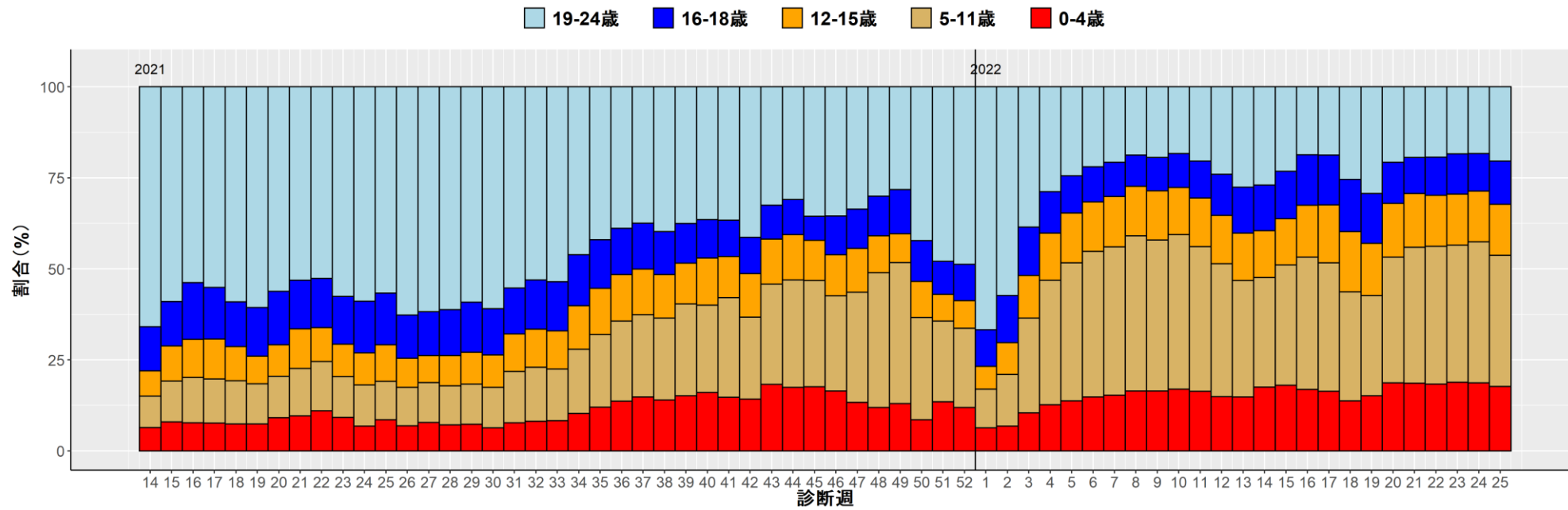
24歳以下における18歳以下の小児の占める割合は2021年第31週まではほぼ横ばいであり、その後第32～49週にかけて特に0～4歳代、5～11歳代で増加した。第50週以降は19～24歳代の割合が増加傾向にあり、2022年第1週から第10週まで減少傾向に転じたが、直近は全ての年代の割合で横ばい傾向にある。

新規症例報告数は、2022年第1週から第18週までは5～11歳代がそれ以外の年齢群を大きく上回っていたが、第19週以降も他の年齢群を上回っている。2022年第25週の症例報告数は5～11歳代、0～4歳代、16～18歳代、12～15歳代、19～24歳代の順となっている。第20週以降全年代で減少傾向がみられたが、直近はこの16歳以上の年代で微増傾向がみられる。人口10万人対7日間累積新規症例報告数は第22週以降全年代で250を下回ったが依然高いレベルとなっている。直近では報告遅れの影響を受けている可能性があり解釈に注意を要する。

## 解釈時の注意点

- HER-SYSに基づく値は、特に直近1週間については報告遅れのために過小評価となっている可能性があるため注意が必要

# 小児流行状況モニタリング



表：2022年第24週の、遅れ報告によるバイアスを考慮した、同時点での年齢群別の前週比  
（同時点とは、6月20日現在の第24週の値と6月13日現在の第23週の値との比較）

年齢群	当該週新規症例報告数(人)	前週新規症例報告数(人)	前週比
0-4 歳	7,146	7,562	0.94
5-9 歳	10,603	10,848	0.98
10-14 歳	8,245	8,451	0.98
15-19 歳	6,570	7,313	0.90
20 代	12,428	13,103	0.95
30 代	14,956	16,129	0.93
40 代	13,503	14,125	0.96
50 代	7,496	7,745	0.97
60 代	4,627	4,810	0.96
70 代	3,326	3,337	1.00
80 代以上	3,040	3,278	0.93
計	<b>91,940</b>	<b>96,701</b>	<b>0.95</b>

出典：[https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/PDF/COVID-19\\_2022\\_w24.pdf](https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/PDF/COVID-19_2022_w24.pdf)

## 学校等欠席者・感染症情報システムについて

学校等欠席者・感染症情報システム（以下本システム）とは、出雲市で当時の国立感染症研究所（以下感染研）の研究者によって開発され、2013年から公益財団法人日本学校保健会が運営を引き継いだ学校欠席者情報収集システムと保育園サーベイランスを、2017年に統合したものである。

保育所や学校の欠席情報を職員が入力することによって、日々の欠席等の情報を保育所、学校、教育委員会、保健所、学校医、県の衛生部局等で同時に共有でき、感染症の早期のアウトブレイクの把握、リアルタイムな感染症の流行状況把握が行えるというものである。

今般、COVID-19の流行により、学校現場及び保育所等のサーベイランスを行うための方策として注目された。しかしながら全国規模のサーベイランス体制としていく必要があること、学校教職員に本システムの入力率を向上していく必要があること、そのためにも、本システムの利活用のための人材育成が必要であることなど様々な課題があり、現在、厚生労働省研究班「新型コロナウイルス感染症等の感染症サーベイランス体制の抜本的拡充に向けた人材育成と感染症疫学的手法の開発研究」の分担研究課題としてシステムの改修、普及、利活用の促進に取り組んでいる。

2022年3月末の時点で、本システムに加入しているのは、全国の保育園22,704中11,702（51.5%）、こども園8,585中2,836（33.0%）、幼稚園9,204中3,153（34.1%）、小学校19,336中12,007（62.1%）、中学校10,076中6022（59.8%）、高等学校4,856中3,438（70.8%）、特別支援学校1,160中994（85.7%）だった。

厚生労働省研究班「新型コロナウイルス感染症等の感染症サーベイランス体制の抜本的拡充に向けた人材育成と感染症疫学的手法の開発研究」分担課題  
日本学校保健会、国立感染症研究所



## 学校欠席者の状況について：6月27日時点

方法：学校等欠席者・感染症情報システムから加入施設のデータを抽出し、登録児童数ごとの欠席者を日毎にグラフ化した。

SARS-CoV2感染症の関連欠席として、①発熱等による欠席、②家族等のかぜ症状による欠席、③濃厚接触者、④新型コロナウイルス感染症、⑤教育委員会などによる指示、⑥陽性者との接触があり新型コロナウイルス感染症が疑われるの6つが収集されている。これらの欠席はいずれも「出席停止扱い」である。東京都、愛知県、大阪府の2021年7月1日から2022年6月27日までの登録児童あたりの欠席率を施設ごとにプロットした。また施設ごとの④新型コロナウイルス感染症での欠席率を週ごと都道府県ごとにプロットした。

評価：

- 3都府県のすべての施設では直近1週間に新型コロナウイルス感染症による欠席者が報告された。トレンドとしては横ばい傾向で推移していると考えられる。
- 接触者等の集計は、流行に対する不安による欠席などを含んでいるために過大評価されている可能性がある。
- 全国的にすべての施設群で新型コロナウイルス感染症による欠席率が継続して観察されており、第5波と比べると長く高いトレンドである。施設群別にみると小学生が最も高く、中学生と高校生が続く。直近1週間では沖縄県を含む九州地方など例外はあるが低い欠席率で推移している。
- 流行のトレンドにはシステム加入校数の大小や報告遅れが影響している可能性に留意する必要がある。

# 学校等欠席者・感染症情報システム：6月27日時点

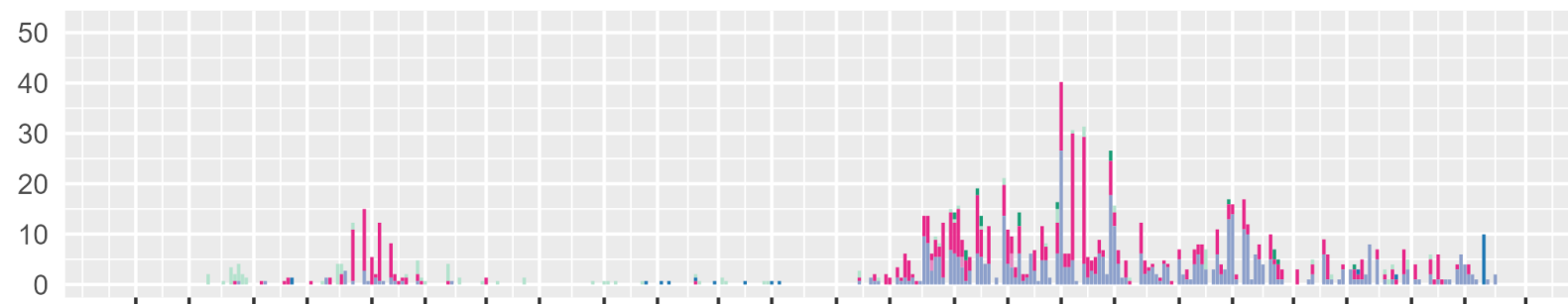
## 東京都における新型コロナウイルス感染症関連欠席者(登録児童1万人あたり欠席率)



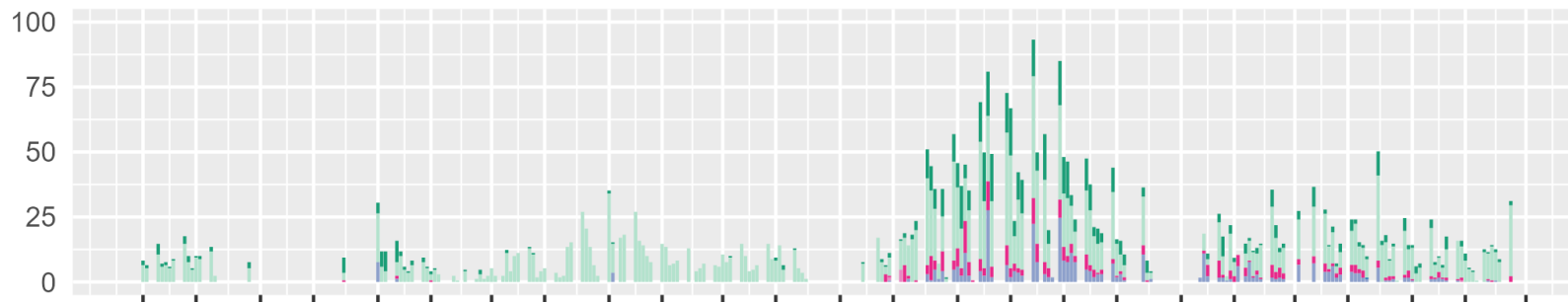
# 学校等欠席者・感染症情報システム：6月27日時点

## 愛知県における新型コロナウイルス感染症関連欠席者(登録児童1万人あたり欠席率)

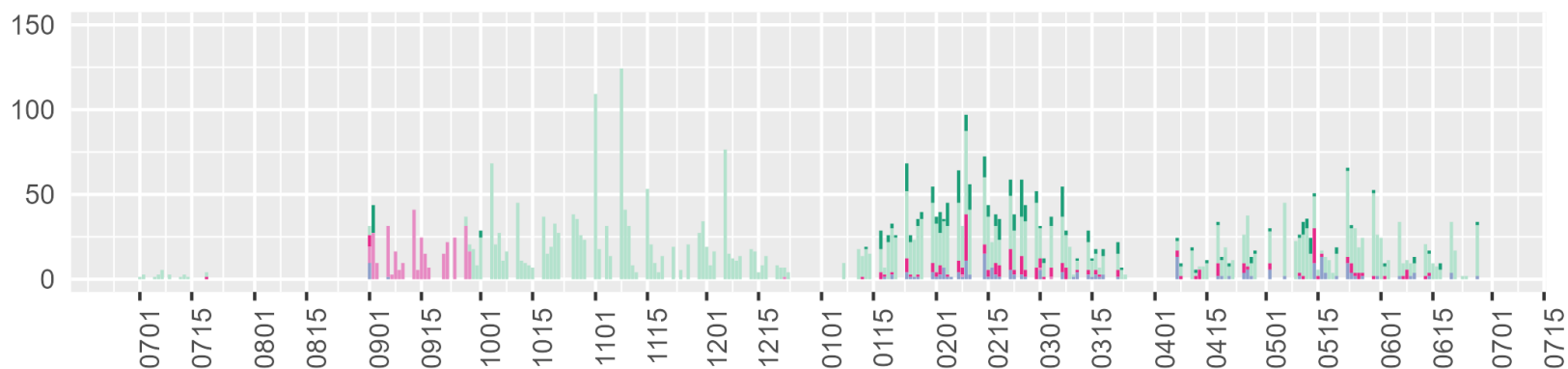
0-5歳



小学生



中学生



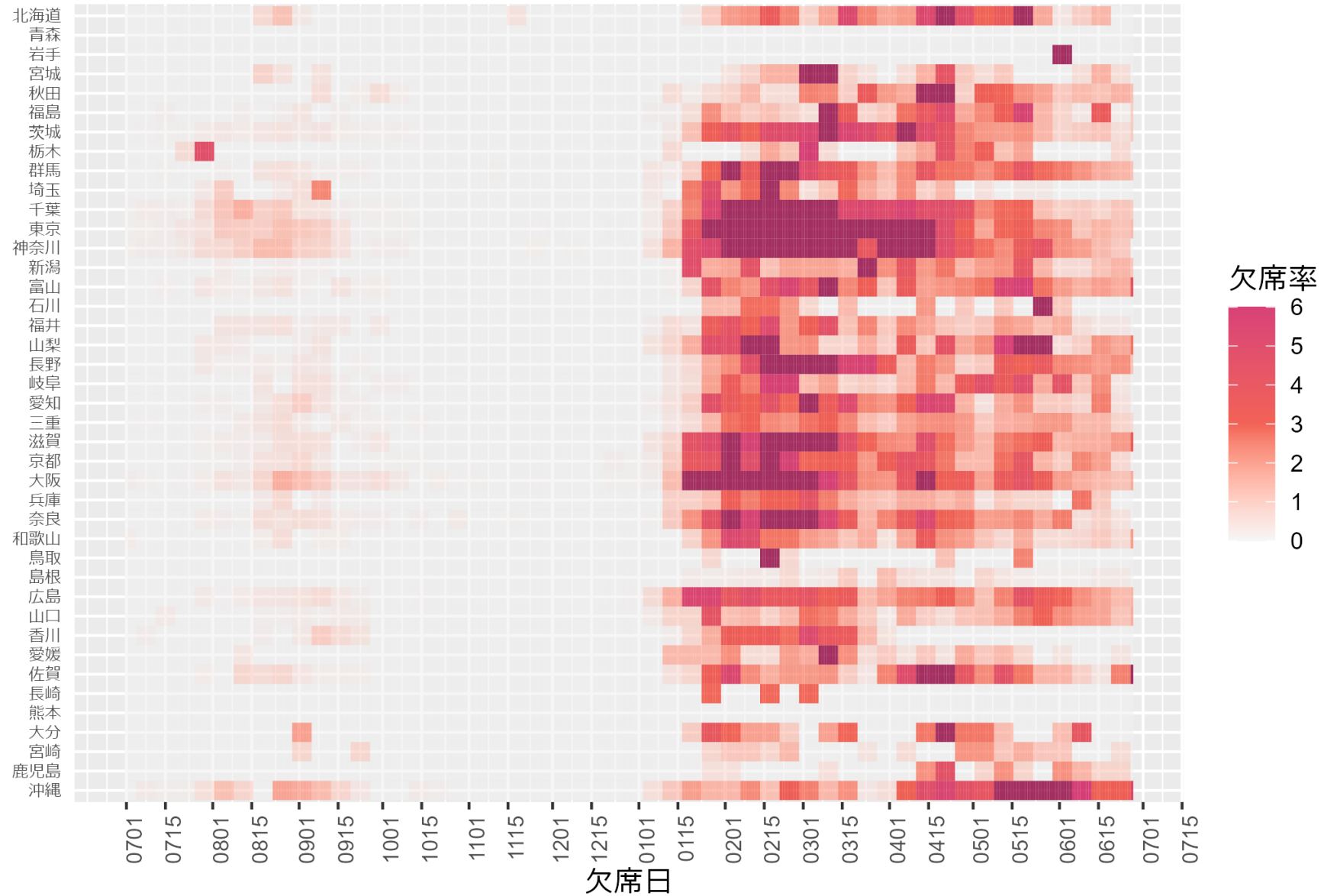
# 学校等欠席者・感染症情報システム：6月27日時点

## 大阪府における新型コロナウイルス感染症関連欠席者(登録児童1万人あたり欠席率)





# 0-5歳児における新型コロナウイルス感染症による欠席率（登録児童1万人あたり、都道府県別）











# 民間検査機関の検体に基づくゲノムサーベイランス（検証中）によるBA.2, BA.5検出の推定

## 背景

全国の変異株の発生動向を監視するためのゲノムサーベイランスの確立を目指し、今般、民間検査機関から得られた全国800（第12週までは400）検体を用いた検証を感染研で行うこととした。

## 対象

- 国内の民間検査機関2社に集められた検体
- 全国（※）で合計800検体/週を目途に検査（A社400検体/週、B社検体400/週）
- 毎日、検査機関側でA社では57（火曜日～土曜日）～115（月曜日）検体、B社では65～70（平日）、～40（土曜日）検体を抽出した後、ゲノム解析検査を実施し、感染研病原体ゲノム解析研究センターのCOG-Jpを用いたデータ解析後に、週ごとに感染研病原体ゲノム解析研究センターに報告（同時に感染研病原体ゲノム解析研究センターでもCOG-Jpで共有されたデータを解析）

※ A社では、全国一律の検体プールからランダムに抽出。B社では、10のエリアに分けた地域ごとにサンプル数を決め、地域ごとにランダムに抽出。地域性を一定程度考慮しているが、分布については検討中。

## BA.2およびBA.5検出率解析方法

- ゲノム解析データを基に、PANGO lineageを決定（病原体ゲノム解析研究センターで実施）。
- 最終的に全てのウイルスがオミクロン株BA.2、BA.5に置き換わることを前提に、Lineageが判明した検体数（解析不能分を除く）に占めるBA.2、BA.5検出検体の割合について、ロジスティック成長モデルにフィットさせ推定を行った。また、各系統・株の検出割合について、多項ロジスティック回帰モデルにフィットさせ推定を行った。

## 特徴

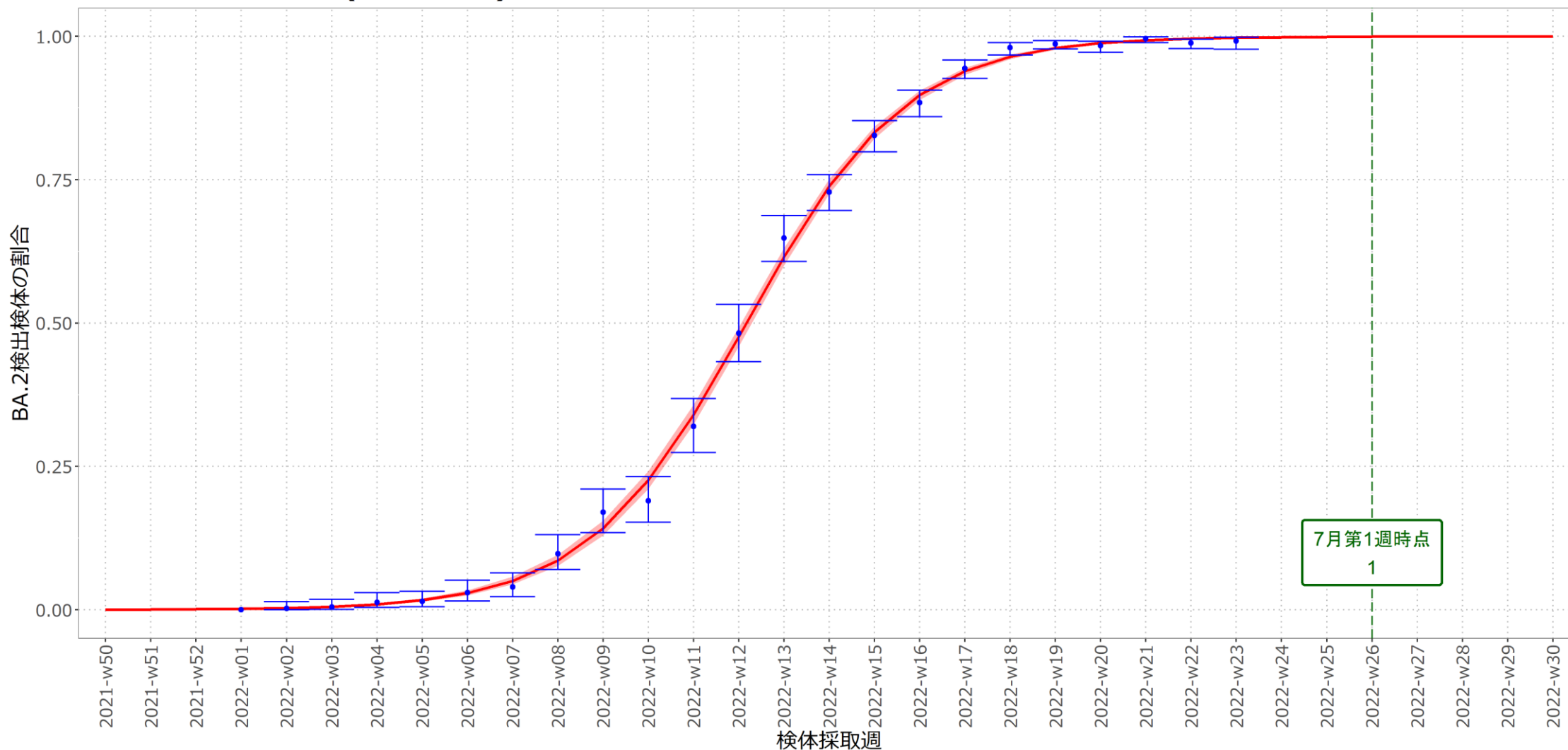
- 都道府県別のランダムな対象の抽出に厳密な基準を設定していないこと、及び各地域の対象数を考慮すると、地域（都道府県別）の偏りについては検査時点では考慮不可（後に判明）であり、地域ごとの代表性の確保はできない（原則、全国と限られた地域での分析のみ考慮）。
- 本サーベイランスの対象は、民間検査機関に集められた検体で、個別に医療機関を受診した症例の検査検体が中心であり、集団発生の影響が比較的少なく、実際の地域の感染状況を反映しやすいと考えられる。
- GISAIDのデータより、1～2週間早く解析できる。
- 今後、実際のBA.2、BA.5検出の推移と本推定との検証が必要。

## 検証の中間評価

- 検査会社により検体の抽出方法は異なるが、全国一律の検体プールからランダムに抽出するA社に限定した場合でも全国的な傾向は同様であった。

# BA.2検出割合の推移（6月23日時点データ）

## BA.2検出割合の推移(検体採取週)



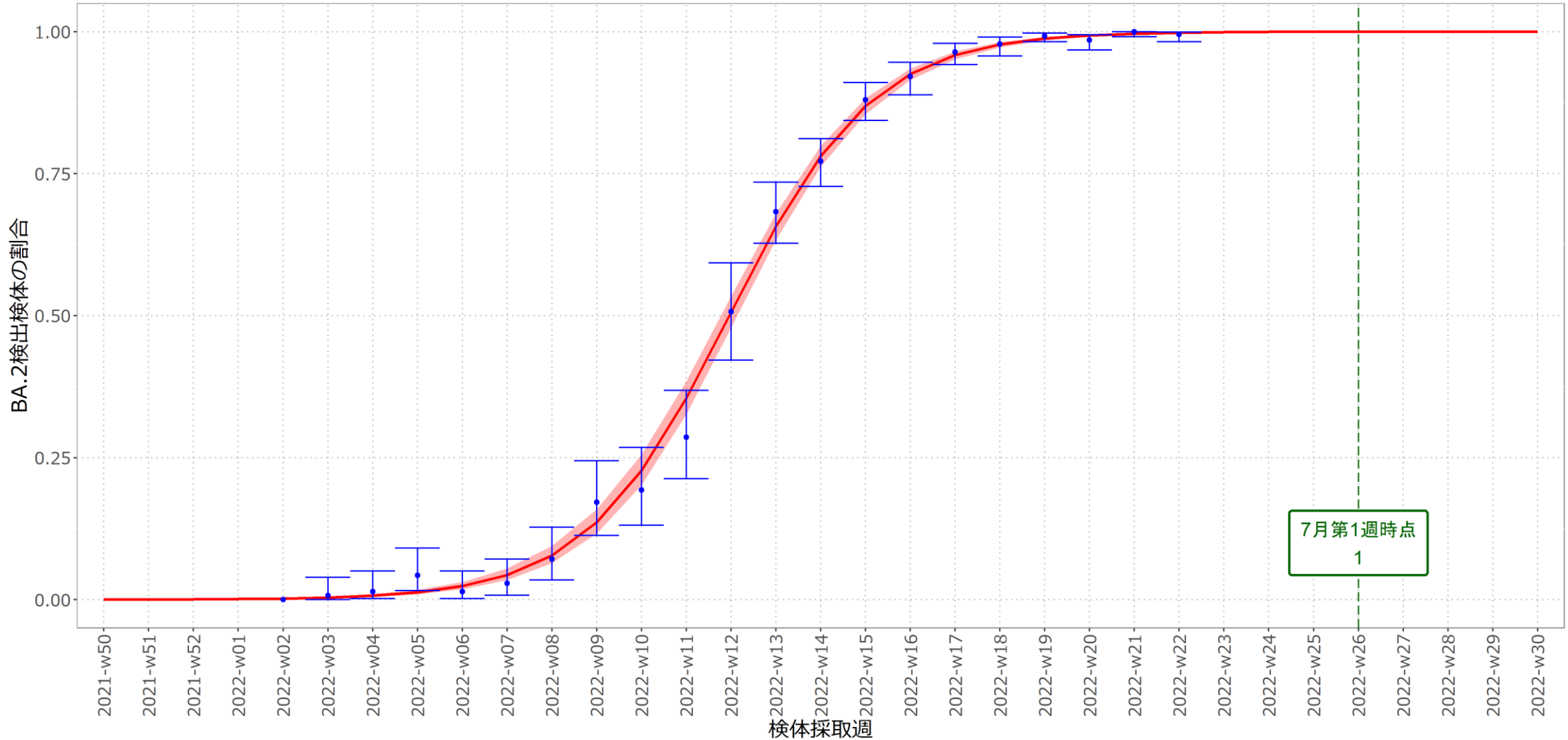
BA.2検出数	NA	NA	NA	0	1	2	5	6	12	16	39	68	76	128	193	365	587	655	688	796	749	1039	787	797	779	385	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
総検査数	NA	NA	NA	2	396	400	386	401	403	399	400	400	400	400	400	563	806	792	778	843	764	1053	800	800	788	388	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

青点は検体採取週ごとのBA.2検出割合、青バーは95%信頼区間の上限と下限を表す。最終的にすべてのウイルスがBA.2（下位系統を含む）に置き換わることを前提とし、置き換わりの推定を赤ライン、95%信頼区間を淡赤帯で示す。

※第19週は民間検査会社1社について、感染研への週ごとの報告日が切り替わったことに伴い、検体数が一時的に増えている。

# (参考) 協力会社別：BA.2検出割合の推移（6月23日時点データ）

## BA.2検出割合の推移(検体採取週)：A社



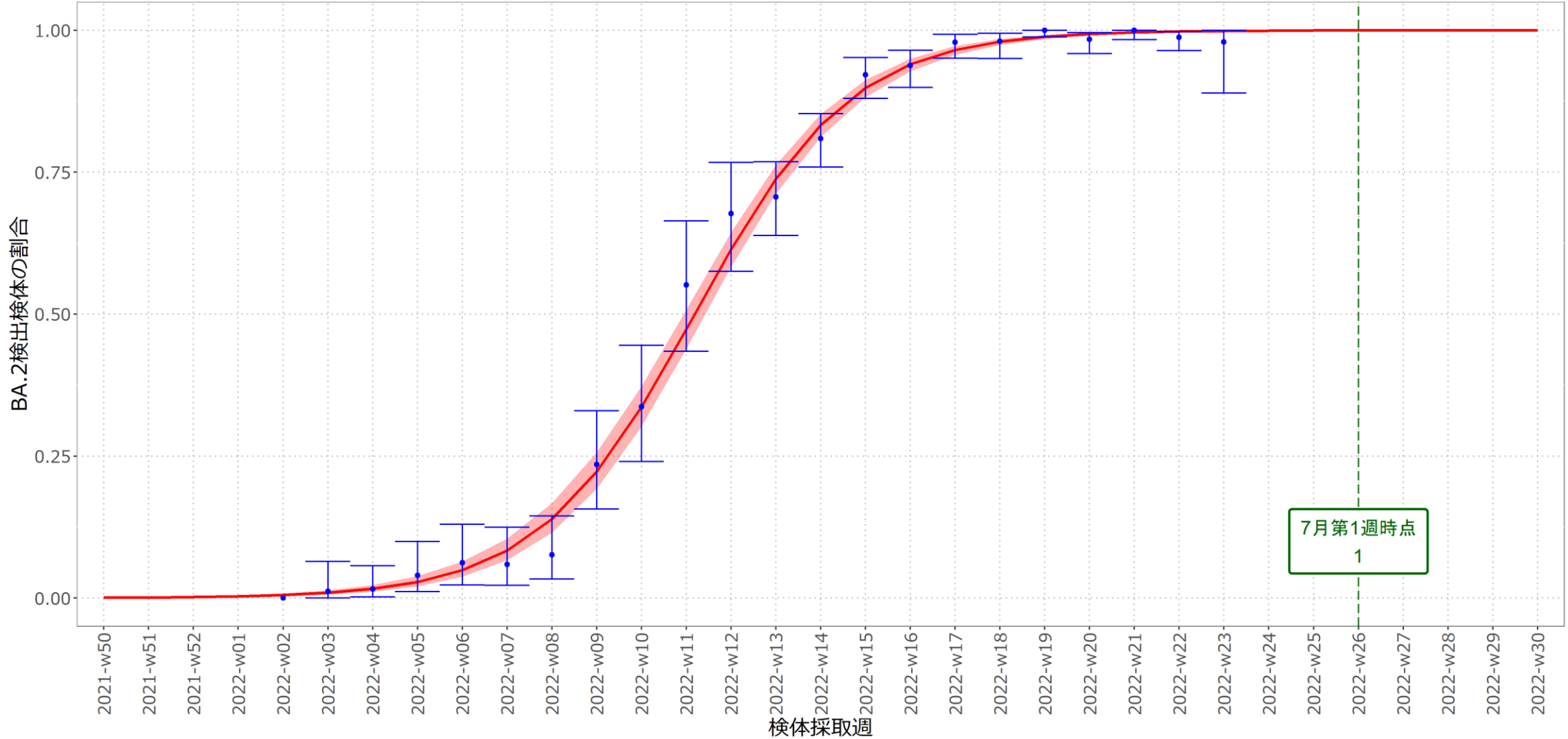
7月第1週時点  
1

BA.2検出数	NA	NA	NA	NA	0	1	2	6	2	4	10	24	27	40	71	207	314	345	348	427	356	648	394	400	395	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA		
総検査数	NA	NA	NA	NA	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	303	407	392	378	443	364	653	400	400	397	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

検査会社によって各地域からの検査検体の抽出方法が異なるが、全国一律の検体プールからランダムに抽出するA社に限定した場合でも全国的な傾向は同様である

# 地域別：BA.2検出割合の推移（6月23日時点データ）

## BA.2検出割合の推移(検体採取週)：関東（1都3県）



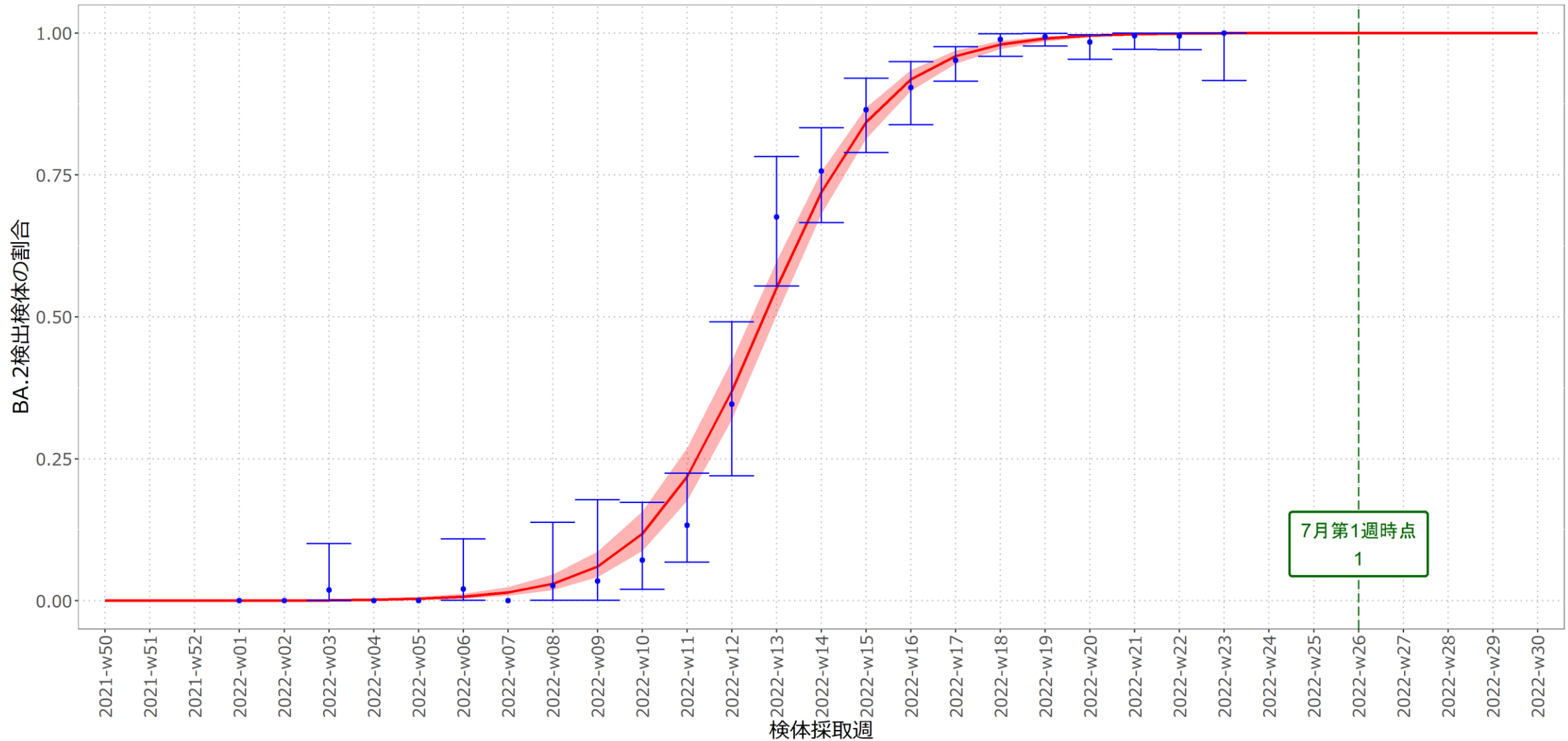
7月第1週時点  
1

BA.2検出数	NA	NA	NA	NA	0	1	2	4	6	6	8	24	30	43	67	142	233	222	226	227	199	308	243	219	239	47	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	
総検査数	NA	NA	NA	NA	44	84	124	100	97	101	105	102	89	78	99	201	288	241	241	232	203	308	247	219	242	48	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA



# 地域別：BA.2検出割合の推移（6月23日時点データ）

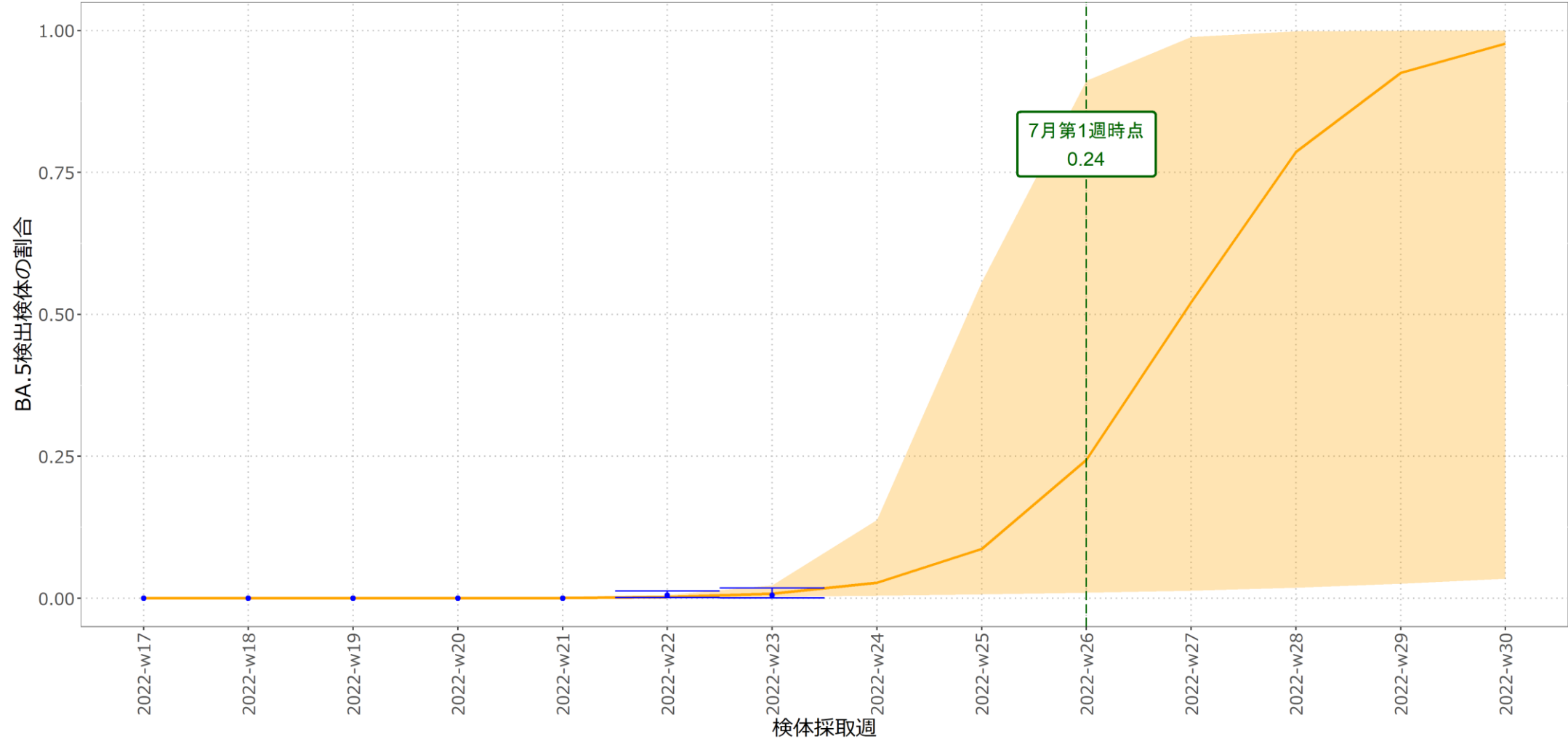
## BA.2検出割合の推移(検体採取週)：関西（2府1県）



BA.2検出数	NA	NA	NA	0	0	1	0	0	1	0	1	1	4	11	18	48	84	102	113	216	171	308	184	191	187	42	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
総検査数	NA	NA	NA	2	77	53	27	26	49	29	38	29	56	83	52	71	111	118	125	227	173	310	187	192	188	42	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

# BA.5検出割合の推移（6月23日時点データ）

## BA.5検出割合の推移(検体採取週)



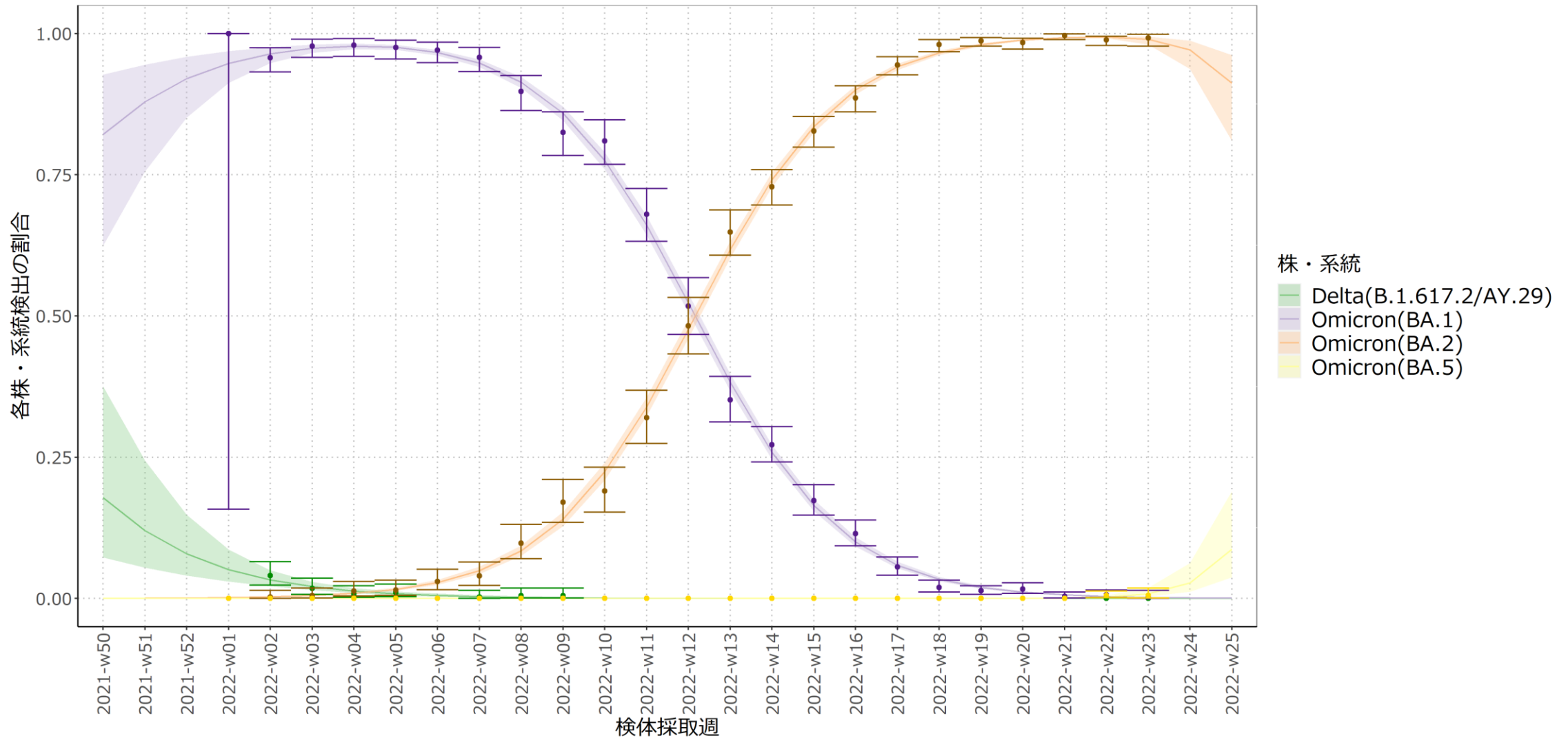
BA.5検出数	0	0	0	0	0	4	2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
総検査数	843	764	1053	800	800	788	388	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

青点は検体採取週ごとのBA.5検出割合、青バーは95%信頼区間の上限と下限を表す。最終的にすべてのウイルスがBA.5に置き換わることを前提とし、置き換わりの推定を橙ライン、95%信頼区間を淡橙帯で示す。

なお、BA.5の検出数が現時点で少ないため、直近及び将来的な推定の不確実性が高い（信頼区間が広い）ことに注意されたい。

# 各株・系統検出割合の推移（6月16日時点データ）-多項ロジスティック回帰モデルの曲線にフィット-

## 検出割合の推定(検体採取週)



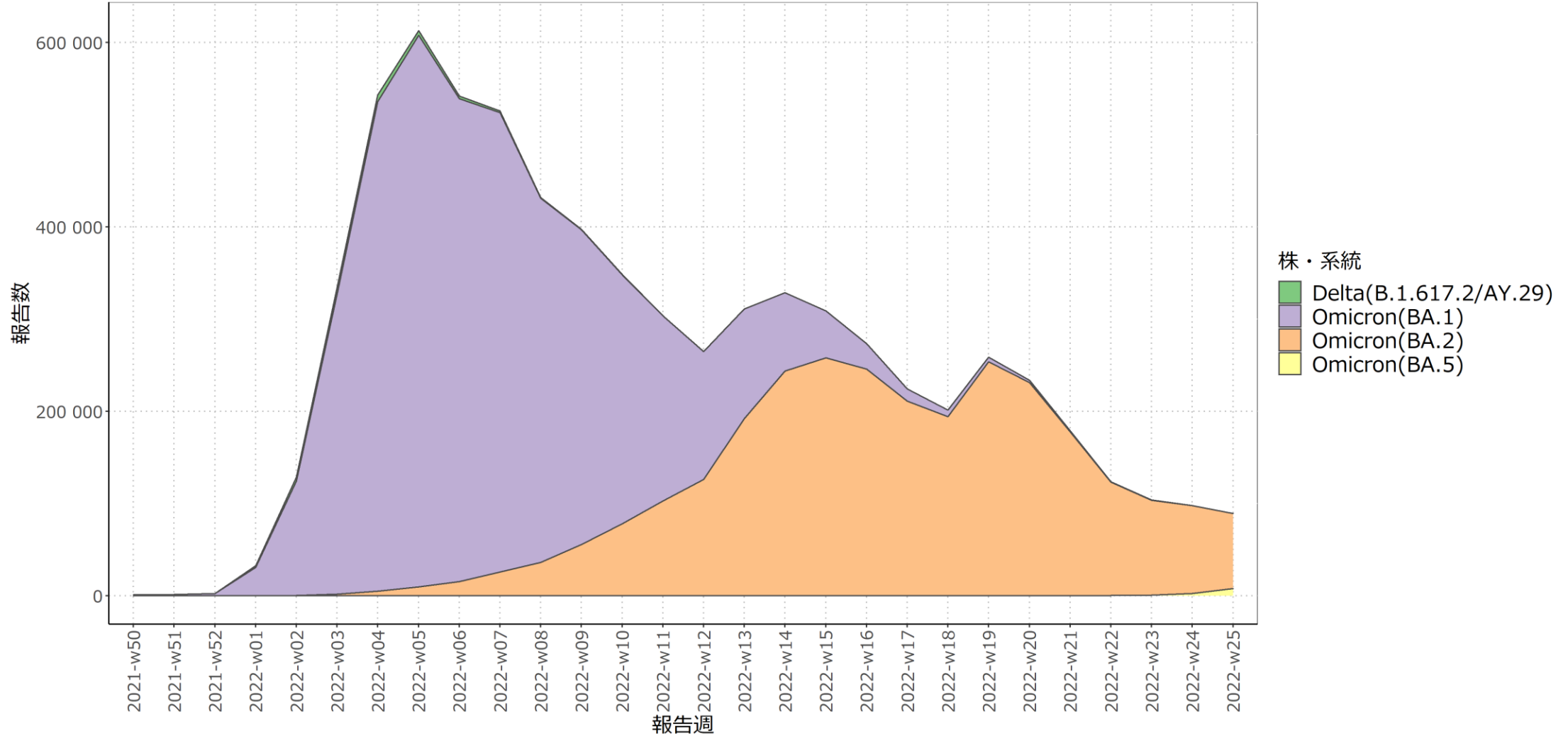
点は検体採取週ごとの各株・系統の検出割合、バーは95%信頼区間の上限と下限を表す。各株・系統が占める割合の推定を各色ライン、95%信頼区間を淡色帯で示す。

Omicron(BA.2)はBA.2およびその下位系統を含む。Omicron(BA.1)はBA.1およびその下位系統を含む

なお、BA.5の検出数が現時点で少ないため、直近及び将来的な推定の不確実性が高い（信頼区間が広い）ことに注意されたい。

# 各株・系統の患者報告数の推定（6月26日時点）

## 週別報告数（全国）



民間検査機関の検体に基づくゲノムサーベイランスにより検出された各株・系統について、多項ロジスティック回帰モデルにフィットし、推定した各株・系統の割合を厚生労働省発表のCOVID-19新規陽性者数（<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>）に乗じることでそれぞれの週ごとの患者数を推定した。

Omicron(BA.2)はBA.2およびその下位系統を含む。Omicron(BA.1)はBA.1およびその下位系統を含む

なお、BA.5の検出数が現時点で少ないため、直近の推定の不確実性が高いことに注意されたい。